



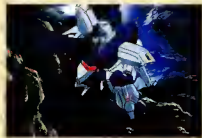
ENTERTAINMENT
BIBLE

エンターテイメント
バイブルシリーズ

スペシャリティな世界を
追求するエンタティナー
それがE・Bシリーズ!

No3

ガンダム大図鑑Part3
アクスズ戦争編



好評発売中

COVER ILLUSTRATION KENICHI ISHIBASHI

ENTERTAINMENT BIBLE.2

機動戦士ガンダム

MS大図鑑

[PART.2 グリプス戦争編]



ENTERTAINMENT BIBLE

EB
ENTERTAINMENT
BIBLE

2

機動戦士
ガンダム

MS大図鑑

[PART.2 グリプス戦争編]

BANDAI

機動戦士ガンダム
MS大図鑑
 【PART.2 グリプス戦争編】



【Mobil Suit Z GUNDAM】
 【Mobil Suit GUNDAM ZZ】
 【Z-Mobil Suit Variation】
 【ZZ-Mobil Suit Variation】

定価**721**円
 (本体700円)

ISBN4-89189-018-5 C0276 P721E

近藤和久
GUNDAM
COMIC



Z
 (ゼータ)



MS
戦記



新
MS
戦記

好評発売中



機動戦士ガンダム

モビルスーツ

MS大図鑑

2

【グrips戦争編】

Illustration by Kenichi Ishibashi.

GUNDAM WAR HISTORY

.....【ガンダム戦史】

ガンダム強奪事件

1. 序 章

U.C.0087年3月2日、
返連邦政府組織A.E.U.G.の特
務部隊が、サイド7第1号バ
ンチ・グリーンオアシス1^グ
(グリプス1)でテスト飛行
中であった新型MS、RX-1
78ガンダムMK-II3機を
強奪し逃走した。

エウーゴの目的は、ティタ
ーンズが開発していた新型機
のデータを入手すること、
連邦軍にもその存在が知られ
ていない新造巡洋艦アーガマ
1隻と、新型MS、RMS-0
99リック・ディアス3機を
投入した。

同MS部隊の隊長は、かつ
て一年戦争において、赤い彗
星の異名を持ったシャア・ア

ティターンズは秘密にRX-78ガンダムの後継機、RX-178ガンダムMK-IIを開発していた。開発地は奇しくもRX-78と同じサイド7であった。エウーゴはこの新鋭機の情報を得るため、特別部隊を送り込んだ。

【第二章『グリプス戦争』と『第1次ネオ・ジオン抗争』】

イラスト／岡本英郎



ズナブル大佐（偽名はクワトロ・バジーナ大尉）であった。また、この時、ガンダムに乗り込み、シヤアとともに脱出した少年こそ、のちにエウーゴの再新鋭可変MS、MSZ-1006Zガンダムの正パイロットとなったカミーユ・ビダンであった。

ティターンズはこの事件を重視し、巡洋艦アレキサンドリアを出動させ、アーガマを追撃させた。数度の交戦ののちアーガマは月面で追跡を振り切ったが、ティターンズに強い警戒心を抱かせてしまった。

この事件はエウーゴのテロ行為として報道され、ティターンズの正統性を世論に訴える宣伝材料とされた。

だが、この事件も第2次宇宙大戦の前触れに過ぎなかった。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



2. 開戦

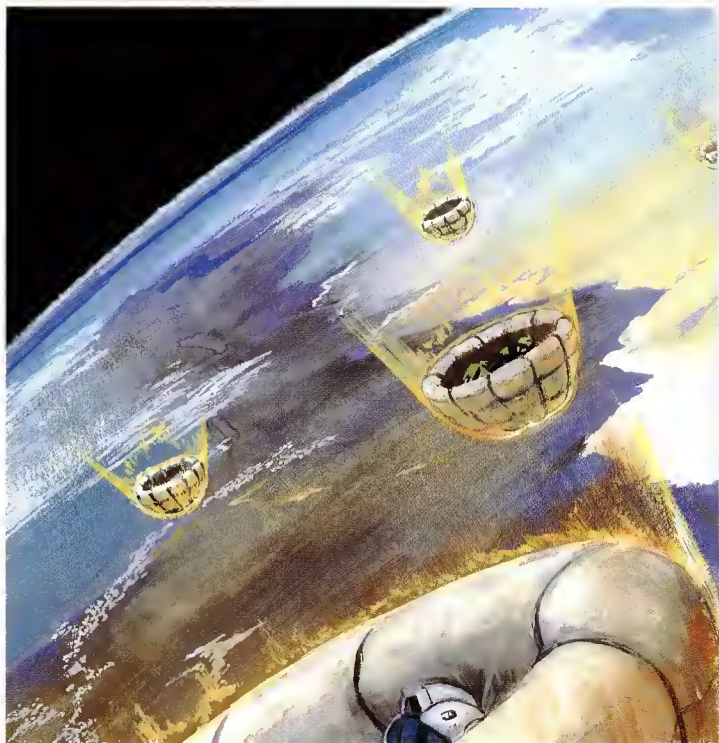
「ジャブロー降下作戦」

同年4月29日、エウーゴはMS部隊を宇宙から南米のジャブローに降下させた。ここには連邦軍総司令基地があり、MSによって武力制圧し、テイターンズの解体を要求しようという計画であった。

その準備として防空戦闘衛星を沈黙させ、太陽発電衛星を撃破し、地上の混乱に乗じて、MS部隊を降下させた。また、宇宙艦の不足を備うため、グラナダ基地の巡洋艦を奪取していた。

電撃作戦によりエウーゴのMS部隊は、防衛網をいくぐり地下の大洞窟内にある総司令本部まで進めた。しかし、そこは空であった。エウ

エウーゴはジャブロー降下作戦を開始した。およそ30機のMSがバリュートの花を開き、大気圏に突入する。これに対しティターンズのアレキサンドリア隊が阻止行動に出るが、突入中は両軍とも戦闘にはならなかった。



ーゴの攻撃を予測したティターンズが1週間前にジャブローの戦力、要人を各基地に分散退避させていたのである。この基地には旧型の兵器だけを残して……。

しかも、地下には核爆弾が仕掛けられ、エウーゴの攻撃とともに点火されることになっていた。運良く爆弾の存在に気付いたエウーゴのMS部隊は、間一髪脱出に成功した。だが、作戦に失敗し、ティターンズの勢力の強い地球に取り残され、討伐部隊の追撃の中、宇宙に脱出するのは至難の技であった。

エウーゴの地球における協力組織カラバの援助により、からくも脱出に成功するが、その間ティターンズは、連邦議会を動かし、連邦軍のティターンズ化を進めていた。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



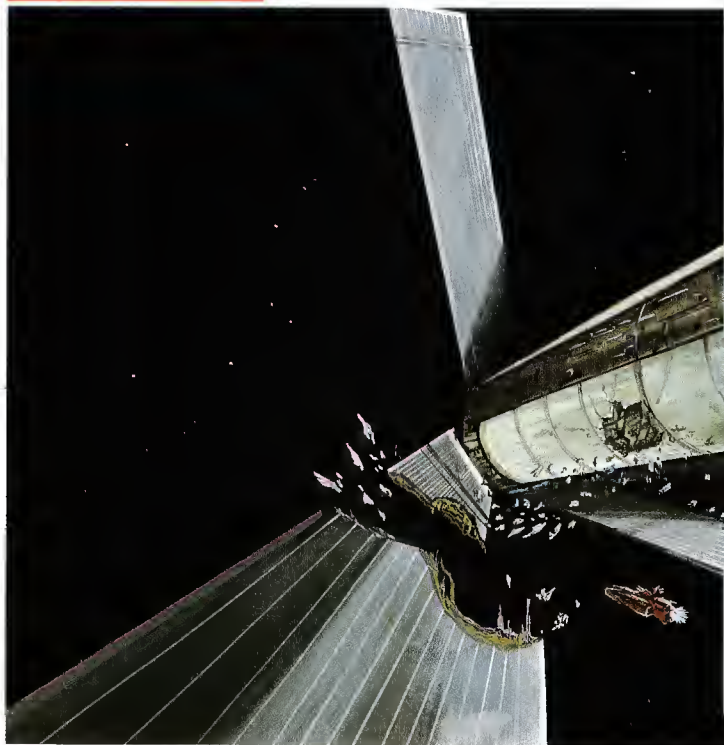
3. 無差別攻撃

コロニーザーズ

同年6月8日、ティターンズは、軍事コロニーであるグリプス2と旧ア・バオア・クーをルナII宙域に集結させ、宇宙における拠点を完成させた。コードネームは「ゼダンの門」である。

そして、連邦軍のティターンズ化を押し進める一方、ジャブロー攻撃の報復として、エウーゴの拠点と思われる月面都市やコロニーを次々に攻撃した。しかも、通常の方法ばかりではなく、南極条約で禁止された毒ガス兵器や、コロニー落としを行い、直接的に関係のない一般市民をも巻きこえた皆殺し作戦を実行した。物量で劣るエウーゴは

0087年12月7日、ティターンズのコロニーレーザーにより、サイド2・18バンチは壊滅し、住民も全員死亡した。直径3キロメートルのレーザーがコロニーの外壁を貫通し、内部の空気を瞬時に奪ったのである。



ゲリラ的にこの非道な作戦の阻止に回ったが、広大な地球圏全てに目が届くわけもなかった。

だが、ティターンズの暴挙を訴えるシャア・アズナブルの演説により、ティターンズは孤立し、指導者であるジャミトフ・ハイマン准将も同年11月、地球を追われ、ゼダンの門に移らざるをえなかった。彼には切札があった。

グリプス2を改造したコロニーレーザー砲が完成していたのだ。前大戦に投入されたものより性能がすぐれ、遠く離れたコロニーをも狙い撃ちが可能で、再発射のための冷却・再充填時間も大幅に短縮されたのである。エウゴはまさにスペースノイド全体を人質に取られた状態に陥ったのであった。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



4. 決戦

「クリプス戦役」

0088年1月18日、アステロイドから帰還したジオンの残党軍「アクシズ」は、ゼダンの門の旧ア・バオア・クーに、核パルス推進機械を装備した小惑星アクシズを衝突させ、破壊した。

アクシズはこの戦争に対し、両陣とも同盟は結ばず、第3勢力として参戦したのだ。

同年2月2日、エウーゴはメルシュトローム作戦を発動し、アクシズの手に落ちたコロニーレーザー砲を奪回した。だが、指導者であるハマーン・カーンは、再び小惑星アクシズを動かし、エウーゴの本拠である月面のグラナダに落そうとした。この作戦は

グリプス戦役では、エウーゴ、アクシズ、ティターンズ全てを集めれば、300隻を越す宇宙艦が互いに砲火を交えた。激しい火線と爆光の中、コロニーレーザーは最後の光を放って爆発した。



コロニーレーザーによりその落下コースをそらすことに成功し、グラナダを守ることができた。

同年2月22日、ジャミトフを暗殺し、分裂寸前のティターンズをまとめ上げ、新たな指導者となったパプティマス・シロツクがアクシズと歩調を合わせ、グリプス2のエウーゴ艦隊に襲いかかった。ティターンズ、エウーゴの大半の戦力がこの宙域に集結し、大攻防戦が繰り広げられた。

指導者シロツクがMS戦で戦死し、かろうじてエウーゴは勝利を治めた。だが、両軍とも破壊的被害を受け、エウーゴの新たな指導者といわれていたシャアも行方不明となった。アクシズが撤退したのも単にコロニーレーザーが破壊されたためであった。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



5. 地球侵攻

〜第1次ネオ・ジオン抗争〜

グリアス戦役の敗北により、ティターンズは破滅し、指揮系統も元に戻った。だが、その混乱に乗じ、ネオ・ジオンと名を変えたアクシズがグリアス戦役からおよそ4ヵ月後、地球に降下部隊を送り込んだ。もちろん巡洋艦数隻による先遣隊であったが、連邦軍の攻撃はほとんどなく、容易に本隊降下のための地盤を築くことができた。これは前大戦中投降を拒み、ゲリラ化した旧公国残党の協力のおかげともいえる。

宇宙では、すでにエウーゴが壊滅状態にあると判断したハマーンが各コロニーに制圧部隊を送り込んでいた。事実

ネオ・ジオンの旗艦サダラーン他、多数の宇宙艦がダカール市の港に停泊し、市を制圧した。警備には自軍のMSの他、ゲリラとなって生き延びてきた旧公国軍の残党たちが乗る旧型MSの姿もあった。



エウーゴの反撃はなく、同年8月1日の本隊降下の際も、アーガマただ1隻しか出動しなかった。

同年8月29日、ハマーンは連邦議会のあるダカール市を無血占領した。だが、カラバとアーガマによる攻撃が行われ、ダカールを退却した。そして同年10月31日、示威行動としてイギリスのダブリンにコロニーを落した。これによって連邦政府は、サイド3（ジオン共和国）をネオ・ジオンに譲渡し、11月14日、ハマーンは宇宙に戻った。

しかし、これはザビ家の血を引くと自称するグレミー・トトの反乱を警戒したためといわれる。ハマーンはサイド3を拠点として、地球圏支配のための地盤固めに入っていた。

地球圏を手中に収めかけたハマーン・カーンは死んだ。だが、連邦、そしてエウーゴを操る資本家たちは何ら変わることはない。スペースノイドとアースノイドの関係が改められない限り、再び戦争は起きる……。



6. 終章

「ネオ・ジオン内乱」

同年12月25日、グレミー・トトはついにハマーンに反旗を翻した。「モウサ」を拠点として、サイド3の中心的コロニー「コア3」にいるハマーン軍に戦いを挑んだのである。0089年1月16日、グレミー艦隊は、小惑星モウサを前面に押し出し、コア3を攻撃した。グレミーを当面の敵としたネエル・アーガマのMS部隊がコア3内部に侵入し、グレミーを倒した。そしてモウサがコア3に衝突し、両艦隊がその余波で壊滅した。ハマーンもZZガンダムにMS戦で敗れ、戦死した。再編成し終えたエウーゴ艦隊が到着したのは、その直後である。

MS名鑑

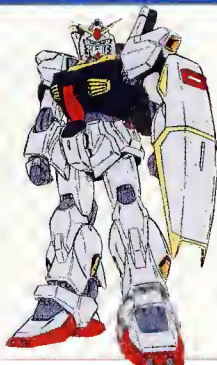
ガンダムMK-II
ネモ

RX-178
ガンダムMK-II



- ①汎用試作型MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④—

RX-178
ガンダムMK-II



- ①汎用試作型MS
- ②エウーゴ
- ③Z、ZZ
- ④ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{144}$ $\frac{1}{220}$

MSA-003
ネモ



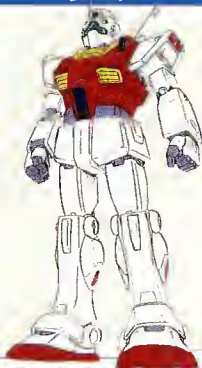
- ①迎撃用量産型MS
- ②エウーゴ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{144}$

FXA-05D+RX-178
Gティフェンサー(スーパーガンダム)

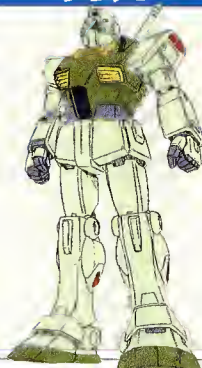


- ①MK-II専用
可変装甲ブースター
- ②エウーゴ
- ③Z ④ $\frac{1}{144}$

①分類、②所属、③登場シリーズ、④模型対応表

RGM-179
ジムⅡ

- ①汎用量産型MS
- ②連邦軍(グリプス製)
- ③Z
- ④—

RGM-79R
ジムⅡ

- ①汎用量産型MS
- ②エウーゴ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{144}$

RMS-099
リック・ティース

- ①攻撃用量産型MS
- ②エウーゴ
- ③Z
- ④—

RMS-099
リック・ティース

- ①攻撃用量産型MS
- ②エウーゴ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{144}$ $\frac{1}{220}$

MSN-100
百式



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Ζ、ΖΖ
- ④ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{144}$ $\frac{1}{220}$

MSZ-006
Ζガンダム



- ① 攻撃用試作型可変MS
- ② エウーゴ
- ③ Ζ、ΖΖ
- ④ $\frac{1}{60}$ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{144}$ $\frac{1}{220}$

MSA-005
メタス



- ① 攻撃用試作型可変MS
- ② エウーゴ
- ③ Ζ
- ④ $\frac{1}{144}$

MSK-008
ディジェ



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウーゴ(カラバ)
- ③ Ζ
- ④ $\frac{1}{144}$

RMS-106
ハイザック

- ①汎用量産型MS
- ②連邦軍
- ③Z
- ④—

RMS-106
ハイザック

- ①汎用量産型MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{144}$

RMS-108
マラサイ

- ①汎用量産型MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{144}$ $\frac{1}{220}$

RMS-106CS
ハイザック・カスタム

- ①狙撃用試作型MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④—

RMS-154
バーサム



- ①汎用量産型MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④——

RMS-117
ガルバルディβ



- ①局地戦専用MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{144}$

AMX-003
ガザC



- ①量産型可変MS
- ②アクシズ
- ③Z
- ④——

RX-160
バイアラン



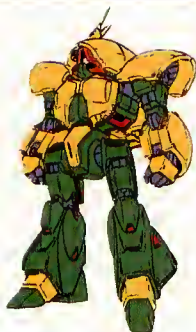
- ①局地戦専用試作MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{220}$

RX-110
ガブスレイ

- ①可変試作型MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{144}$

ORX-005
ギャプラン

- ①汎用試作型可変MA
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{144}$

NRX-044
アッシーマー

- ①汎用試作型可変MA
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{220}$

RX-139
ハンブラビ

- ①可変試作型MS
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{144}$

PMX-002
ポリノーク・サマーン



- ①汎用試作型MS
- ②ジュピトリス
- ③Z
- ④——

PMX-000
メッサーラ



- ①汎用試作型可変MA
- ②ジュピトリス
- ③Z
- ④ $1/220$

PMX-003
ジオ



- ①局地専用試作型重MS
- ②ジュピトリス
- ③Z
- ④——

PMX-001
パラス・アテネ



- ①汎用試作型重MS
- ②ジュピトリス
- ③Z
- ④ $1/144$

NRX-055-3
バウンド・ドッグ

ニュータイプ

- ① NT 専用試作型MA
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④——

NRX-055-2
バウンド・ドッグ

ニュータイプ

- ① NT 専用試作型MA
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④——

MRX-010
サイコガンダムMK-II

ニュータイプ

- ① NT 専用試作型可変MA
- ②ティターンズ
- ③Z、ZZ
- ④ $\frac{1}{220}$

MRX-009
サイコガンダム

ニュータイプ

- ① NT 専用試作型可変MA
- ②ティターンズ
- ③Z
- ④ $\frac{1}{220}$

MSZ-007
量産型Zガンダム



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

FA-178
フルアーマー・ガンダムMk-II



- ① 増加装甲装備汎用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSZ-006-X2
プロトZガンダム



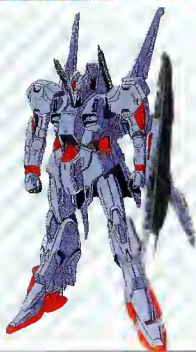
- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSZ-006-X1
プロトZガンダム



- ① 攻撃型試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSF-007
ガンダムMK-III



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSZ-008
ゼツツー



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSR-100S
百式改量産型



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSR-100S
百式改



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウーゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSA-005S
メタス改



- ① 攻撃用試作型可変MS
- ② エウゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSA-005K
ガンキャノン・ディテクター



- ① 砲撃戦用試作型MS
- ② エウゴ(カラバ)
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSK-004K
ネモⅢ



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

MSA-099-2
リック・ディアスⅡ



- ① 攻撃用試作型MS
- ② エウゴ
- ③ Z-MSV
- ④ —

AMX-004-2
キュベレイMK-II

- ニュータイプ
① NT 専用試作型MS
② ネオ・ジオン軍
③ ZZ
④ —

AMX-004
キュベレイ

- ニュータイプ
① NT 専用試作型MS
② アクシズ
③ Z, ZZ
④ $\frac{1}{220}$

AMX-004G
量産型キュベレイ

- ニュータイプ
① NT 専用試作型MS
② ネオ・ジオン軍
③ ZZ
④ —

AMX-004-3
キュベレイMK-II

- ニュータイプ
① NT 専用試作型MS
② ネオ・ジオン軍
③ ZZ
④ —

FA-010S
フルアーマーZZガンダム



- ①汎用試作型可変重MS
- ②エウーゴ
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

MSZ-010
ZZガンダム



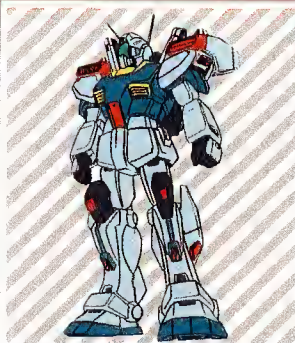
- ①汎用試作型可変MS
- ②エウーゴ
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{144}$

RMS-099B
シュツルム・ティース



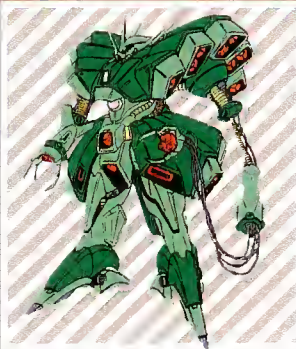
- ①攻撃用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④—

RGM-86R
ジムIII



- ①汎用量産型MS
- ②エウーゴ
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-103
ハンマ・ハンマ



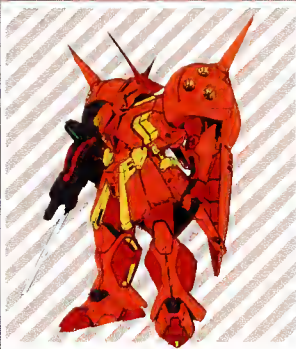
- ①騎士専用試作型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-101
ガルスJ



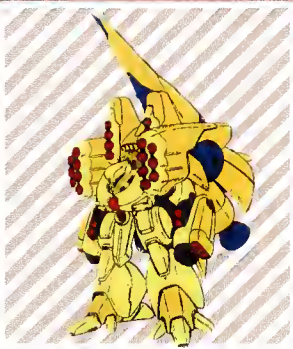
- ①局地戦用試作型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-104
R・ジャジャ



- ①騎士専用試作型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-102
ズサ



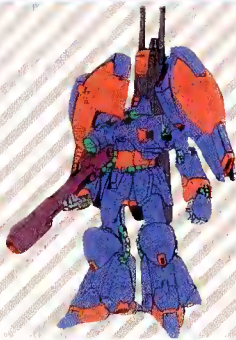
- ①砲撃用試作型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-008
ガ・ソウム



- ①汎用量産型可変MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-006
ガザD



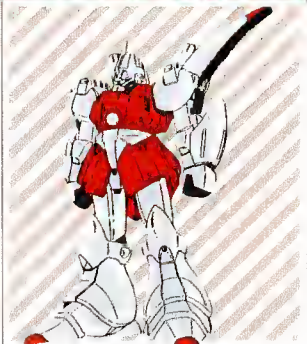
- ①汎用量産型可変MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-117L
ガズエル



- ①汎用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-117R
ガズアル



- ①汎用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

MS-09G
ドワッジ

- ① 陸戦用量産型MS
- ② 旧公国軍
- ③ ZZ
- ④ 1/144

MS-14J
リゲルグ

- ① 汎用量産型MS
- ② ネオ・ジオン軍
- ③ ZZ
- ④ 1/144

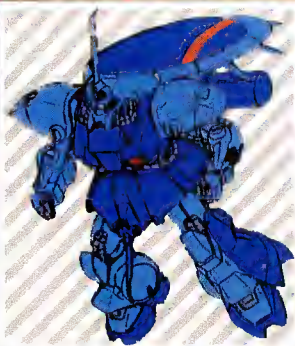
AMX-009
ドライセン

- ① 汎用量産型MS
- ② ネオ・ジオン軍
- ③ ZZ
- ④ 1/144

MS-09H
ドワッジ改

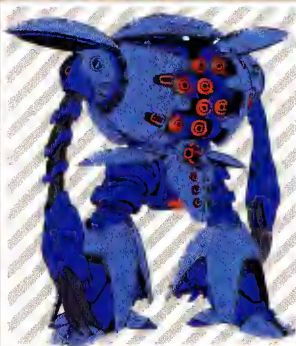
- ① 陸戦用試作型MS
- ② 旧公国軍
- ③ ZZ
- ④ 1/144

RMS-119
アイザック



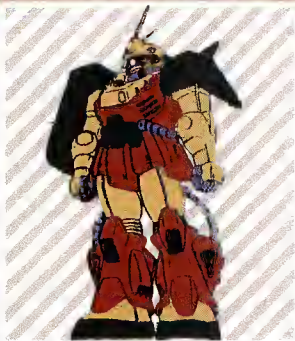
- ① 偵察用大量型MS
- ② 連邦軍
- ③ ZZ
- ④ 1/144

AMX-109
カプール



- ① 水中用試作型MS
- ② ネオ・ジオン軍
- ③ ZZ
- ④ —

MS-06D
ディザート・ザク



- ① 砂漠戦用大量型MS
- ② 旧公国軍
- ③ ZZ
- ④ 1/144

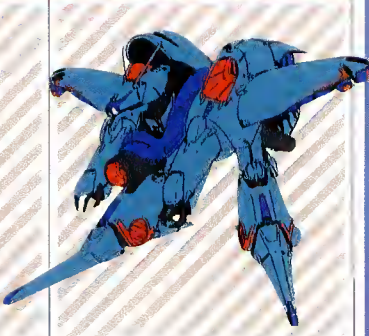
RMS-192M
ザク・マリナー



- ① 水中用大量型MS
- ② ネオ・ジオン軍
- ③ ZZ
- ④ 1/144

AMX-107
パウ

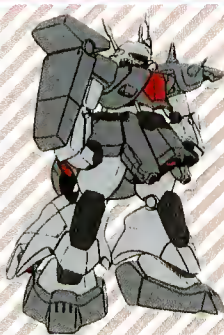
- ①汎用試作型可変MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMA-01
ジャムル・フィン

- ①宇宙戦用試作型MA
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-011S
ザクⅢ改

- ①汎用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④—

AMX-011
ザクⅢ

- ①汎用量産型MS
- ②ネオ・ジオン軍
- ③ZZ
- ④ $\frac{1}{144}$

AMX-015
ゲーマルク



- ニュータイプ
① NT 専用量産型重MS
② ネオ・ジオン軍
③ ZZ
④ —

AMX-014
ドーベン・ウルフ



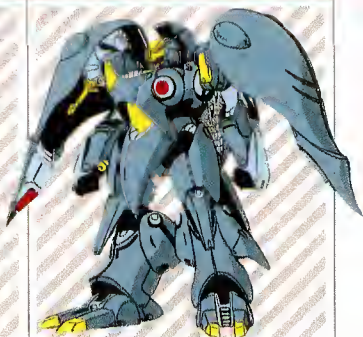
- ① 汎用量産型重MS
② ネオ・ジオン軍
③ ZZ
④ 1/144

キャトル



- ① 大型作業用MS
② 民間(ムーン・ムーン)
③ ZZ
④ —

NZ-000
クイン・マンサ



- ニュータイプ
① NT 専用量産型重MS
② ネオ・ジオン軍
③ ZZ
④ —

RMS-188MD
サクダイバー

- ① 深海作業用MS
- ② 連邦軍
- ③ ZZ-MSV
- ④ —

ゲゼ



- ① 大型作業用MS
- ② 民間(シャングリラ)
- ③ ZZ
- ④ —

MS-14D
デザートゲルグク

- ① 砂漠戦用試作型MS
- ② 旧公国軍
- ③ ZZ-MSV
- ④ —

MS-06DC
デザートザク ロンメルカスタム

- ① 砂漠戦用試作型MS
- ② 旧公国軍
- ③ ZZ-MSV
- ④ —



モビルスーツ

MS開発史

MS Development History

●一年戦争以降、MSとMAは急速に進歩をと
げ、可変型、ニュータイプ専用機、ハイ・メガ粒子
砲搭載機などを生み出す。その技術史とともに、
背景である政治的変動も合わせ解説していく。

1. 一年戦争後のMS開発

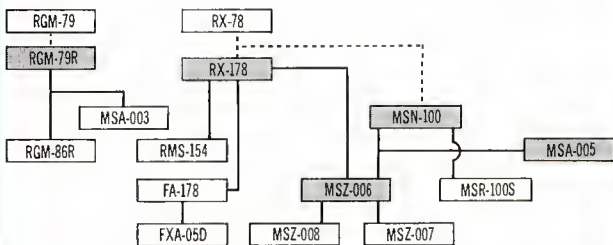
一年戦争の勝利により連邦軍は、公国軍のMS研究・開発資料及び技術者を手中に収めた。戦後数年は連邦軍と公国軍の技術上の融合期であったといえよう。

大戦終了後もMSの需要は絶えることはなかった。旧公国軍の残党は武装解除もされずにゲリラ化し（当然MSを保有する部隊も多く存在した）連邦軍は残党狩りに高性能MSを必要とした。だが、大戦で多額の戦費を消耗し、戦死した連邦軍人の遺族に対する保償問題も棚上げされている。台所事情では、おいてそれと新型機の開発費は念出でなかつた。結果として旧型機のマイナーバージョン化が行われ

る。その代表例がRGM-79ジムIIとRMS-119ガバルディールである。後者などは公国軍の機体であり、連邦軍パイロットから一部拒否反応があつたといわれる。

0083年、ジオン残党狩り部隊「ティターンズ」が結成され、それを契機としてMS開発は活性化した。予算が増え、公国軍系の技術者も積極的に投用された。だが、両軍のMS設計コンセプトは山ほど海ほどに違いがあり、その融合には時間を要した。

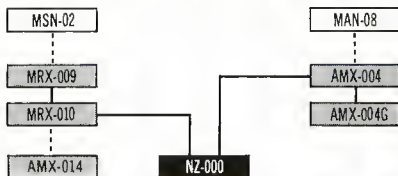
戦後初の量産型MS、RMS-1106ハイザックは、0084年7月にロールアウトした。外観は旧公国軍の名機MS-106ザクを継承してい



ネオジオン



NT専用MA・MSの開発経路



RX-178 ガンダムMK-II

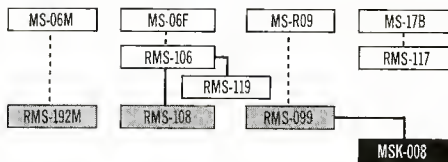
RGM-79R ジムII

RMS-117 ガルバルディβ

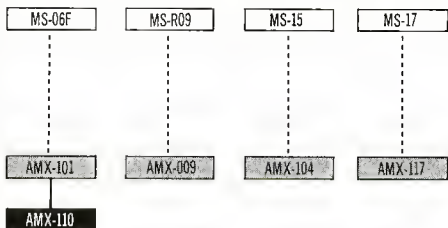
RMS-106 ハイザック

たが、中身はジムの発展版というつぎはぎ的な機体であった。性能的にも目新しさのない機体で、ビームライフルの開発が遅れ、実戦配備後もしばらくは120ミリマシンガンを装備していた。しかし、このハイザックで初のリニアシートが採用された。この操縦システムはまだ完成されていたとはいえないが、従来よりも視界が向上し、操縦性は高かった。翌年には全周囲モニターとした

新型リニアシートが完成し、在来機種を全てこのシステムに換装した。
0085年よりティターンズは、グリプス1・2においてRX-178ガンダムMK-IIの開発に着手した。この開発には公国軍系の技術者は外され、連邦軍はえ抜き技術者が投入された。この機体で初めてムーバブルフレームが導入され、人間並のフレキシビリティ（柔軟性、多用途性）を得たが、まだまだ設計に改良の余地があった。



連邦軍・エウゴの戦後MS開発経路



2. 第2世代MSとガンダリウム

ガンダムMK-IIのムーバブルフレームは、合計6回の設計変更が行われた。だが、フレーム材質に欠陥があった。構造的に柔軟性はあったが、瞬発的な外力に対して剛性が不足していたのだ。3機製造された試作機は6カ月に渡りテストが繰られた結果、量産の中止が決定した。

MK-IIの試作とはば平行して、アナハイム・エレクトロニクス社はさらに革新的なMSを開発していた。同社は中戦中公国軍のMSを開発・製造し巨利を得た企業で、連邦政府との裏取り引きによって軍の接収をまぬがれた。戦後は連邦軍一の軍需メーカーとなったが、反連邦組織「工

ウーゴ」に新型MSを供給する契約を結んだ。また、同時にアステロイドベルトに逃げのびたジオン残党軍「アクシズ」から技術協力の申し出があった。アクシズはムーバブルフレーム（試作品であったが）とリニアシートシステムと交換でガンダリウム・γの精製技術を供与した。アナハイム社は、この新合金を元に新技術開発を着手した。まず最初に核融合炉の小型・軽量化と高出力化、そして、材質

的欠陥のあったムーバブルフレームの改良、さらにガンダリウムを主材とした強化・軽量化装甲板が産み出されていた。これらの新技術を導入したMSは、第2世代MSと呼ば

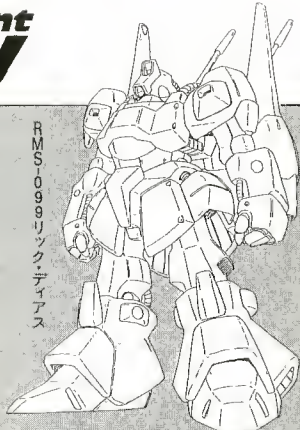
ばれることになる。その第1号機がRMS-1099リック・ディアスであった。同機は公国軍系技術者だけで開発され、攻撃力、防御力、移動力等極めてバランスの良い機体に仕上がった。しかもガンダリウム系の新技術により、在来機とは一線を画す総合性能を有していた。

0087年3月まで、このガンダリウム・γの存在は、連邦軍・ティターンズには知られていなかった。彼らもガンダリウムの改良を行っていたが、アクシズ、エウーゴに大きく遅れていたのだ。だが、エウーゴがリック・ディアスによりガンダムMK-IIを強奪する事件が起き、連邦軍はアナハイム社を疑った。同社の代表メラニー・ヒュー・カ

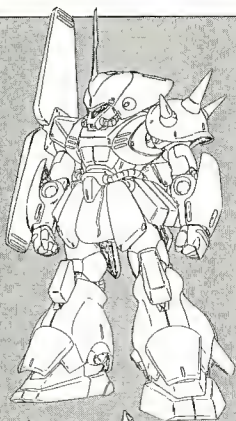
ーバインは、軍の追及をかわすため新型機RMS-108マラサイを無料供給し、ガンダリウム系の新技術を渡した。これによって第2世代MSは、連邦軍、ティターンズでも使われることになった。

この第2世代MSは、0087年から0089年までに試作型を含めて、機種が実戦に登場し、総生産台数は4000機を越えた。MSは後述する第3世代、第4世代と進化を続けていくが、生産台数においてはこの第2世代が圧倒的に多い。これは3、4世代が非常に高価で、生産性が低いためだ。0093年の第2次ネオ・ジオン抗争においても主力は第2世代であった。

MS Development History

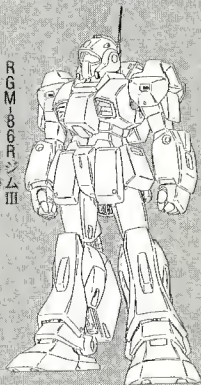


RMS-109 リック・ディアス

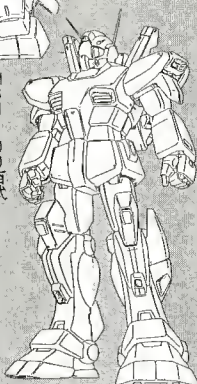


RMS-108 マラサイ

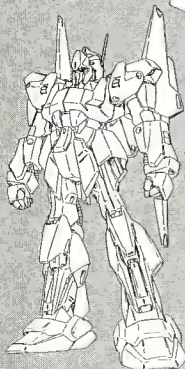
MSA-003 ネモ



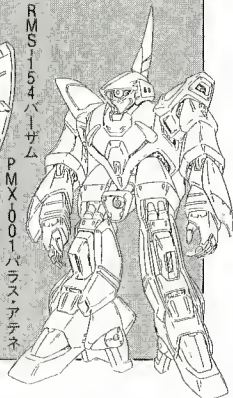
RG M86R ジムⅢ



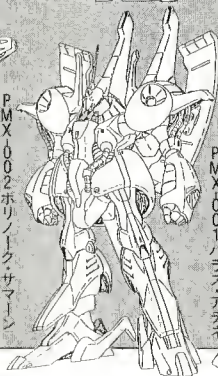
MSN-100 百式



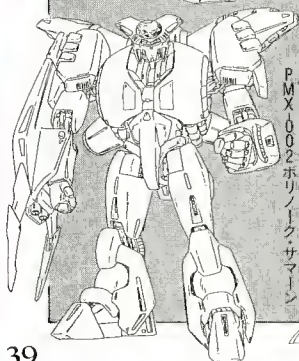
RMS-154 バイザム



PMX-001 パラス・アテネ



PMX-002 ホリノーク・サマーン



3. 可変MAの登場

0083年よりMSとは別トランスフォームに可変能力を有するモビルアーマー（以下TM）の開発が開始されていた。大戦中公国軍が作り出したMAは、極めて高い局地戦能力を有していたが、人型のMSほどの多用途性、汎用性はなかった。そこでMA形態からMS形態への可変機能を持たせ、欠点を補なおうとした。

まず最初に着手した機体が、大気圏内飛行能力を有するNRX-0044アッシマーである。当時MS用サブフライトシステムとして、ベースジャバーやドダイ改ができていたが、上昇性能が低く、迎撃機としては役に立たなかった。そこでMA形態を円盤のリフ

ティングボディとしたアッシマーが必要とされた。可変機構もMS形態時の関節部の自由度を高めただけで、比較的問題も少なく0085年には試作機が完成している。だが、携帯兵器がロングバレルのビームライフルと火力の充実が求められ、新型機の開発が行われた。

ORX-005ギヤプランは、アッシマー以上の運動性、火力を有する航空戦対応TMAである。MS形態時の両腕に装備されたバーニアバインダーと両脚のスラスタは、飛行時にも自由に可動し、およそ航行機とは思えない運動を行う。その分、機体形状の飛行特性はアッシマーに劣り

航続時間は短い。だが、本来この機体は高々度迎撃用に開発されたもので、大型ブースターによって成層圏まで打ち上げられ、後は半ば自由落下状態で戦闘するように想定されているため、さほどの問題ではなかった。推進システムは熱核ジェットであるが、のちに開発された宇宙用では熱核ロケットに変更されている。

このギヤプランでは変形機構を組み込んだムーバブルフレームを採用した。機体剛性を高め、変形に要する時間を1秒以内に短縮するためには必要で、ガンダリウム・マグネットコーティングといった新技術を導入して完成させた。

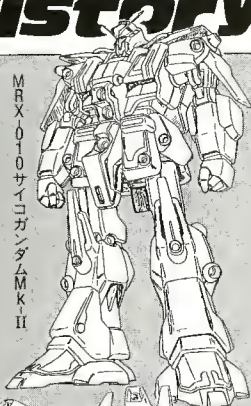
戦後すぐに設立された連邦軍のムラサメ、オーガスタ両

ニュートイア
NT研究所は、公国軍のフラナガン機関の資料を元にサイコミュの研究を続け、同時に強化人間と呼ばれる人口のNTの育成を行っていた。

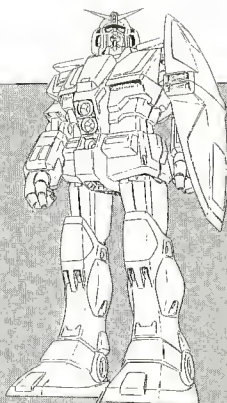
ムラサメ研はMSN-02ジオングの開発資料を元に、MRX-009サイコガンダムを完成させた。この機体はMA形態ではミノフスキー・クラフトで浮遊し、巨大な推力によって高速飛行が可能だった。内蔵する核融合炉の出力は戦艦級で同時に大型メガ粒子を多数稼働させ、さらにビーム偏向フィールドまでを装備していた。また、改良型のMK-IIはリフレクターピットや有線制御式メガ粒子砲まで備えていた。だが、サイコミュは未完成で、多くのパイロットの精神を破壊した。

Ms Development History

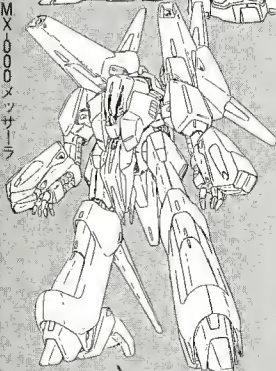
MRX 010 サイコガンダム Mk II



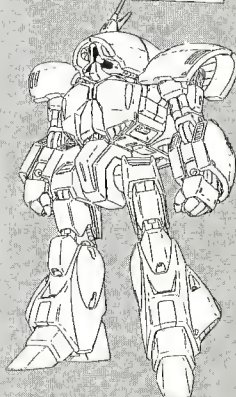
MRX 009 サイコガンダム



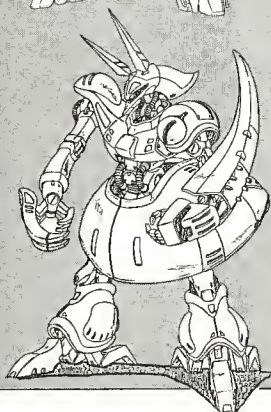
PMX 000 メツサーラ



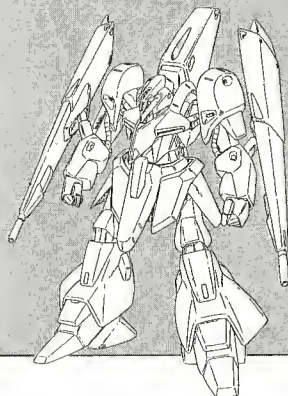
NRX 044 アツシマー



MRX 055 パウンドドック



ORX 005 キャプテン



4. 第3世代可変MS

TMAで培われた技術をそのままMSに転用するのは、さほど難しいことではなかった。ムーバブルフレームは変形機構と関節駆動機構を兼ねるものであり、単純なスケールダウンによってTMSが可能であった。

TMSを最も早く作り上げた組織は、アクシズ（ネオ・ジオン）だった。彼らは小惑星帯に新基地を建設するために、大量の作業用MSが必要であり、MS形態時の脚部を大型のマニピュレータとするAMX-001ガザを開発した。この機体はムーバブルフレームを採用せず、各ブロックの移動で変形し、生産性は極めて高い。その後改良型

のAMX-002ガザBが登場し、アクシズ内でガザ・シリーズが確立することとなる。

ガザの存在を知ったエウゴ、アナハイム社は、同組織の象徴となるべき高性能MS開発計画、通称「Zプロジェクト」にこのTMSのコンセプトを導入することを決めた。そしてリック・ディアスの後に開発が進められていたMSN-100百式のムーバブルフレームを設計変更し、可変機構を組み込もうとしたが、失敗し通常のMSに戻している。これはかなり複雑な変形を行わせようとしたためで、それにはさらにデータを蓄積する必要があった。そこで簡易変形機構のMSA-005

メタスに着手した。これは難なく試作機が完成し、データを得ることができたが、MS形態時のスタイルは、これまでの機体と大幅に異なるものとなった。続いてMSZ-006Xプロト・Zガンダムを試作後、Zガンダムの正式開発に入った。だが、変形機能は申し分なかったものの、MS形態の稼働時に過度の金属疲労が見られた。これはフレーム設計そのものに欠陥があると判断された。

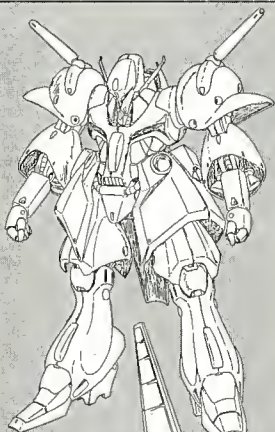
計画が難行していたとき、ティターンズが開発したガンダムMK-IIがアナハイムに持ち込まれた。第2世代にも達していない機体であったが、ムーバブルフレームの設計思想は斬新で、その時一緒にそえられていた1枚のフロップ

ーディスクに入っていたメモ程度設計案が引き金となり、急ぎよ新型機の再検討が開始された。そして、大気圏突入能力をもつウェイブライダーに可変するTMS、MSZ-006Zガンダムが完成したのである。

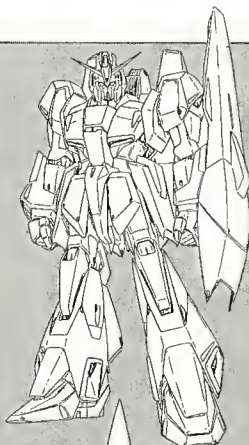
TMSは第3世代MSと呼ばれる。これは単に可変機能だけではなく、第2世代MSを全ての点で上回る性能を有しているためである。TMSは連邦軍・ティターンズでも開発され、さらに高性能化していく。そして、合体という要素を加えた超高性能機MSZ-001QZZガンダムがエウゴの手によって開発されることになる。

（Zプロジェクト）に関して、は3巻で補足します）

MS Development History

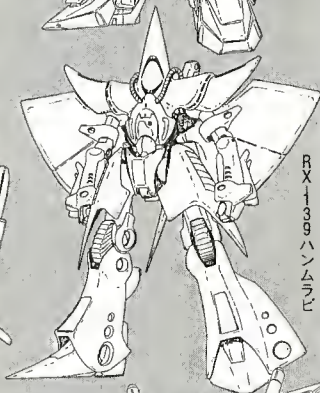
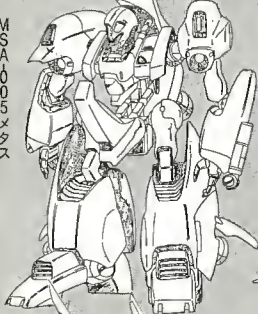


RX-110 ガフレイ

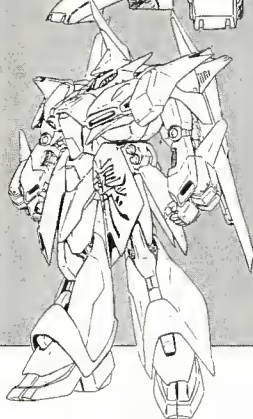


MSZ-006 Z ガンダム

MSA-005 メタス

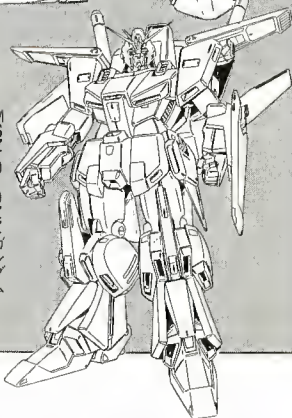


RX-139 ハムラビ



AMX-107 バウ

MSZ-010 ZZ ガンダム



5. ネオ・ジオン製MS

グリプス戦争の際、ネオ・ジオンはまだアクシズを名乗っていた。参加したMSもガザA、Bの発展型であるAMX-1003ガザCのみで、地球侵攻作戦用に用意したMSは温存していた。例外はハマーン・カーン専用機、AMX-1004キュベレイだけだ。

ネオ・ジオンのMSは、4系統に分類できる。第1にAMX-1001ガルズJとAMX-1002ズサのような陸戦を想定した機種。ガルズJは一年戦争時の局地戦仕様機よりも汎用性が高いが、製造コストが低く、陸戦性能が極めて高い。さらにズサはミサイルを大量に装備し、ブースターユニットで大気圏内飛行も

可能である。ズサの任務はガルズJの後方及び上空からの支援で、ブースターとミサイルパックを除去すれば格闘戦にも対応できた。

第2の系統が宇宙戦・コロニー専用の主力機であるガザシリーズである。ガザCの他に格闘戦性能向上型のAMX-1006ガザD、爆撃戦能力を有するAMX-1008ガザウムがある。TMSとしては生産性が高く、攻撃力、防御力共に高い。

第3の系統が第2世代ながら重武装、高機動力を有する汎用重MSで、代表機はAMX-1009トライセンとAMX-1010ザクIIIである。両機ともかつての公国軍の名機

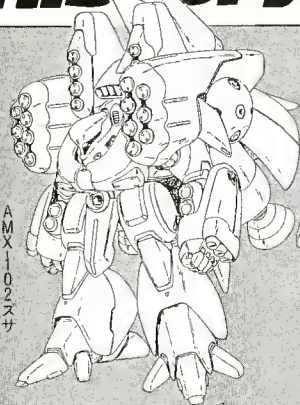
の設計思想を受継ぎ、見事に昇華させている。

第4は次の章でも語られるNT対応MSで、サイコミュを最初に開発したジオンだけにその技術は他より先行している。特にコストはかかるが、NT対応型の量産化に成功し、グレミー軍の反乱がなければ連邦軍、エウーゴの敗北は必至だったといわれる。

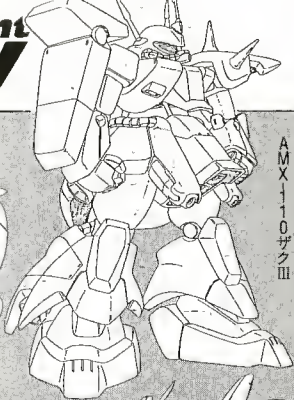
また、TMAの開発も行い、AMX-101Xジャムル・フインを前線に送っている。だが、このMAはMA-108ピグ・ザムの後継機で、全高40メートルクラスの大型機になる予定であったが、地球侵攻作戦に間に合わず、メガ・ブースターと組み合わせた、簡易TMAとして再設計された。胴体以外は全て仮設のユニッ

トである。

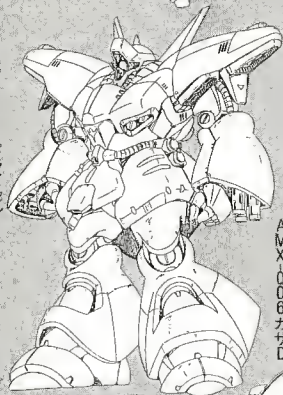
ネオ・ジオン製MSには、騎士用MSがある。これはエリート軍人用のカスタムメイドで、1機しか存在しない。本来は何らかの理由で量産機を断念した試作機で、それをベースに数々の改造、装飾を加えて、専用機としたものだ。単機のMSは敵側にデータを知られにくいいため、戦術的にはかなり有利に展開可能だ。確認された機体は、AMX-103ハンマ・ハンマ、AMX-104R・ジャジャの2機で、量産機を大幅に改造したAMX-100SザクIII^{ちやう}もその範疇に入る機体といえる。



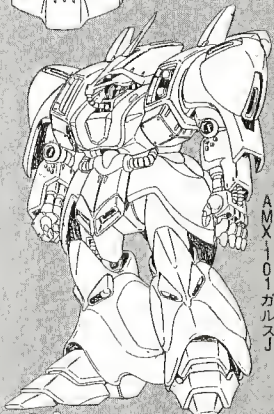
AMX-102 ササ



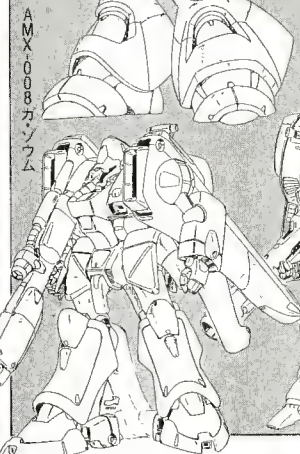
AMX-110 ザクⅢ



AMX-009 ドライセン

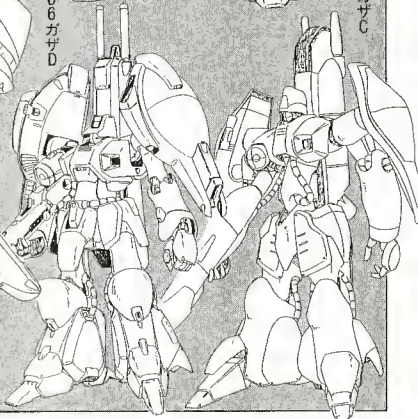


AMX-101 ガルスJ



AMX-008 ガンフム

AMX-006 ガザD



AMX-003 ガザC

6. 第4世代MS

第4世代MS——それはNT対応MSである。さかのぼれば一年戦争時代の、マグネットコーティング処理を施されたRX-78ガンダム、その発展型RX-78-1NT-1アレックスもその範疇に入ってしまったため、さらに条件をくわえよう。まず、核融合炉の飛躍的出力向上。そして固定武装としての高出力型メガ粒子砲の搭載である。さらにサイコミュも安全性が高く、低レベルのNTパイロットでも操縦が可能であることも含まれる。

この条件をあてはめると、MSZ-006Ζガンダム、PMX-003ジ・Q、AMX-004キュベレイはわず

かに条件に満たない。この3機が開発された時点では、第4世代MSを産む技術的土壌が足りなかったのだ。また、通常人のNT能力を強化するマインドコントロール技術も未完成であった。

ネオ・ジオンが生んだAMX-004ドーベン・ウルフとAMX-005ゲーマルクの2機が第4世代機と呼ぶに値するMSだ。特にドーベンウルフは強化されていない通常パイロットでも、インコムや有線制御式メガ・アームといったサイコミュ兵器を使用可能であった。ゲーマルクはドーベン・ウルフより高いNT能力を必要とするが、キュベレイなどよりよほど扱い易く、

その程度のパイロット強化は不可能ではなくなっている。

このサイコミュ技術の向上は、グリプス戦争の際、破壊された宇宙を漂流するサイコガンダムMK-IIを回収し、連邦軍の技術を吸収できたことによる。

また、エウゴ側もただ1機のみ第4世代MSを開発、完成させた。それがMSZ-006Ζガンダムである。

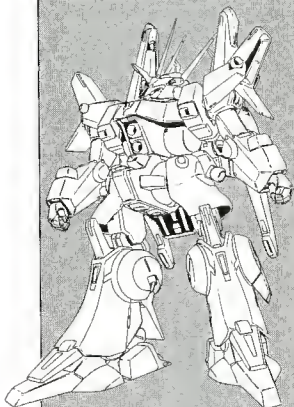
Zガンダムにはバイオセンサと呼ばれる、簡易サイコミュが搭載されていた。これは脳波制御によって操縦系のサポートを行い、機体の追従性を高めようというシステムで、NT能力の低いパイロットが搭乗した場合、保護機構によりシステムは作動しない。Zガンダムには改良型が搭載

ダブルゼータ

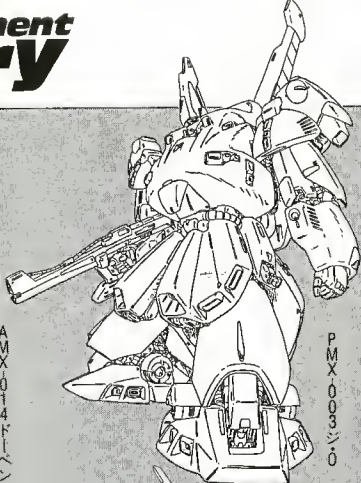
された。これはZΖのコア・自由に換装が可能なコア・フプロックスシステムを利用し、アイターごとにパイロットの脳波パターンを入力し、バイオセンサーのシンクロを高めている。そのため、他のパイロットが操縦した場合、元のパイロットのクセがついていて乗りにくいという印象を受ける。

その他、ZΖは上半身のコアトップと下半身のコアベースにそれぞれ核融合炉を搭載し、出力はZの3倍強である。頭部にはメガバズーカランチャー級の出力を誇るハイ・メガ・キャノンを装備し、火力でもMA級に達している。合体・変形システムによる多用途性、汎用性も注目値するだろう。

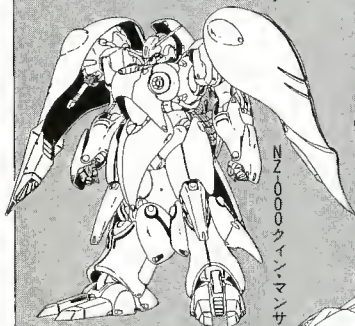
MS Development History



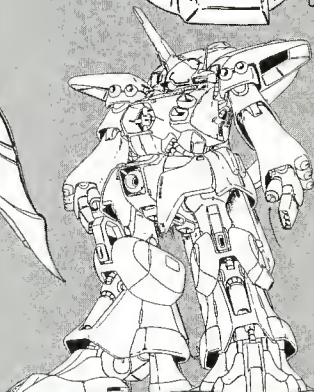
AMX-014 ドーベンウルフ



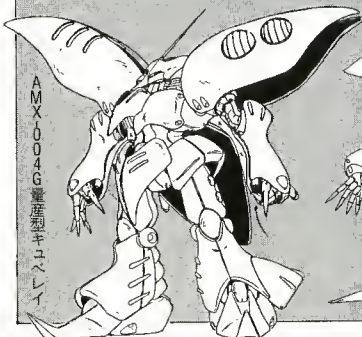
PMX-003 シオ



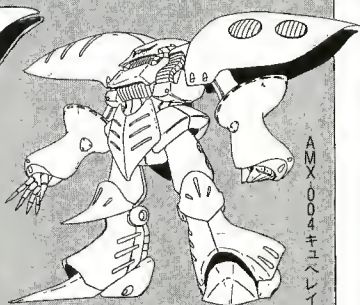
NZ-000 クイン・マンザ



AMX-015 ゲーマルク



AMX-004 G 量産型キュベレイ



AMX-004 キュベレイ

MS用語辞典①

アーモアガンダリウム

アーモア「装甲」装甲。この時代のMS用装甲はガンダリウム系合金が導入され、飛躍的に耐弾性が向上している。ただし、ビーム兵器に対しては無効であった。だが、耐ビームコーティングの技術研究が進み、メガ粒子の運動エネルギーを減衰させることが可能となった。(熱エネルギーによりコーティング面が気化するため、効果は完全ではない)インジエクション・ポッド(Exosuit)脱出ポッド。戦後使用されるMSは全てパイ

ロット保護のため、コックピットブロックが機外に脱出するシステムが採用されている。ただし、ポッド自体の移動はなく、再びコックピットシステムが見直された。エネルギーバック(energy back)ビームライフル用カートリッジ。超小型のエネルギー粒子が縮退しメガ粒子になる直前の状態で保持・蓄積されている。予備のバックを多数携帯することでMSの射撃回数は増大する。

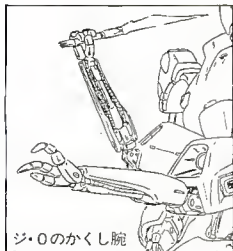
かくし腕 (Secret hand)

MX-003ジ・0やAMX-014ドーベンウルフには、本来のマニピュレータとは別に腕が装備されている。格闘戦時に敵の意表をつくためのものだが、効果は極めて高い。この時代、MSの技術はコンピュータにより高度なバックアップを受け、反面敵のデータが入力されていないと対応がきかなくなっている。そのためMSの外観や戦闘データからその性能を分析・入力するハード&ソフトウェアが進歩したが、それに対抗する偽装設計も高度化している。

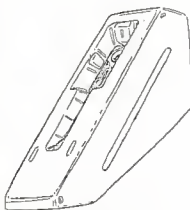
ガンダリウム (Gundarium)

チタン系超高張合金。本来は超小型核融合炉用に開発された新素材で、放射線を

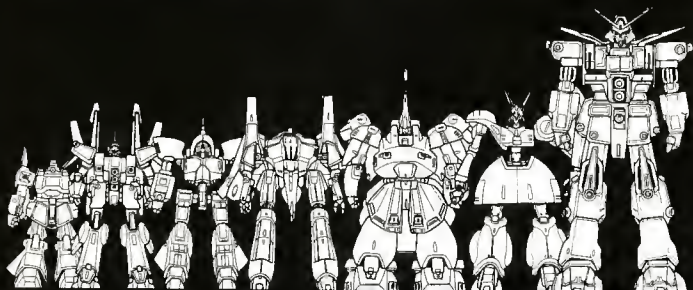
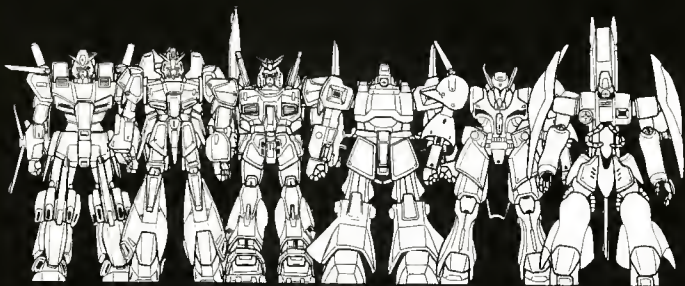
遮断し、耐熱性も従来の合金よりはるかに高い。硬度が極めて高く、MS用装甲材として採用されている。戦後、改良が進みI型が広く使用されている。



ジ・0のかくし腕



ガンダムMK-II専用ビームライフル
エネルギーバック



モビルスーツ

MS性能比較

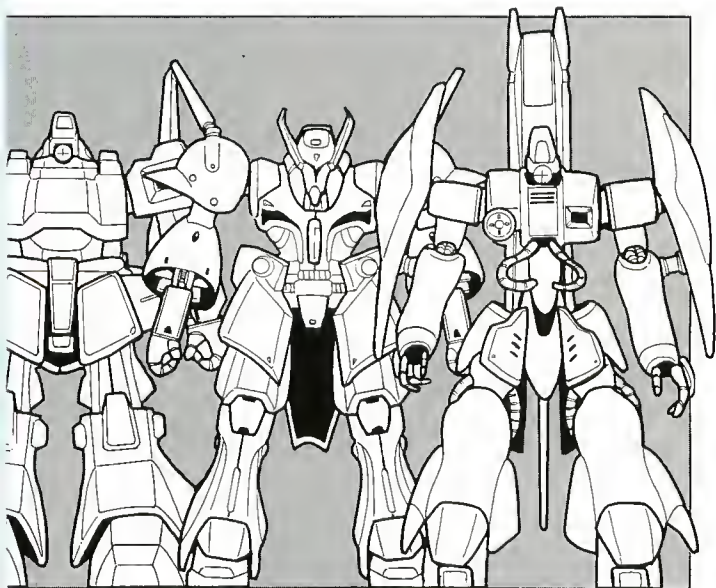
Anabiliy symmetry of MS.

●MSやMAの性能は外観からは判断しにくいものである。今回、初めて「Zガンダム」「ガンダムZZ」に登場したMS・MAのスペック・データをリスト化した。

illustration by Hideki Hoshino.

1.連邦軍/エウゴ製モビルスーツ

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
62,000	8,800	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル
64,800	8,900	120mmマシンガン、ビームライフル、ビームサーベル他
126,400	9,200	ビームライフル、サーベル、ミサイル装備専用シールド
81,200	11,300	60mmバルカン砲×2、ビームサーベル×2、他
74,800	11,500	バルカン1・ファランクス、ビームピストル×2、クレイバズーカ他
72,800	10,020	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル×2
74,800	11,200	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル×2他
74,600	10,900	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル×2
80,400	9,870	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ビームサーベル×2
74,000	11,700	60mmバルカン砲×2、ビームライフル、ツインビームサード他



RMS-099 リック・ディアス

RX-110 ガブスレイ

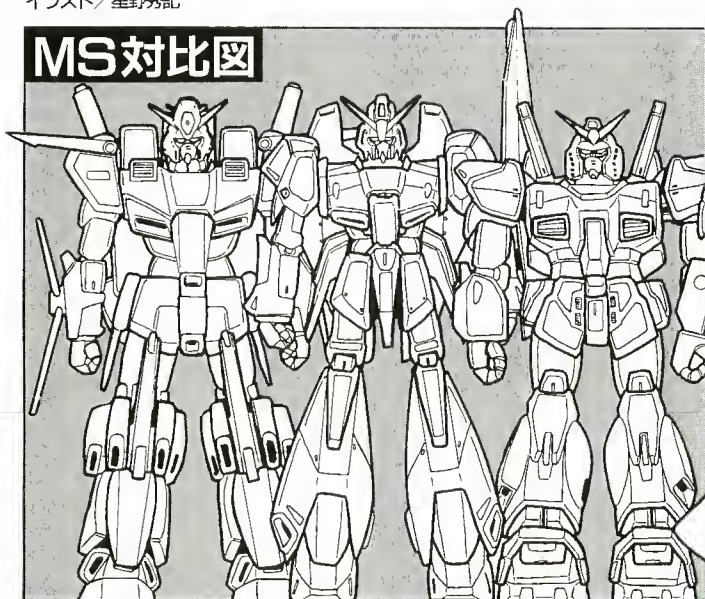
AMX-001 ガザC

MS・MA性能比較

愛 称	型式番号	全 高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)	
ジムII	RGM-79R	19.1	18.1	40.5	58.7	1,518	
ハイザック	RMS-106	21.2	18.0	38.7	59.6	1,428	
ガルババルディβ	RMS-117	19.0	19.0	36.3	56.9	1,507	
ガンダムMK-II	RX-178	18.5	18.5	33.4	54.1	1,930	
リックディアス	RMS-099	18.7	18.7	32.2	54.7	1,833	
ネモ	MSA-003	19.5	18.5	36.2	55.6	1,620	
百式	MSN-100	19.2	18.5	31.5	54.5	1,850	
マラサイ	RMS-108	20.5	17.5	33.1	59.4	1,790	
バーザム	RMS-154	24.2	19.4	40.4	62.2	1,670	
ディジェ	MSK-008	23.0	18.4	33.9	51.8	1,892	

イラスト／星野秀記

MS対比図



MSZ-010 ZZガンダム

MSZ-006 Zガンダム

RX-178 ガンダムMK-II

スラスタ総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
86,400	9,890	メガ粒子砲×2、ビームサーベル×2
105,000	11,500	ビームカノン×2、バルカンファランクス、ビームビ ストル×2
109,000	10,900	ミサイルポッド×2(30発)、2連装ミサイルラン チャー×2他
64,800	26,000	なし(作戦内容に応じ、ハイザック用携帯火器を装 備)
8,800	4,600	サブロックガン、サブロック×14
77,000	11,300	アームビームガン×2、ビームサーベル×6
598,000	10,900	フェダーインライフル、80mmバルカン砲、ビームサ ーベル×2
59,800	10,020	ビームガン×2、ビームライフル、ビームサーベル× 2、海ヘビ
112,600	14,000	60mmバルカン砲×2、グレネイドランチャー×2他
101,000	16,200	ハイメガキャノン、ダブルキャノン×2、ダブルバル カン他
76,000	10,100	2連装ビームガン、メガビーム砲×2、拡散ビーム砲× 2他
76,000	10,100	メガ粒子砲装備専用シールド、グレネイドランチャ ー×6他
135,400	11,300	ビームライフル、ビームソート×4

2. ネオ・ジオン旧公国軍製モビルスーツ

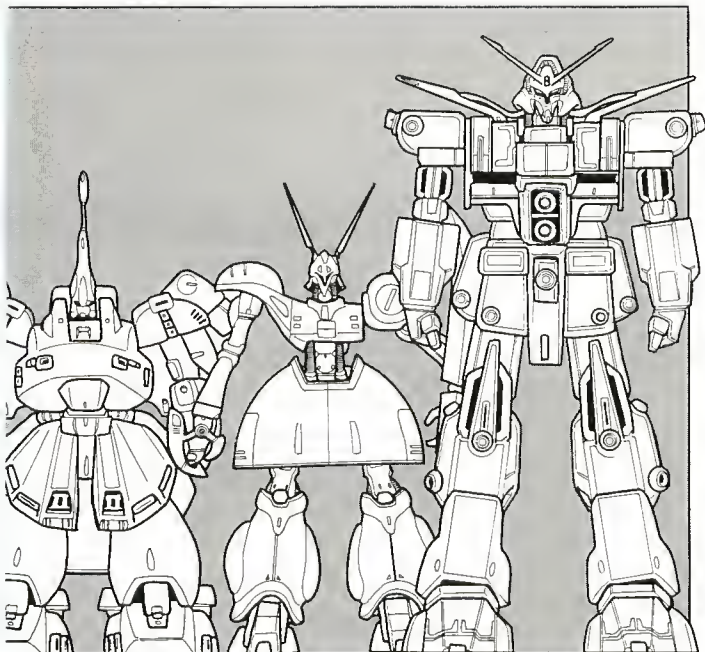
スラスタ総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
79,200	10,600	ナックルバスター、ビームガン×2、ビームサーベル
61,600	10,900	ビームサーベル(ビームガン)×2、ファンネル×12
61,600	10,900	ビームサーベル(ハンドランチャー)×2、アクティ ブカノン×2、ファンネル
98,200	10,800	5連装ミサイルランチャー×2、ビーム砲×2、ナック ルバスター他
92,280	11,200	ハイパーナックルバスター、9連装ミサイルラン チャー×2他
107,800	13,100	ハンドキャノン×2、トライブレード×2、ビームラ ンサー他
172,600	9,700	ビーム砲×3他
211,500	9,700	ビーム砲×2、30mmバルカン砲×2、ハイドポンプ 投下機他
87,300	12,000	ビームカノン×2、対艦ミサイル×2、ハンドビーム 砲×2他
92,400	11,700	マザーファンネル×2、チルドファンネル×28他
121,900	11,200	フィンガーランチャー、ミサイルポッドガン他
120,400	10,800	ミサイル(Ⓐ22Ⓢ6Ⓢ38)ビームサーベル×2

MS・MA性能比較

愛 称	型式番号	全 高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)	
パイアラン	RX-160	23.1	18.6	34.2	54.7	7,760	
シュトルム・ディアス	RMS-009B	28.0	18.0	32.5	61.3	1,920	
ジムIII	RGM-86R	18.6	18.0	38.6	56.2	1,560	
アイザック	RMS-119	19.2	18.0	41.6	73.5	1,430	
ザク・マリナー	RMS-192	19.4	17.5	48.8	68.3	1,440	
メタス	MSA-005	26.0	18.1	27.8	52.4	1,640	
ガブスレイ	RX-110	18.5	18.5	32.6	56.2	1,800	
ハンブラビ	RX-139	19.9	19.9	34.6	56.9	1,540	
Zガンダム	MSZ-006	18.7	19.8	28.7	62.3	2,020	
ZZガンダム	MSZ-010	21.11	19.86	32.7	68.4	7,340	
バラス・アテネ	PMX-001	27.4	21.6	65.0	80.0	1,790	
ポリノーク・サマーン	PMX-002	19.9	19.9	31.6	56.2	1,760	
ジ・0	PMX-003	28.4	24.8	57.3	86.3	1,840	

愛 称	型式番号	全 高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)	
ガザC	AMX-003 (MMT-1)	22.5	18.3	40.8	72.5	1,720	
キュベレイ	AMX-004	18.9	18.4	35.2	57.2	1,820	
量産型キュベレイ	AMX-004G	18.9	18.4	35.2	62.1	1,820	
ガザD	AMX-006	23.66	17.0	28.7	68.4	2,140	
ガ・ゾウム	AMX-008	18.56	18.0	31.6	58.2	1,840	
ドライセン	AMX-009	26.4	22.0	36.7	66.8	2,380	
ザクIII	AMX-011	23.9	21.0	44.2	68.3	2,150	
ザクIII改	AMX-011S	25.3	21.0	44.3	71.4	2,860	
ドーベンウルフ	AMX-014	25.9	22.0	36.8	74.5	5,250	
ゲーマルク	AMX-015	25.5	22.0	46.3	78.3	8,320	
ガルスJ	AMX-101	21.11	19.5	52.7	78.3	2,840	
ズサ	AMX-102	25.11	15.0	23.7	74.5	1,820	

スラスター総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
258,200	14,200	3連装ビーム砲×2、メカ粒子砲・ハイドポンプ投下機付シールド他
75,040	13,700	銃剣付ビームライフル、3連装ミサイルランチャー他
75,040	12,200	ビームライフル、メカ粒子砲付シールド、ミサイル×6他
6,800	12,300 (水中7,600)	レーザービーム、ソニックブラスト、ミサイル×8
76,400	10,300	ビームキャノン(ビームサーベル)×2、ヒートラン ス他
104,300	8,800	30mm2連装バルカン砲×2、360mmバズーカ砲
122,700	8,800	30mm2連装バルカン砲×2、ビームカノン、ヒート ホーク他
150,800	8,700	グレネイドランチャー×2、8連装ミサイルランチャ ー他
84,000	8,800	60mmバルカン砲×2、270mmロケットランチャー、 120mmマシンガン



PMX-003 ジ・O

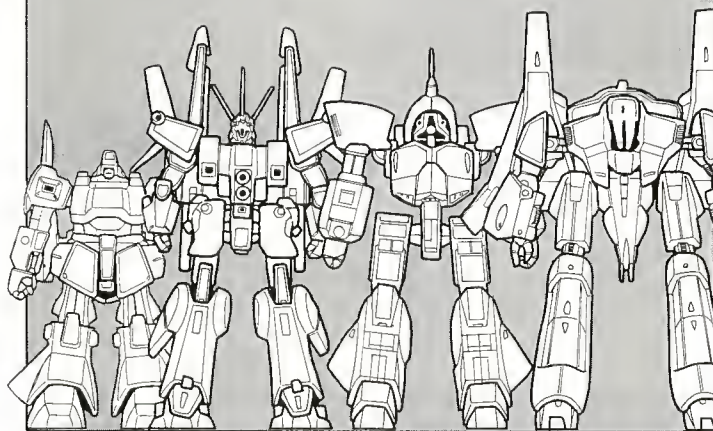
NRX-055 パウンド・ドッグ

MRX-010 サイコガンダムMK-II

MS・MA性能比較

愛 称	型式番号	全 高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
ハンマ・ハンマ	AMX-103	24.03	21.5	40.3	79.4	3,820
R・ジャジャ	AMX-104	23.55	20.0	36.4	67.5	2,320
バウ	AMX-107	22.05	18.5	34.7	67.5	2,410
カブール	AMX-109	16.5	16.5	38.7	57.5	3,680
ガズアル(ガズエル)	AMX-117R (L)	22.7	79.0	40.5	70.8	2,130
ドワッジ	MS-09G	19.3	18.2	43.5	81.7	1,440
ドワッジ改	MS-09H	19.3	18.2	43.5	87.4	1,440
リゲルグ	MS-14J	23.1	21.0	43.7	82.6	1,890
ディザート・ザク	MS-060	19.6	18.5	44.7	69.5	1,440

重MS・MA対比図



RMS-099 リック・ディアス

AMX-014 ドーベン・ウルフ

NRX-044 アッシマー

PMX-000 メッサースラ

3. Z-MSV登場モビルスーツ

スラスタ-総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
124,500	11,300	2連装ビームガン、60mmバールカン砲×2、グレネイドランチャー×2
102,200	11,200	2連装メガビームガン×2、ビームサーベル×2他
93,500	11,500	バルスレーザ砲×2、ビームガトリングガン×2他
68,600	12,050	ビームキャノン、60mmバールカン砲×2。ビームサーベル
64,600	9,200	ビームキャノン×2、ビームライフル、60mmバールカン砲×2他
83,000	12,000	ハイメガキャノン、ビームサーベル×2
99,000	14,000	ビームライフル、ビームサーベル×2
107,500	11,500	2連装ビームキャノン、ビームサーベル×2、ビームライフル
73,700	11,900	メガビームライフル、ビームサーベル×2
114,300	14,000	メガビームライフル、ビームライフル×2

型式番号解説

①連邦軍／一年戦争終結後、連邦軍に所属するMSは、全て型式番号を統一した。基本的には英文字は試作機(RX)と量産機(RMS)を区別する。数字は開発基地(上2ケタ)と開発順番(下1ケタ)を示す。基地のコードは以下の通り、

10 グラナダ
11 ルナII
12 ソロモン
13 旧ア・バオア・クイ
14 グリプス
15 軍事機密のため不明
16 キリマンジャロ
17 ニューギニア
18 ジャブロー
19
例外は大戦中の機体の改造機で、ナンバーを踏襲している。(MS-117B→RMS-117) モビルアーマーの場

4. モビルアーマー

スラスタ-総推力 (kg)	センサー有効半径 (m)	武 装
96,000	11,300	メガ粒子砲×2、9連装ミサイルポッド×2、グレネイドランチャー×2他
68,200	10,200	ビームライフル
183,000	13,000	メガ粒子砲×2、ビームサーベル×2
84,000	10,200	拡散メガ粒子砲×3、ビーム砲×10、小型メガビーム砲
244,240	16,230	サイコミュ式ビームソード×2、レクレクタービット×20他
145,000	9,840	ビームライフル、メガ粒子砲
82,600	13,400	ハイメガキャノン、2連装ミサイルランチャー×2、ビーム砲×2
287,100	14,800	メガ粒子砲×2、ファンネル×30、ビームサーベル×2

MS・MA性能比較

愛 称	型式番号	全 高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
フルアーマーガンダム MKII	FA-178	—	18.5	53.2	74.3	1,930
リック・ディアス改	MSA-099-2	24.05	18.52	30.7	58.2	1,850
百式改	MSR-100S	19.2	19.2	39.2	63.6	2,015
ネモIII	MSA-004K	21.4	18.5	45.4	56.1	1,620
ガンキャノン・ディテ クター	MSA-005K	18.5	17.3	34.5	54.5	1,780
メタス改	MSA-005S	—	18.3	34.9	50.9	2,000
プロトZガンダム	MSZ-006×1	—	19.6	29.9	52.1	1,790
ガンダムMK-III	MSF-007	22.0	19.5	32.1	48.2	2,022
量産型Zガンダム	MSZ-007	—	20.4	30.9	48.3	1,830
ZII	MSZ-008	—	18.3	31.1	69.7	2,130

合は開発基地と試作機コードを組み合わせる。③M（ムラサメ研）RX（試作機）1009（9番目）サイコガンダム

②エウーゴ／試作機、量産機を問わずMSをつけ、その後にA（アナハイム社）をつける。他にもZ（プロジェクトN（ナガノ設計主任）などがある。数字コードは開発順である。

③ネオ・ジオン／A（アクシズ）M（モビルスーツ）X（試作型）1000（開発順）が基本。000番代と100番代の2種類があるが、開発部門が分れているためだ。

④ジュピトリス／これは単純に設計者であるパプティマス・シロッコの頭文字を入れ、PMXと示す。後は開発順である。

愛 称	型式番号	全 高 (m)	頭頂高 (m)	本体重量 (t)	全備重量 (t)	ジェネレータ出力 (kw)
メッサラ	PMX-000	30.3	23.0	37.3	89.1	4,900
アッシマー	NRX-004	23.1	19.6	41.1	63.8	2,010
ギャブラン	ORX-005	25.2	19.8	50.7	94.2	3,040
サイコガンダム	MRX-009	41.0	40.0	214.1	388.6	33,600
サイコガンダム MK-II	MRX-010	40.74	39.98	187.8	283.9	19,760
バウンドドッグ	NRX-055	29.7	27.3	82.7	129.4	2,260
ジャムル・フィン	AMA-01X	17.2	15.0	24.7	58.5	4,750
クイン・マンサ	NZ-000	40.0	39.2	143.2	264.7	21,370

MS用語辞典②

グレネイド・ランチャー・ダミー

グレネイド・ランチャー (Grenade Launcher) 手榴弾発射器。

弾体本来に推進力はなくランチャー内の炸薬の爆発力で撃ち出されるが、光学探知方式誘導装置を内蔵した小型ミサイルを装備する例も多く見られた。コンパクトであるため、かくし武器として用いられる。

サイコミュ (Psycomm) 脳波制御システム。戦後、連邦軍、ネオ・ジオン両方で研究が進み、さまざまな面で改良された。第一に掲げられる改良点は、コンパクト

化である。一年戦争時はM

Aクラスでなければ搭載が不可能であったが、現在ではMSに搭載できるようになった。ソフトウェアの面ではパイロットの強化人間化がある。これはマインドコントロール (精神改造) によって人工的NTを育成する技術で、人格や記憶をも操作し、兵士の忠誠度を高めることもできる。ただし、効果は不安定で、副作用として激しい頭痛、嘔吐感を伴う。また、ティターンズは薬物投与により肉

体的にも強化した兵士をも産み出そうとした。ネオ・ジオンではクローン製造技術、遺伝子改造技術を組み合わせ、人工NTを量産する計画を進めており、その試作品がエルピー・プルであった。

サイコミュ・コントローラー

Psycomm Controller MS用サイコミュ・インターフェース。機外からMSやファンネルを制御することができる。

サイコミュ・シート (Psycomm Seat)

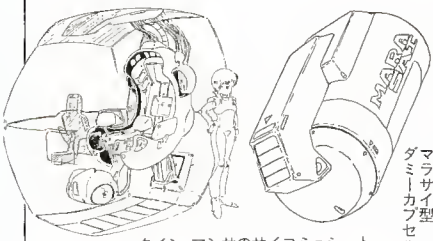
サイコミュ対応型リニアシート。

接触通信 (Direct Communic. Unit) MS

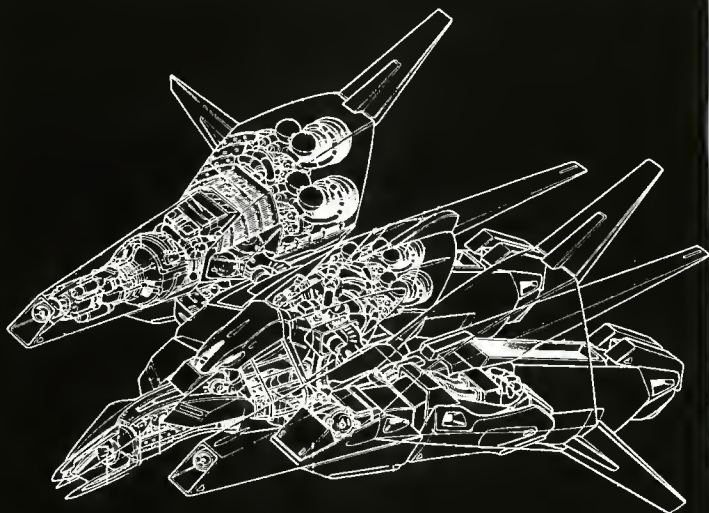
のマニピレータを他のMSの装甲に接触させ、震動によって音声を送達させる通信方式。別名『お肌の触れ合い通信』。

ダミー (Dummy) ミノフスキー

粒子散布下用欺瞞兵器。岩やMS、戦艦などを模した風船によって、敵の電子光学系センサーをあざむく。高度なダミーは、小型のアポジモーターを装備し、本物と変らない動き、赤外線反応を発する。



クイン・マンサのサイコミュシート



ガンダム オフィシャル レポート

GUNDAM Official Report.

●一年戦争から7年間、TVでは空白の期間があった。この間歴史はどのように流れていったか？
そして兵器はどのように進歩していったか？
その答えはここにある！

Illustration by Hideki Hoshino.

歴史

History

U.C.0080~0089

戦後処理

ユニバーサルセンチュリー

UC (宇宙歴) 008

0年1月1日、人類初の宇宙大戦が終結した。中立コロニー、サイド6の仲介により、地球連邦とジオン共和国の間で終戦協定が結ばれたのである。

だが、真の意味での終戦ではない。アースノイド(地球居住者)とスペースノイド(宇宙移住者)の今後の関係を決める重大な協議が残されていたのだ。

連邦政府は共和国との条約締結に際し、あえて戦勝国の高圧的姿勢をとらなかった。

この大戦の責任は公国の指導者であったザビ家にあつたとし、懐柔策に出たのである。

この背景には連邦軍の弱体化があつた。すでに宇宙艦隊は

ア・バオア・ク
ー戦までに戦力の大半を消耗し、もし条約締結にもたつき、中立である共和国に味方すれば、むしろ連邦が不利になる。また、地球に残された旧公国軍勢力も恐ろしい存在であった。

同年2月18

日、異例の速

さで両国間に

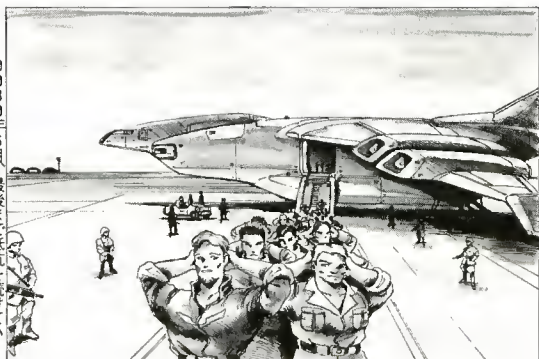
終戦条約が結

ばれた。その

主な内容は、

共和国の独立

承認、国軍の



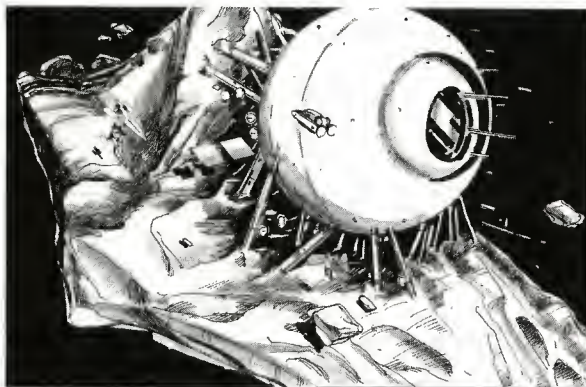
History

0080年6月、最後まで抵抗を続けていた公国軍アフリカ方面軍が降伏し、地球上でのジオン勢力は一掃された。だが、一年戦争以前から独立運動を続けていたFLN(アフリカ人民解放戦線)とジオン残党が結びつき、ゲリラ化していった。

年・月・日	事 柄
0080・01・01 06	月グラナダにて地球連邦とジオン共和国の間に終戦協定が結ばれる。 アフリカ戦線の旧公国軍、武装解除。
0081・03・28 05・05 10・05	旧公国軍の残党、小惑星基地アクシズに到着。 ドズル・ザビ夫人(ゼナ)、アクシズで病死。 連邦軍再建計画が連邦議会で可決。
0082・04	連邦軍、ニュータイプ研究機関の設立を決定。
0083・08・09 08・11 09 12・04	アクシズの指導者、マハラジャ・カーン死亡。 ハマーン・カーン(当時14歳)、ミネバ・ザビの摂政役に就任。 アクシズ、新合金「ガンダリウム・ガンマ」の開発に成功。 ジャミトフ・ハイマン准将の提唱によるティターンズ結成。旧公国軍の残党狩り、 活発化。
0084・06・17 09・21	連邦議会、地球圏の現状維持を発表。 シャア・アズナブル、地球圏に帰還。非合法で連邦軍の軍籍を得る。
0085・07・31 09・08	30パンチ事件。ティターンズがサイド2・30パンチに毒ガスを注入し住民を虐殺。A. U.G.E.運動活発化。 グリプス2、サイド7に建設される。
0086・02・06	アクシズ、地球圏に向けて発進。
0087・03・02 04・29 05・11 06・08 06・29 08・10 08・17 08・24 09・21 10・12 11・02 11・16 12・07 12・14	エウーゴ、グリプス1より試作MS3機を強奪。 最後の木星エネルギー輸送船ジュピトリス地球圏に帰還。 エウーゴ、地球連邦軍ジャブロー基地を攻撃。 ティターンズ、ルナII宙域にグリプス2、旧ア・バオア・クーを移動。ゼダンの門完成。 ティターンズ、ボンコン・シティを襲撃。 ティターンズ、アポロ作戦発動。フォン・ブラウン市を襲撃。 エウーゴの指導者、ブレックス・フォーラ准将暗殺。 ティターンズ、グラナダにコロニー落としをかける。失敗。 ティターンズ、サイド2・25パンチに毒ガス攻撃。失敗。 アクシズ、地球圏に帰還。 エウーゴ・カラバ共同軍、キリマンジャロの連邦軍基地を襲撃。 エウーゴ、ダカールの連邦議会を占拠。全世界にティターンズの悪を訴える。 ティターンズ、グリプス2のコロニーレーザーによってサイド2・18パンチを破壊。 ティターンズ、サイド2・21パンチに毒ガス攻撃。住民は全員死亡。
0088・01・18 02・02 02・22 02・29 06・06 08・01 08・29 10・31 11・14 12・25	アクシズ、ゼダンの門の旧ア・バオア・クーを破壊。グリプス2を占拠。 エウーゴ、メーメルシュトローム作戦発動。艦隊戦によりグリプス2を奪回。 エウーゴ、アクシズ、ティターンズの三つどもえの艦隊戦。ティターンズ敗北。コ ロニーレーザー破壊。エウーゴも戦力の大半を失う。シャア・アズナブル行方不明。 アクシズ、ジオンの再興を宣言。ネオ・ジオンを呼称する。ネオ・ジオン、各サイド に制圧部隊を送る。 ネオ・ジオン、先遣部隊を地球に降下させる。 ネオ・ジオンの本隊、地球進攻。 ネオ・ジオン、ダカールを占拠。旧公国軍、ティターンズ残党を配下に治める。 ネオ・ジオン、ダブリンにコロニーを落とす。 地球連邦政府、ネオ・ジオンにサイド3を譲渡。ネオ・ジオンの戦力、地球より撤退する。 ネオ・ジオン内でグレミー軍が反旗を翻す。
0089・01・16 17 03・15	アクシズ、コア3に激突。 エウーゴ、ネオ・ジオンを制圧。第1次ネオ・ジオン抗争終結。ハマーン・カーン戦死。 ミネバ・ザビ行方不明。 木星エネルギー輸送再開。ジュピトリスII発進。

存続 平和条約
の締結などで戦
費、保障問題は
たな上げされた。

アクシズの成立



共和国政府にしてみれば連邦の軟弱姿勢は幸運だった。

0083年、旧公国軍の残党は小惑星基地アクシズの居住スペース拡大のため、モウサと呼ばれるブロックを増設した。その内部には直径1000メートル、幅250メートルの遠心重力ブロック、さらに生産プラント、宇宙港などが作られた。

連邦はグラナダ基地とジオン本国軍の戦力が温存されていると思いついて、実は旧公国軍の宇宙艦隊のおよそ50パーセントが共和

国政府の命令を無視して、いずこかへ逃亡していたのである。この逃亡艦隊には1万人の軍人の他、その家族までが同乗していた。

この艦隊の指導者は、デギン公王の側近であった、マハラジャ・カーンで、ザビ家の血筋を唯一残す、ドズル・ザビの忘れ形見であるミネバと母親のゼナを連れ、ザビ家の再興を宿願として、地球圏を脱出したのである。艦隊の目的地は、アステロイドベルト帯にある小惑星基地「アクシズ」である。この基地は0072年に公国軍と月企業連合体（のちのエウゴの母体）が宇宙資源採掘を目的として極秘のうちに建設した恒久基地である。ソロモンやア・バオア・クーを地球圏に送り出し、大戦中も木星ヘリウム輸送船団

0084年ごろより反地球連邦運動が活発化し、各コロニーにおいて市民デモが行われた。それに対し連邦政府は、暴動防止を名目にコロニー駐留軍を出動させ、デモを妨害した。それによって、反連邦感情はさらに悪化していった。

0081年3月、旧公国軍の残党はアクシズに到着した。だが、総勢3万人に及ぶ移住者を収容できるはずもなく、



到着後2年余り、宇宙艦での生活を続けていたといわれる。アクシズはいわば鉄鉱石の塊りであり、居住空間の拡張は困難を極めた。また、0083年には増設ブロックである「モウサ」の設置も完了し、ようやく永住のための準備が整った。

その中でドズル・ザビ夫人、マハラジャ・カーンがいついって病死した。狭い閉鎖世界での指導者の不在は、集団の危機を意味する。0083年8月11日、マハラジャの死から2日後、シヤア・アズナブルの推薦により当時14歳であったハマーン・カーンが、ミネバの摂政役に就任した。彼女はマハラジャの娘であり、彼女の姉はドズルの愛妾だった。だが、血筋だけではなく、ハマーンには天才と呼ぶにふ

さわしい指導力、政治力、とりわけ民衆の心をとらえるカリスマ性がそなわっていた。就任後、彼女はまたたく間にアクシズを掌握し、マハラジャ時代の生きるための建設から地球圏帰還、ザビ家再興のための軍備増強を目指した。

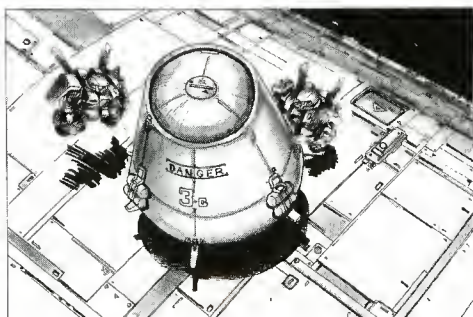
シヤア・アズナブルは当初ハマーンの補佐として働いたが、政策上の意見の相違から、アクシズを離れることになる。名目は地球圏の情勢を探り、軍事技術を手するためのスパイであったが、当時(0084年頃)ハマーンは体制を強固なものとするために、旧ザビ派の高官、軍人を粛清しており、身の危険を感じての逃亡と思えなくもない。

シヤアは、反連邦組織「エウーゴ」に身を置きつつ、スイートウォーター(植民初期の

スペースコロニー)で独自の組織を築き上げた。(メーメルシュトローム作戦で行方不明となつた彼は、秘かにこのコロニーに移っていた)

0086年2月6日、ハマーンはアクシズを地球圏に向けて発進させた。巨大な熱核パルス推進機による小惑星ごとの移動であった。目的はエウーゴとティターンズとの間に起きた戦争の混乱に乗じ、地球圏をザビ家の名の元に征服するためであった。

0088年2月29日、ハマーンは、ネオ・ジオンの再興を地球圏の全住民に宣言した。これが第1次ネオ・ジオン抗争の幕開けであった。



0085年7月31日、ティターンズは反連邦活動の拠点であったサイド2・30バッチにG3ガスを注入し、住民3千万人を虐殺した。表向きには伝染病による死亡とされ、連邦軍以外は一切の立ち入りを厳禁し、遺体は放置された。

クリプス戦争

一年戦争の終戦条約においての連邦政府の軟弱な姿勢は、アースノイドからも強い不満が生じた。それがジャミトフ・ハイマン准将を首魁とする「ティターンズ」に力を与える土壌となった。

ティターンズは優れた軍人による地球圏統制を目的とした集団である。旧公国軍の残党やスペースノイドのテロリスト集団の僕滅を主任務として行動し、着実に連邦軍内で勢力を伸ばしていった。連邦政府の官僚政治と違い、この組織はトップから末端の一兵士まで有機的に機能した。だが、このシビリアン・コントロール（文民統制）から離れた組織は、当然のことながら独裁者を生み出す危険性がある。

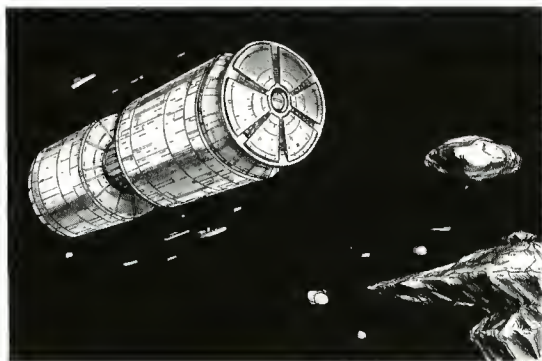
事実、ジャミトフはティターンズによるスペースノイドの弾圧を始め、同時に連邦政府を形骸化した。

反連邦組織エウーゴは、戦後スペースノイド間で急速に勢力を伸ばした。その背景には連邦政府の地球圏経営の縮小にある。前大戦でスペースコロニーは荒廃した。だが、連邦の管理下にあるコロニー公社は難民に対しての救済処置を行わず、さらに連邦政府は新たなコロニーの建設を行わないことを発表した。反連邦主義者たちは、これをスペースノイドを切り捨てる政策として猛烈に非難し、各地で市民デモ、抗議集会、サボタージュを展開した。

だが、ティターンズは、テロ防止を名目に軍を派遣し、組織の壊滅をはかった。そし

て0085年7月31日、30パンチ事件が発生した。これはティターンズが反連邦運動熱が高まったサイド2・

30パンチを毒ガスによって市民を皆殺しにした事件である。この事件がきっかけとなり、エウーゴは独自の軍隊を築き上げる。元タスポンサーであった月企業連合体は、巨費を投入し、連邦軍人をエウーゴ軍に引き抜き、独自の艦船MSなどの兵器



0087年6月8日、ティターンズの宇宙軍事拠点「ゼダンの門」が完成した。続けてグリプス2をコロニーレーザ一砲への改造する工事が開始された。（写真左がグリプス2、右手前が旧公国軍の宇宙要塞ア・バオア・クー、左奥がリナII）



0087年11月16日、エウーゴはダカールの連邦議会議会を武力占拠し、クワトロ・バジーナ大尉がティターンズの悪を全世界に訴える。彼はジオン公国の創始者ジオン・ズム・ダイクンの長子、キャスバ・レム・ダイクンであることを明かした。

を保有し始めた。その中心となったのが、連邦軍のブレックス・フオーラ准将と、アナハイム・エレクトロニクスのメラニー・ヒュー・カーバインであった。

0085年にティターンズがサイド7に軍事基地グリプス2を建設したことに、両軍の緊張は急速に高まっていった。0087年3月2日、エウーゴは新造巡洋艦アーガマと新型MS、リック・ディアス3機を投入し、グリプス内を偵察、ガンダムMK-IIを強奪した。グリプス戦争の前触れともいえる事件であった。そして、同年5

月11日、エウーゴは連邦軍の本部であるジャブロー基地に向けMSによる機動部隊を衛星軌道上から降下させた。これが事実上の開戦といわれる。もともと、ティターンズはすでにジャブローの戦力を他の基地に分散させており、エウーゴの攻撃とともに基地を核爆弾により爆破した。

グリプス戦争は前大戦と比較して大規模な艦隊戦はほとんどない。ティターンズがエウーゴの拠点の都市やコロニーに、毒ガス攻撃やコロニー落としなどを行い、それに対しエウーゴはMS部隊を出動させ、その攻撃を阻止するといった小規模な（あくまで前大戦と比べての話）戦闘が続いた。しかし、シャア・アズナブルが連邦議会でジャミトフの独裁の危険を訴え、ティタ

ーンズをアースノイドからも孤立させることに成功してからは、ティターンズも温存していた牙をむき出しにした。その牙とはグリプス2を改造したコロニーレーザー砲である。使用に踏み切ったもう一つの理由は、地球圏に帰還したアクシズ軍の存在であった。当初、ジャミトフはサイド3の譲渡を条件として同盟を持ちかけたが、互いの不信から交渉が決裂し、ゼダンの門宙域による三つどもえの決戦となった。このグリプス戦役により、ティターンズは事実上壊滅し、エウーゴも戦力の大半を失った。アクシズ軍はこの艦隊戦において全面衝突を避け、いわば漁夫の利を得、地球侵攻作戦を開始するのであった。

History

ガンダム・オフィシャル・レポート、2

宇宙戦艦

Space Battle Ship

U.C.0080~0089

ティターンズ&連邦軍

一年戦争以後、MSと同様に宇宙艦もまた長足の進歩をとげることになる。グリプス戦争と第1次ネオ・ジオン抗争に投入されていた宇宙艦は、およそ3世代に分類できる。

第1世代は前大戦時に建造された船体の改装艦。MSデッキが増設され、兵装も一部が改修されている。

第2世代はMS運用を前提に設計され、戦艦空母的性格を持つ。全般的に大型化の傾向が強い。

第3世代はさらに主砲にハイメガ粒子砲を装備し、バリエーションにより大気圏突入、加えてミノフスキー・クラフトにより離脱も可能な機動艦である。

●サラミス(改)級巡洋艦

ティターンズ
ドゴス・ギア級大型戦艦

地球連邦軍
アレキサンドリア級
巡洋艦

地球連邦軍 サラミス級
巡洋艦 “ボスニア”

地球連邦軍
アレキサンドリア級巡洋艦 “ハリオ”

Space Battle Ship

宇宙戦艦

第1世代宇宙艦。MSデッ

キが艦首に増設された他には目立つ改装はない。連邦軍、

エウーゴの主力艦。兵装は2

連装砲×2、単装砲×5、2

連装機関砲×2、ミサイル発

射管×4。

●アレキサンドリア級巡洋艦

旧公国軍のムサイを参考に

建造した第2世代宇宙艦。艦

首上下にMSカタパルトデッ

キを持つ。2連装砲×4、単

装砲×2。さらに2連装砲2

門を増設したハリオタイプも

ある。

●ドゴス・ギア級戦艦

ティターンズの旗艦として

建造された超弩級戦艦。第2

世代。MSデッキが8基とい

う戦闘空母とよぶにふさわし

い戦艦。武装は大型単装砲に

2連装砲を組み合わせた主砲

が3門、単装砲4門、その他

大小火器を多数装備する。

●ジュピトリス型輸送艦

木星ヘリウム輸送艦。宇宙

船ドック、大型重力ブロック

までも備えた超大型艦。核パ

ルス推進によって地球・木星

間を往復する巡航性能を持つ。

●輸送艦

連邦軍・エウーゴで使用さ

れている中型艦。艦首と両舷

にドッキングアームを装備す

る。武装は単装砲1門と対空

機関砲2門。

●スーツキャリア

MS輸送艇。(分類上はMS

サポートシステム)輸送艦よ

り足が早い。ビーム砲3門を

装備する。

●防空戦闘衛星

静止軌道上に設置された無

人戦闘衛星。大型メガ粒子砲

2門にミサイルランチャーを

装備する。

ティターンズ／連邦軍 宇宙艦艇

地球連邦軍 超大型輸送艦 “ジュピトリス”

地球連邦軍 輸送艦

地球連邦軍 戦闘衛星

Space Battle Ship

宇宙戦艦

エウーゴ

エウーゴの軍人の多くはテイタインズの台頭に反発して決起したスペースノイド系連邦軍人である。決起に当たって艦ごと軍を抜けたケースが多く、宇宙艦も連邦軍のものをもそのまま使用している。(敵見方の識別のため艦体色を変えてはいる)しかし、新造艦もないわけではない。特にアーガマとネエル・アーガマの2隻は、いずれも当時の技術の粋を集めた傑作艦として名高い。これらの新造艦は月面のアナイム・エレクトロニクスで極秘のうちに建造されたものだ。

●アイリッシュ級戦艦

第2世代宇宙艦。アーガマと似た船体である。MSデッキは2基で、武装は2連装大

型砲2門、2連装砲5門。

●「アーガマ」

第2世代と第3世代の中間的宇宙艦。強襲用機動巡洋艦。バリユートの装備により大気圏突入が可能。また、ミノフスキー・クラフトにより大気圏内巡航が可能。非戦闘時には居住ブロックを回転させ、遠心重力を生み出す。機能的には前大戦時に建造されたベガサス級戦艦「ホワイトベース」と同様のものである。

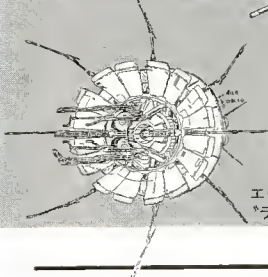
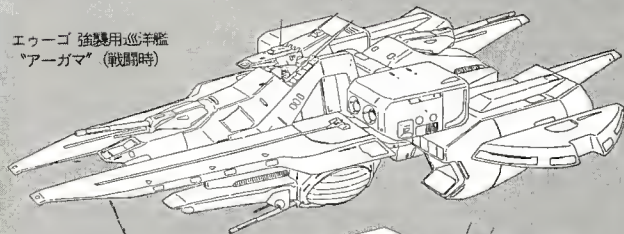
MSデッキは2基、武装は単装砲4門にメガ粒子砲2門。のちにハイパーメガ粒子砲に換装されている。

●「ネエル・アーガマ」

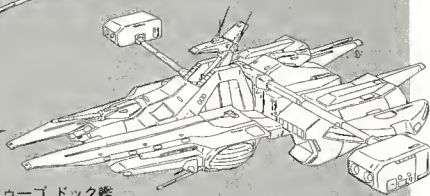
第3世代の宇宙戦艦。アイリッシュ級よりも大型艦である。3基のカタパルトデッキの他に、着艦用デッキを艦尾に設置している。遠心重力ブ

エウーゴ 宇宙艦艇

エウーゴ 強襲用巡洋艦
「アーガマ」(戦闘時)



エウーゴドック艦
「ラビアン・ローズ」



(巡航時)

Space Battle Ship

宇宙戦艦

ロックは内蔵ドラム式になり、船体の強度も向上している。

折りたたみ式の主翼はソーラーウィングで太陽電池板である。機能・性能・外観ともにホワイトベースに近くなっている。

最大の特徴は艦底に装備されたハイパー・メガ粒子砲で、アーガマに装備されているものより、ひと回り大きい。威力はコロニーレーザー砲級である。他の武装は2連装大型砲2門に単装砲2門、単装副砲2門、メガ粒子砲2門となっている。また、もうひとつの特徴としては、操艦、砲の操作がコンピュータサポートによりブリッジから全てコントロールできることであろう。そのため、メカマン、パイロットを除けば、わずか5名程度で戦闘が可能である。なお、

「ネエル・アーガマ」とはアーガマに近きものという意味だ。

●「ラビアンローズ」

エウーゴの大型ドック艦。

正面から見た形状がバラの花に似ていることからこの艦名が与えられた。修理能力も高く、また多量の交換部品、補給物資を積載する。中央のドッキングアームは非常の場合、ミサイルのように打ち出すことができる。もちろん爆薬はついていないが、質量が大きい。ため、直撃すれば戦艦といえど大ダメージを受ける。巡航速度はこの種のものとしては高い。エウーゴにもたった1隻しかない。

艦底に
ハイメガ砲を
収納

エウーゴ 戦艦「ネエル・アーガマ」

エウーゴ アイリッシュ級戦艦

ネオ・ジオン

アクシズ・ネオ・ジオンの宇宙艦は、連邦軍、エゥーゴのものよりも質・量共に勝っている。これは前大戦の状況と変らない。

●グワダン級戦艦

アクシズ艦隊の旗艦。旧公国軍のグワジン級戦艦はMS用カタパルトデッキがなかったが、発展型であるこの艦は、3基も備えている。しかも、下部の1基は回転式で360度のどの方向にでもMSを発進させることができる。武装は大型砲が2連装砲2門と、ドゴス・ギアと比較して火力が見劣りするものの、長距離巡航性能と加速性ではこちらが勝っている。

●グワンバン級戦艦

それまで旗艦であったグワ

ジンが沈み、新旗艦サダラーンが完成するまで仮旗艦を務めていた。グワジンより小型。MSデッキは1基で、武装は単装砲6門にメガ粒子砲が3門である。

●サダラーン級機動戦艦

地球侵攻作戦用に建造された新旗艦。バリユート装備による大気圏突入能力、ミノフスキー・クラフトによる大気圏内巡航能力など第3世代宇宙艦としての条件を満たした設計である。武装も強力で、2連装砲6門、メガ粒子砲2門、ミサイル発射官6門、対空レーザー砲38門、MSデッキも2基設置されている。

●エンドラ級巡洋艦

旧ムサイ級に変わる新造艦である。設計思想はそのまま継承しているが、MS搭載量、火力、巡航性能など大幅に向

ネオ・ジオン 超大型戦艦『グワダン』

ネオ・ジオン グワジン級戦艦『グワンバン』

ネオ・ジオン 機動戦艦『サダラーン』

Space Battle Ship

宇宙戦艦

上している。中央ブロックの格納庫にはコンテナ状態でMSが収納されており、補給も容易となった。また、MSも分解・組み立てが容易なようにあらかじめ設計されている。ガルスJ型ならば6時間程度で完成する。武装はメガ粒子砲2門、単装砲5門、2連装砲1門。MSカタパルトは2基あり、一つのデッキから同時発進が可能だ。

共和国軍

ジオン共和国軍は、旧公国軍の改装艦を用いている。一年戦争の終戦条約の条項の中に宇宙艦の制限があるため、新造艦が建造できないのだ。また、MSに関しても旧型のザクやリック・ドムを部分改修（コクピットのリニアシート化）して使用している。（の

ちにアナハイム社よりシュトルム・ディアスを購入する）もつとも、共和国軍はグリプス戦争当時弱体化しており、戦況に大きな影響力を持っていなかった。グリプス戦争ではティターンズに味方し、第1次ネオ・ジオン抗争では、ネオ・ジオンに吸収されてしまった。

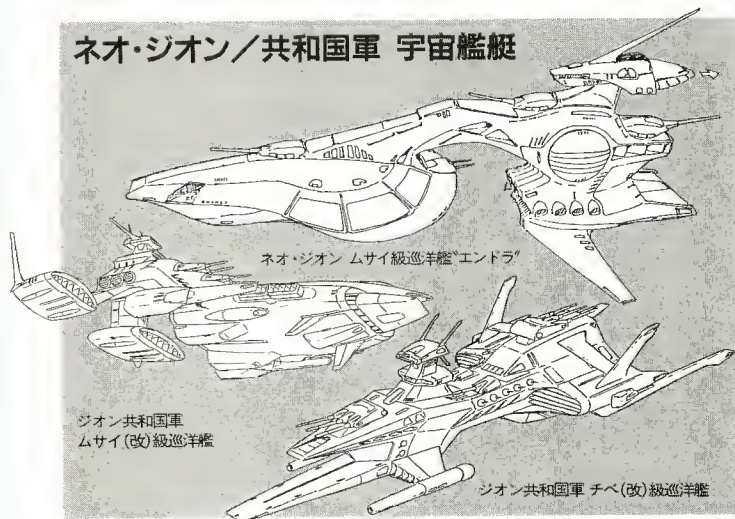
●ムサイ（改）級軽巡洋艦

外装の一部を改修しただけで、大きな差はない。武装は2連装砲2門、ミサイル発射官2門、対空機関砲2門。艦尾にMSデッキ1基がある。

●チベ（改）級重巡洋艦

艦首にMSデッキを増設している。武装は3連装砲2門、単装砲2門、対空機関砲14門である。共和国軍では最大の宇宙艦である。

ネオ・ジオン／共和国軍 宇宙艦艇



ネオ・ジオン ムサイ級巡洋艦“エンドラ”

ジオン共和国軍
ムサイ(改)級巡洋艦

ジオン共和国軍 チベ(改)級巡洋艦

Space Battle Ship

ガンダム・オフィシャル・レポート、3

機動兵器

Mobile Weapon

U.C.0086~0088

汎用重モビルスーツ

第2世代MSの駆動系は、内骨格式のムーバブルフレームを採用している。核融合炉のエネルギーをパルス状圧力に転換し各アクチュエータに伝達する流体パルスシステムはそのままで、コンバータの性能向上により出力が増大し、高い剛性と柔軟性を合わせ持つムーバブルフレームの構造により、機動系の占める容積が約30パーセント減少している。その分をインテグラルタンク（内蔵式推進剤タンク）のスペースとし、結果戦闘最大出力の増大、作戦行動時間の延長を果した。

推進システムは大半が熱核ロケットで、小型化により機体各所に分散配置が可能となった。また、反対に姿勢制御

用アポジモーターが大型化し、運動性は第1世代とは比較にならないほど向上している。

また、補助推進システムであるバインダーが増設され、運動性向上に役かっている。

装甲はムーバブルフレームの採用により、構造材の役目を離れ、純粹な装甲板として用いられている。（頭部などは別）いわゆる浮き装甲（可動装甲板）が占める割り合いが増えたことで関節可動範囲が広がっている。

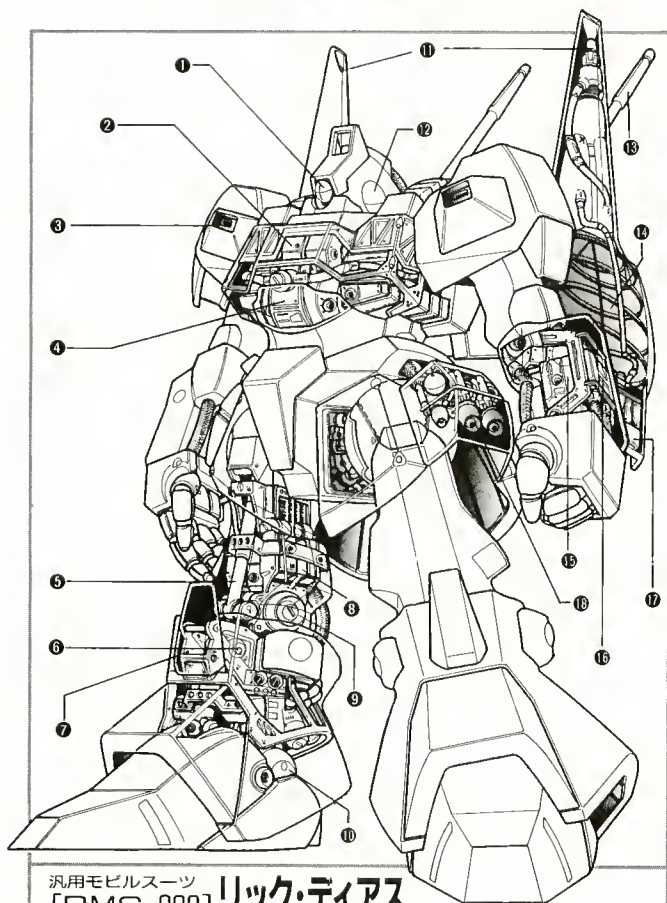
装甲はガンダリウム合金やセラミックなどによる複合装甲が主流だが、箇所により、多重空間装甲や爆裂装甲などを用いられている。ガンダリウムを用いた装甲は、従来のチタン合金製装甲よりも軽量で瞬発的な外力に対して高い剛性を発揮する。

対敵視認システムも高性能化し、視覚センサーによって得た映像も任意に画像を拡大できる。また、ミノフスキー粒子の影響による映像の歪みも、あらかじめ被写体のデータがインプットされればコンピュータが補正し現視に近いCG映像を再生する。

操縦システムでは360度からの加重（G）に対してのショックアブソーバーを果すように、リニアドライブによる浮き構造、リニアシートが開発され、前周囲モニターと合わせて操縦性向上をとげた。

武装の面でもエネルギーパックの開発により、ビームライフルの使用回数が増え、その出力も増大している。

Mobile Weapon



汎用モビルスーツ [RMS-099] リック・ティース

【各部名称】①モノアイ②メインコンピュータユニット③スラスタバーニア④熱核反応炉⑤リニアアクチュエータ⑥ロータリーエンコーダ⑦脚部メインフレーム⑧補助バッテリーユニット⑨膝部ロータリーアクチュエータ⑩足首部ロータリーアクチュエータ⑪スラス

ターバーニアノズル⑫コックピット⑬ビームビートル⑭バーニア燃料（反応剤）タンク⑮腕部制御用コンピュータ⑯腕部ジェネレータ⑰バーニアバイナード・メインバーニア⑱スラスタバーニア

Mobile Weapon

可変モビルアーマー

可変MAは第2世代MSと第3世代MSの中間的存在である。(開発史から見ての話で、むしろ例外的機種もある)

ムーバブルフレームは、マグネットコティンゲ技術を導入し、短時間での変形が可能である。もともとフレームに使われているガンダリウム合金は磁性を帯びているため、一種のリニアドライブ機構として機能する。

推進システム、装甲、対敵視認システム、操縦システムは前出の第2世代MSと変わらない。(もちろん、ジェネレータ出力、スラスター推力、装甲厚、火力など大型であるだけに桁違いだ)

可変MAにおいて開発された技術としては、可変システム

ムとしてのムーバブルフレームの他に、ジェネレータと直結したメガ粒子砲がある。一年戦争時代のMAも、戦艦の主砲も直結型であるが、メガコンデンサーが開発され、在来型の10倍の出力を持つハイメガキャノンの稼働が可能となった。(この技術はさらに改良され、メガバズーカランチャーや第4世代MSへと受け継がれていく)

また、MAは実験機的要素が強く、さまざまな技術革新の試みがなされている。MRX-1009サイコガンダム、MRX-1010サイコガンダムMK-IIは、旧公国軍が研究を重ねていたシステムがほぼ具現化した機体である。

対ビームバリアを形成するビーム偏向フィールド発生装置に、反重力システムである

ミノフスキー・クラフト、ジェネレータ直結型大型拡散メガ粒子砲などがそれである。
MA形態は機動要素そのもので、攻撃力は巡洋艦に匹敵する。

では可変MAの1機種に絞って機体構造を解説しよう。
木星宙域での使用を前提に設計・開発されたPMX-1000メッサラである。可変MAとしては最も早い時期にムーバブルフレームを採用し、0.5秒でMA形態からMS形態に変形する。

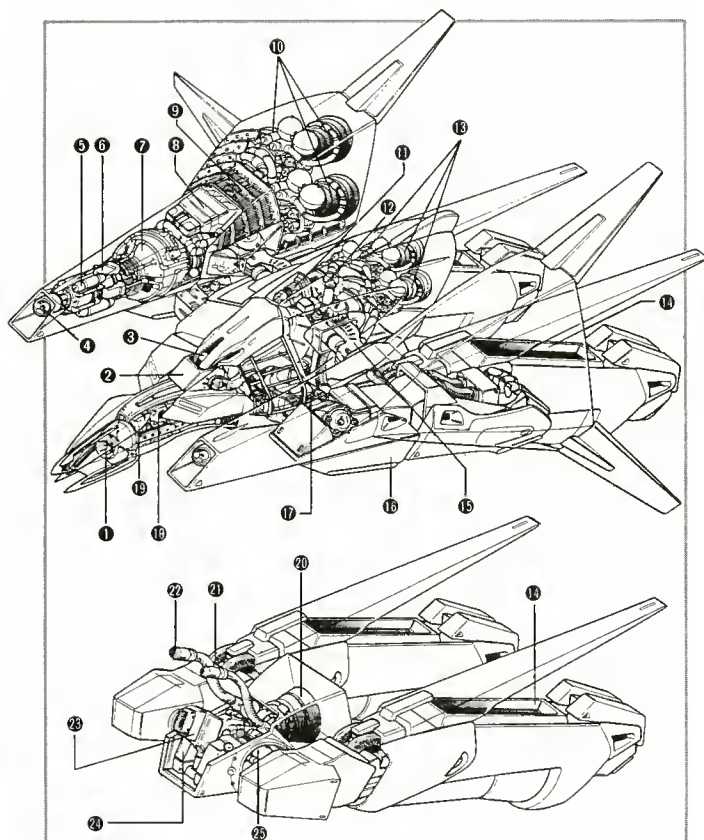
メインスラスターユニットには熱核ロケットモーターを各3基、計6基搭載する。その先端には直結型メガ粒子砲(推定出力11.3メガワット)を装備し、自由に可動するジョイントアームにより噴射角及び発射角を変えることがで

きる。他に脚部や尾部にもスラスターが搭載されているが、何故か連邦軍のデータにもれている。総推力は19万6千キログラム(最低)に達すると思われる。

武装は両肩に9連装ミサイルポッド(オブティカル・シールカー||光学式誘導装置付ミサイル)にビームサーベル(出力0.5メガワット)が2本、それに腕部のウェポンユニット内には60ミリバルカン砲が4門、グレネイドランチャー(装弾数3×2)、格闘戦用のバ이스クロウなどがある。

装甲材質は不明だが、独自の研究によりZ型に近いガンダリウム合金を開発し、採用していたようである。

設計開発者は、ジュピトリスの指揮官、パプティマス・シロツコである。



可変モビルアーマー [PMX-000] **メッサーラ**

【各部名称】①レーダーアンテナ②コック
ビット③モノアイ④メガ粒子砲口⑤ビー
ム収束ユニット⑥ビーム加速ユニット⑦
エネルギーCAP.⑧強制放熱装置⑨反
応剤タンク⑩メインバーニア⑪後方カメ
ラ⑫熱核反応炉⑬メインバーニア⑭MS
形態時脚部メインバーニア⑮バーニアバ

ンダー・アーム⑯マニピュレータ⑰マ
ニピュレーターユニット・アーム⑱電子
機器⑲アビオニクス⑳メインバーニア㉑
動力系コネクター㉒制御系コネクター㉓
胸部フレームジョイント㉔バッテリーパ
ック㉕脚部ユニット・アーム

Mobile Weapon

汎用モビルアーマー

第4世代MSは、メガコンデンサーによる直結型メガ粒子砲を多数搭載し、さらにサイコミュを操縦系に組み込んだ超高級機種である。

ネオ・ジオン製のAMX-014ドーベン・ウルフは、NT能力が低いパイロットでも、サイコミュが使用できるように工夫が凝らされている。この機体のサイコミュ兵器は、腕部のハンドビームとバックパック内に搭載されたインコムだが、共に有線制御式（指揮官機のハンドビームはレーザー誘導式）で、パイロットの感応波を利用したミノフスキー通信を使用していない。有線式ハンドビームユニットは、オールレンジ攻撃の使用法の他に、敵機に取り

付き高圧電流を送り込むショック兵器としても用いられる。

武装の充実第4世代ならではだが、ドーベン・ウルフはビームライフルを固定式メガ粒子砲に直結し、メガランチャーとして用いるシステムを採用している。ライフルの出力が12・5メガワット、胸部のメガ粒子砲2門が各5・3メガワット。これをメガランチャーとして使用した場合、40・2メガワットの出力となる。もちろん大量のエネルギー消費と再充填のため、連射は不可能だが、一発でマゼラン級戦艦を撃沈する威力を持つ。

数多くのビーム兵器にエネルギーを供給するジェネレーターは、最大5250キロワットの高出力型で、メッサーラの4900キロワットを上回

る。

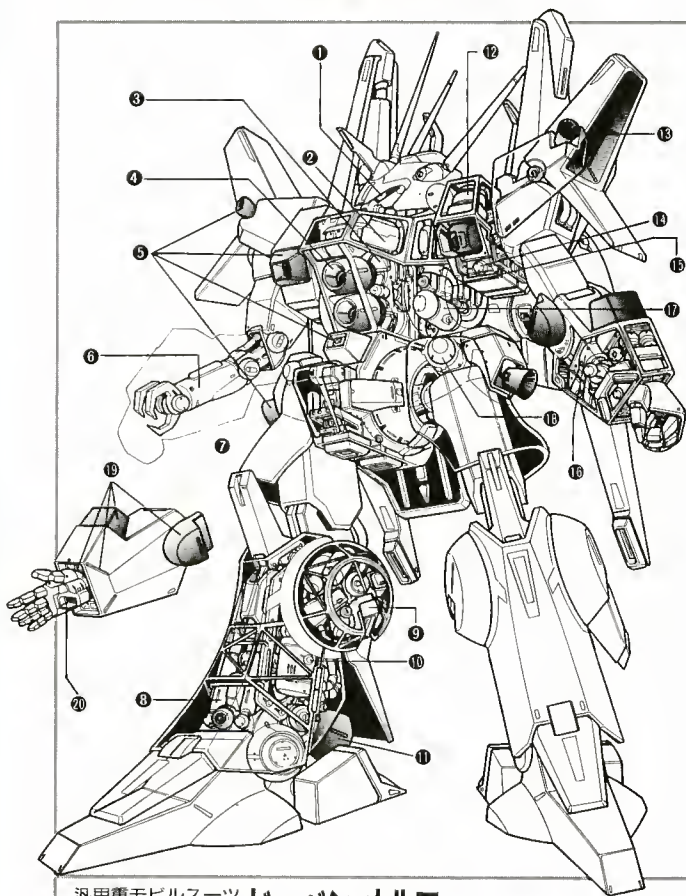
メインスラスタは、バックパックに接続したバインダーで1基あたり32800キログラムの推力を持つ。また、バインダーにはアポジモーターを内蔵した可動式スタビライザーを装備し、運動性を高めている。サブスラスタは股間と脚部にあり、脚部のラウンドスラスタはユニットが回転し、姿勢制御の機能を持つ。アポジモーターは合計17基で標準より多く、頭頂高22メートルの重MSでありながら運動性は高い。

ドーベン・ウルフは、もと連邦軍オーガスタNT研で開発した、MRX-010サイコガンダムMK-IIの小型普及版であった。その当時の愛称はG-IVである。この機体をネオ・ジオンがテイタ

ーンズ併合の際に接收し、頭部を始め、各部に改修を加えて、制式機として少数を量産した。なお、一般人用サイコミュは、ネオ・ジオン側の技術である。

同時期に採用されたAMX-015ゲーマルクと比較されるが、武装・火力面では劣るものの、サイコミュの一般使用を可能とした点で、こちらの方が評価が高い。

第4世代MSは、運用面において第3世代可変MSに劣るが、その攻撃力は極めて高い。MSZ-010ZZガンダムのような両方の要素を満たす機体もあるが、このような超々高級機は例外といわねばならない。



汎用重モビルスーツ [AMX-014] ドーベン・ウルフ

【各部名称】①モノアイ②コックピット③エネルギーCAP.④ビーム発射口⑤スラスタバーニア⑥ライト・サブアーム⑦スラスタバーニア⑧リニアアクチュエータ⑨スラスタバーニア⑩バーニア用反応剤タンク⑪脚部メインバーニア⑫サ

ブジェネレータ⑬肩部スラスタバーニア⑭グレネードランチャー⑮エネルギーCAP.⑯レフト・サブアーム⑰冷却剤タンク⑱ビームサーベル⑲スラスタバーニア⑳ビーム砲

Mobile Weapon

ガンダム・オフィシャル・レポート、4

MSサポート システム

MS support system

U.C.0080~0089

サブフライトシステム

一年戦争以降、MSの機能を補助する、いわゆるMSサポートシステムが急速に発展した。

その代表格がサブフライトシステムである。一部のMAや可変MSを除けば、MSの作戦行動半径は前大戦中のMSと比べ、さほど向上していない。だが、旧公国軍ドダイYSを発展させたMS用輸送機が急速に普及し、MSの戦術に加わったのである。

●ベースジャバー

熱核ジェット推進式の無人ホバークラフト。機首にメガ粒子砲（空対空、空対地用）1門を搭載する。最高速度マッハ0・83

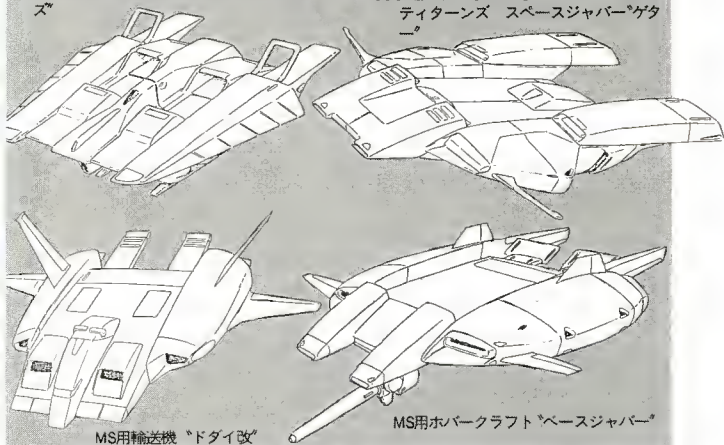
●ドダイ改

有人MS輸送機。専用のコ

MSサポートシステム

ティターンズ スペースジャバー^{ゲタ}

エウーゴ スペースジャバー^{シャクルズ}



MS用輸送機^{ドダイ改}

MS用ホバークラフト^{ベースジャバー}

MS support system

MSサポートシステム

ンテナを搭載して、ガルダ・地上間のシャトルとしても活用されている。最高速度／マッハ0.93。

●ゲター

連邦軍制式宇宙用ブースター。MSの行動半径を3倍に伸ばす。スペースジャバーと呼ばれる。

●シヤクルズ

エウーゴ製スペースジャバー。MSの脚部に装着する使い捨てブースター。航続性能はゲターより劣る。

●Gデیفエンサー

RX-178ガンダムMKⅡ用可変アーチャーシステム。MKⅡをキヤリングして大気圏内飛行が可能。さらに変形してMS用増加装甲になる。変形後はコクピットが分離し、軽戦闘機となる。変形後、火器管制はMS側に移行する。

メガランチャー

メガランチャーは、グリプス戦争で初めて投入され、急速に進歩した兵器である。その射撃性能と破壊力は戦艦級である。

●メガランチャー

連邦軍製MS用大型メガ粒子砲。初期型でハイザッククルスのMS2機分のエネルギー・バックアップが必要。

●メガバズーカランチャー

エウーゴ製。可変型で単体での移動力がある。メガコンデンサーの性能向上により、単機で使用可能。ただし連射はもう一機のバックアップが必要。

●メガライダー

エウーゴ製有人MS用輸送機。サブフライトシステムにメガランチャーを搭載する。

エウーゴ
MS支援兵器 “メガライダー”

ティターンズ
メガランチャー

エウーゴ メカバズーカランチャー

連邦軍 MS専用月面輸送
ホバートラック

連邦軍
MS専用輸送艇
“スーツキャリア”

ガンダム・オフィシャル・レポート、5

ワーカー

Worker

U.C.0030~0089

作業用MS

MSは兵器ばかりではなく、作業用、いわゆる民間機も多く存在する。その起源は軍用機より古く、0030年代にコロニー建設用に開発されている。軍用機の技術進歩は、スピンオフし、民間機にまで派及している。

●キャトル

初期型のコロニー建設用大型ワーカー。ホバーによって移動する。4本のマニピュレーターは用途により使い分ける。動力はディーゼルエンジンと燃料電池。駆動系は油圧アクチュエータとモーター駆動の併用式。主にコロニー内で使用された。

●Jr(ジュニア)MS

月面作業用小型ワーカー。低重力下用の設計で、右肩にビ

Jrモビルスーツ用ハイパービーム砲

ワーカー

コロニー用
ブチ・モビルスーツ

月面作業用Jrモビルスーツ

Worker

ワーカー

ーム削岩砲を装備可能。エウ
ーゴはこの砲にエネルギーC
AP技術を導入し、ハイパー
ビーム砲に改造した。股間に
ジャンプ用のロケットモータ
ーを装備する。

●プチ・MS

汎用小型ワーカー。コクピ
ットは気密性があり、ノーマ
ルスーツ未着用でも、宇宙に
出ることが出来る。プラスチ
ックボディの軽量設計で、1
Gでも軽快な運動性を見せる。
右マニピュレータにはウィン
チを内蔵する。

●ミドル・MS

汎用中型ワーカー。大型ク
レーンを装備し、右腕にウイ
ンチを内蔵する。歩行能力は
低い。ロケットモーターで
ジャンプ可能。コロニー内作
業用。

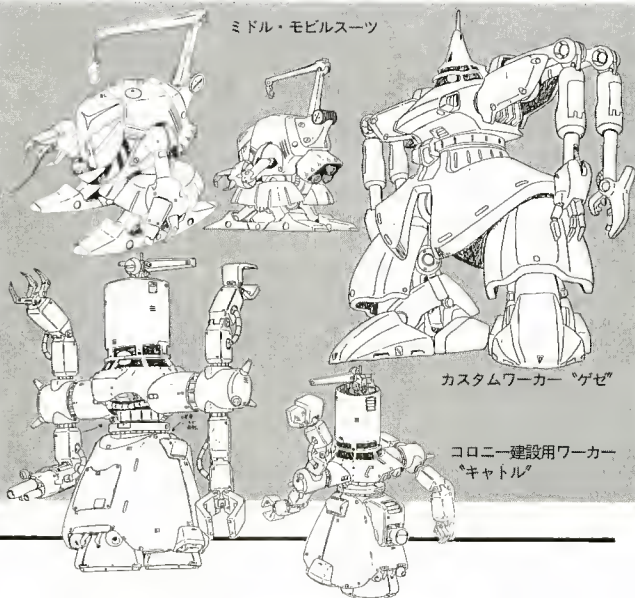
●ゲゼ

汎用大型^{ヘビィ}ワーカー。4本の
作業用マニピュレータを装備
し、そのパワーは軍用機並み
である。コクピットカーゴは
胴回りを移動できる。

ワーカーのメーカーは、ア
ナハイム社が最大手で、市場
の8割を独占している。

また、この時代ワーカーの
他にもホビー用として、軍用
MSのレプリカがはやってい
た。(金持ちの道楽)中でも
軍の放出品、あるいは宇宙を
漂流していた残骸をレストア
した機体は価値が高いといわ
れている。もちろん、武装は
廃除されているが、ジェネー
タはそのままになっている。
お手軽なホビー^{グリップル}としては、
JrMSによる格闘技がスポー
ツとして定着し、市販機を改
造する愛好者が急増している。

ミドル・モビルスーツ



カスタムワーカー「ゲゼ」

コロニー建設用ワーカー
「キャトル」

ガンダム・オフィシャル・レポート、6

宇宙開発

Space frontier

U.C.0001~0089

交通

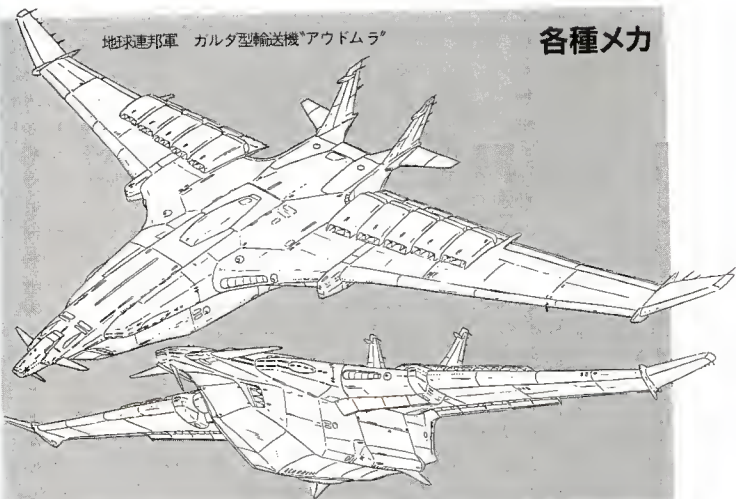
このコーナーでは前巻の補稿として、宇宙交通に関するさまざまなメカについて解説する。なお、紹介するメカの大半は一年戦争以前に登場していたものである。

●ガルタ型巨大輸送機

連邦軍が開発した史上最大の輸送機である。全長317メートル、翼長524メートル、最大積載量は9800トンに達し、熱核ジェットエンジン10基により、無補給で地球を2周できる。軍用機ではあるが、民間シャトルの打ち上げにも使用される。開発は0075年から開始され、1番機ガルタは0082年に就航、現在までにアウドムラ、スードリなど5機が建造されている。なお、この輸送機に

各種メカ

地球連邦軍 ガルタ型輸送機「アウドムラ」



Space frontier

宇宙開発

合う滑走路はほとんどなく、直陸、離陸は主に海上を用いている。また、低速飛行用に船底にはホバーノズルが装備されている。(離水時にも使用)

●HLV

旧型シャトル。化学燃料式ロケットエンジンを搭載し、外部に8基の燃料タンクを装備する。タンクは燃料が尽きた段階で投棄する。地上・衛星軌道間の往復に使われているが、現存するのは北米ヒッコリーの1機のみ。

●テンプテーション級シャトル

連邦軍所属。地上・宇宙間にとどまらずコロニー間の連絡船としても使われている。軍用ではあるが、武装はない。

通常は地上のカタパルト施設から打ち上げられるが、ガルダ型輸送機から高々度打ち上

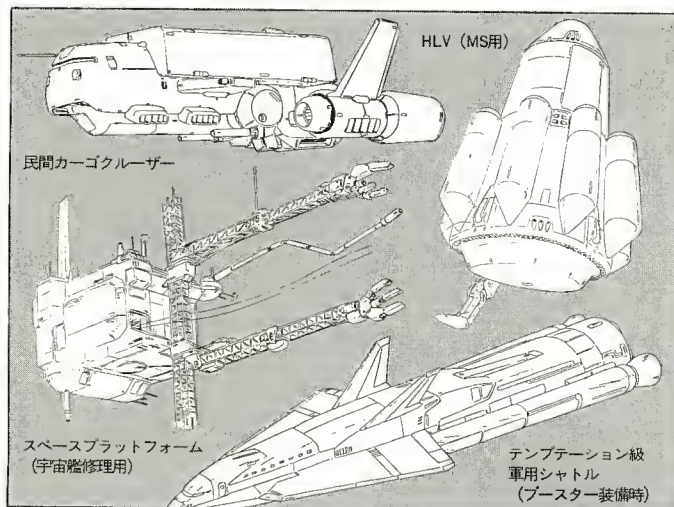
げも可能だ。大気圏離脱時にはブースターを装備する。

●カーゴクルーザー

民間宇宙貨物輸送船のひとつ。この他にも多くのバリエーションが存在する。一年戦争以降は海賊まがいのゲリラ組織の襲撃事件が群発し、自衛のためレーザー砲やミサイルランチャーを装備するようになった。

●スペース・プラットホーム

小型の宇宙船修理用浮きドック。いわゆるドック艦とは異なり移動能力がない。こういったプラットホームは、軍用、民間を問わず、多数存在する。



Space frontier

MS

(MS用語辞典③)

トリモチ・ランチャー・リニアシート

トリモチ・ランチャー【零

the bullet】外壁充填剤である

ウォールフィルムを改良し、MSの指から発射できるようにした。このトリモチは電波を吸収する。この他にもMSの指には、各種信号弾、ダミー、消火剤などが装填されている。

バイオセンサー【Biosense】

MSZ-006Zガンダム、MSZ-000ZZガンダム、PMX-003ジ・Oに装備されていたサイコミュの一種。

バインダー【Binder】MSの四

肢とは独立した動きができるスラストモデュール。

テールスタビレータと並びMSの運動性、加速性能を向上させる付加装備である。『バーニア』『ショルダ

』『ウイング』な

どのバリエーションがあるムーバブルフレーム【Moveable frame】MS・MSの駆動内骨

格。アクチュエータと制御機器だけで四肢の駆動が可能で、第一世代MSと異なり装甲の支持を必要としない。可変MSはムーバブルフレームなしには考えられ

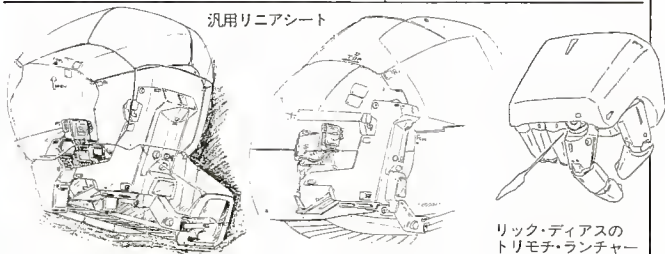
ない。

リニアシート【Linear seat】球

状の全周囲モニターの中央に備えられたMS用パイロットシートのこと。電磁石により、パイロットに加わるGや衝撃を中和する。

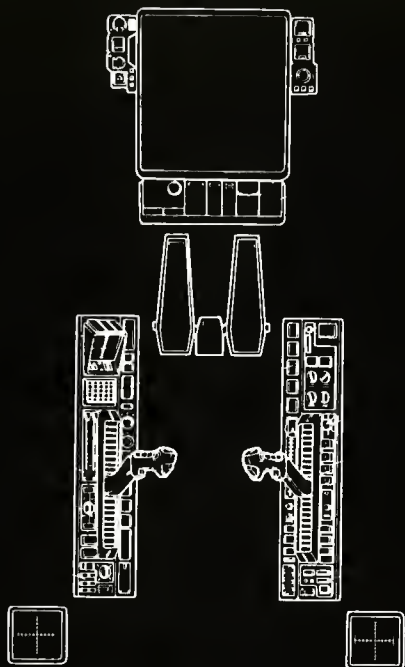
全天周囲モニターは機外カメラが捕えた映像をコンピュータが再構成したCG画面をリアルに投影する。第2世代以降のMSは全てこのリニアシートシステムが採用されており、第一世代も操縦装置の規格統一のためこのシステムが組み込まれた。また、このコクピットブロックはイジエクシオンポッドを兼ねており、さらにシートはアポジモーターが装備され、独立したイジェクションシートとなっている。

汎用リニアシート



ハイ・ザックのリニアシート

リック・ディアスのトリモチ・ランチャー



モビルスーツ

MS操縦マニュアル

M.S. Pilot Manual.

●MSは前大戦から7年間で長足の進化を迎えた。リニアシートの詳細解説に加え、新装備によるMS運用について考える。

Illustration by Shingo Takeba.

1. コンソール解説

この普及型リアシート（TS-17F）は、0084年にアナハイム・エレクトロニクス社で開発された。旧型よりも機体制御・火器管制航法COMの性能が優れ、そのバックアップによりパイロットワークは大幅に軽減されている。

全天周囲モニターは、液晶方式のディスプレイで、パイロットの視点を中心に360度の視界で機外の映像を再現する。モノアイと10数ヶ所のサブカメラによる映像情報を機体管制COMに送り、CGにより再構成している。

シート正面のCRTディスプレイボードは、通常時はマルチディスプレイとして、多目的に使用されているが、戦

闘時は照準用となる。また、敵機が複数の時はシート上部両脇の投影式ディスプレイが全天周囲モニター上の敵機映像に照準を投影する。

また、通信用として全天周囲モニターが用いられている。これらの操作は、ボード右脇のディスプレイ・モードセレクターと、右サイドコンソール上のディスプレイコントロールにより行われる。なお、照準火器管制COMの担当である。ディスプレイコントロールの操作により、敵機の走査データが表示される。COMに機体データが入力されていけば、性能や武装などの情報も求めることができる。機体データの入力は、ボード左脇のI/Oポートに入力

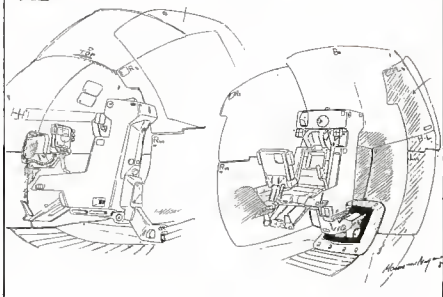
用のCOMを接続すればよい。

火器管制は両サイドボード上のコントロールスティックだけでは80パーセントを制御する。スティックには火器のセレクター、トリム、トリガーがあり、両サイドで使用できる火器が決められている。残りの20パーセントはオフションの制御であり、左サイドコンソール上のウェポン系パネルを使用する。

機体制御は、フットペダルとコントロールスティックで行う。ジェネレータ系、燃料系などの補助的作業は両サイドコンソールで操作する。戦闘時は機体管制COMのバックアップがあるため、ほとん

設定デザイン

共通リアシート

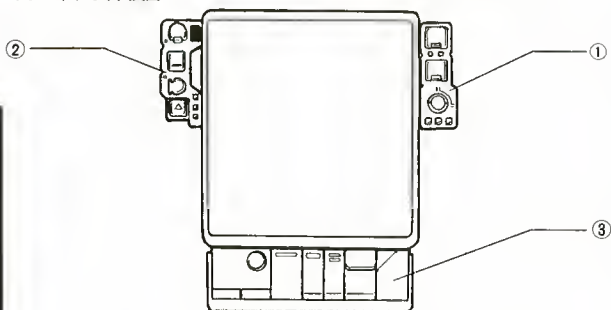


ど気にとめる必要はない。MSは各種のオプション装備、サポートシステムを用いるが、大半の制御ソフトを入力済みである。機体管制COMを呼び出し、概当機をセレクトすればよい。

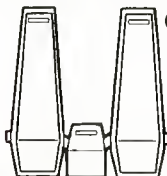
MS.PILOT MANUAL

イラスト/武半慎吾

●CRTディスプレイボード

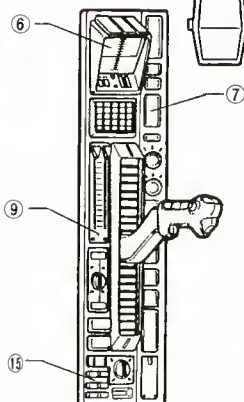


●フットペダル



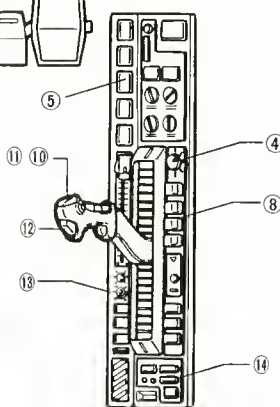
パネル&コンソール展開図

●Lサイドディスプレイ



●Lディスプレイ

●Rサイドディスプレイ



●Rディスプレイ

【コンソール各部名称】①ディスプレイ・モードセクター②I/Oボード③ディスプレイ起動スイッチ他④ディスプレイコントローラ⑤ワーニングモニター⑥サブディスプレイ（多目的）⑦コクピットコントロ

ール系スイッチ⑧スクリーンコントローラ⑨ジェネレータ系⑩セクター⑪トリム⑫トリガー⑬コンピュータ系⑭通信系パネル⑮ウェポン系

2. 第2世代モビルスーツの付加機能

現在、連邦軍（エウーゴ、ネオ・ジオンを含む）で使用されているMSは、全てバリユートシステムが装着可能だ。バリユートとは、大気圏突入用の装備で、展開したバルーンにそって高圧エアを吹出し、磨擦熱を遮断する。空

気の抵抗によって減速したのちに、バルーンを廃除し、胸部や脚部に装備したホバーユニットにより地表に降り立つ。

なお、燃料の残量があれば脚部ホバーユニットだけを残し、地表をホバー走行すれば電撃作戦に使える。（第2世代以降のMSは脚部スラ

スターの推力が増大し、ホバー走行が可能だ。しかし、1Gの重力下

では推進剤の消費率が激しく、短時間の使用に限定されている）燃料が切れた時は、ユニットを除去できる。

MSサポートシステムの代表格としてメガランチャーが掲げられる。これは大型のメガ

粒子砲で、艦載砲クラスの射程と性能を持つ。

砲の内部にも核融合炉があるが、稼働するためにはMS側か

らもエネルギーを供給する必要

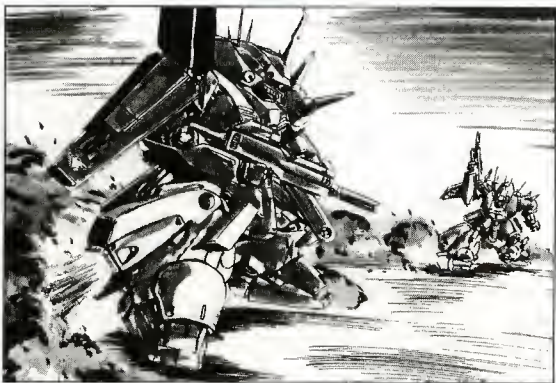
がある。メガコンデンサーの性能向上とともに

バックアップの必要はなくなっ

ていったが、初期型ではハイザック2機分のエネルギーを消費した。

ランチャーに

は長距離型のセンサーが装備されており、操作するMSのモノアイの正面にあるスコー

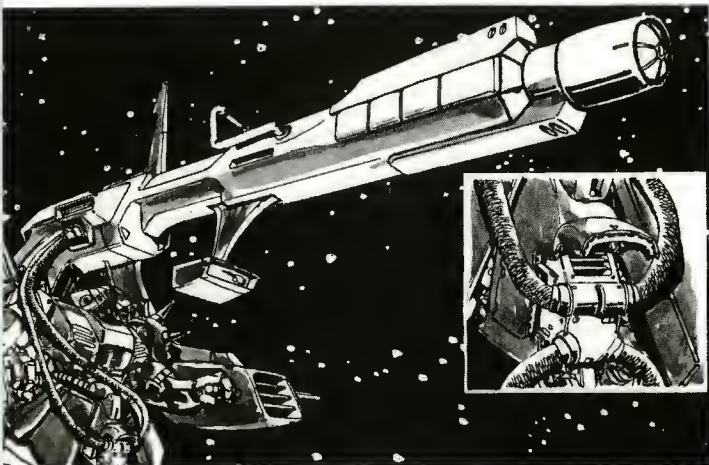


イラスト／武平廣吉（以下同）

プに情報が表示される。ランチャーの照準はMS側で行うが、照準用のアポジーモータ

MS.PILOT MANUAL

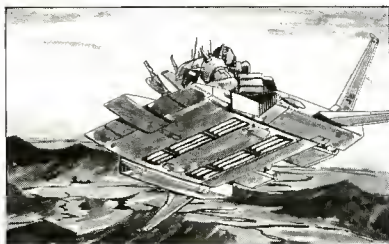
メガランチャー。稼働
のためにMS 2機分の
パワーを必要とする



エネルギーコネクター

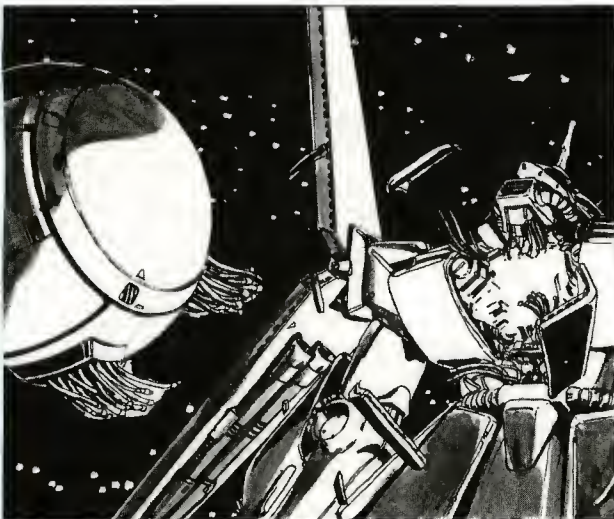
ーが装備され、操作そのものはビームライフルと変りない。ランチャーの欠点は、再発射のためのエネルギー再充填の時間がかかることである。また、バックアップ用のエネルギー供給も高出力であるため、MS側の核融合炉がオーバーヒートする危険性がある。サポートシステムの中にはサブフライトシステムも含まれる。大気圏内用と宇宙用の2種類があるが、基本的にMSを乗せて飛ぶという点では変りない。ドダイ改を除けば無人機で、グリップとMSのマニピュレータを接続し、機体を制御する。無線による遠隔制御も可能だが、ミノフスキー粒子散布下では制御を失う。従ってフライトユニットに乗ったまま射撃戦を行うのがセオリーだが、練度の高

サブフライトシステム[※]ドダイ改[※]



いパイロットは、MSを単独で飛行させ(短時間に限る。推進剤が切れれば墜落する)敵を倒し、再びフライトユニットとドッキングする高等戦術をマスターしている。

3. 脱出システム



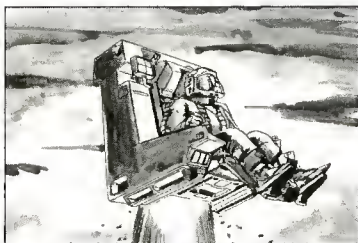
第1次装甲を爆破除去して、ポッドを射出する

現在使用されているMSは、一部の例外（コアブロックシステムを採用しているMSZ-1010ZZガンダム）を除いて、イジェクションポッドを採用している。この脱出システムはコクピットブロックごと機外に射出するもので、一年戦争時のシート単体の脱出システムより生残性³が高い。

手順は、機体に重大な損傷が生じると、機体管制COM³がそれをメインCOMに伝え、メインCOMがコクピットブロック周辺の第1次装甲を仕掛けられた炸薬によって吹き飛ばす。次にイジェクションポッドをやはり炸薬で機外に射出する。ポッドは飛ばされた慣性のまま宇宙を漂流する。あとは救難ビーコンを出しながら救助を待つ。

リニアシートは、アームを

外してポッド外に出すことができる。シートにはアポジモーター³があり、移動が可能だ。大気圏内ではシートの下のスラスタ³を利用して、イジェクションシートとする。パラシュート³なしで、シートごと安全圏に離脱できる。



大気圏内ではシートをイジェクションシートとして使用する

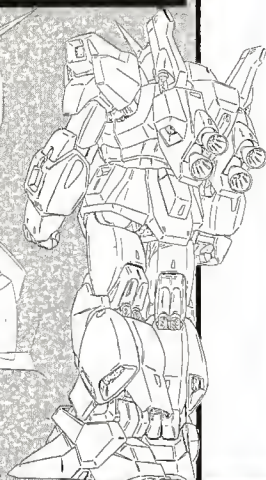
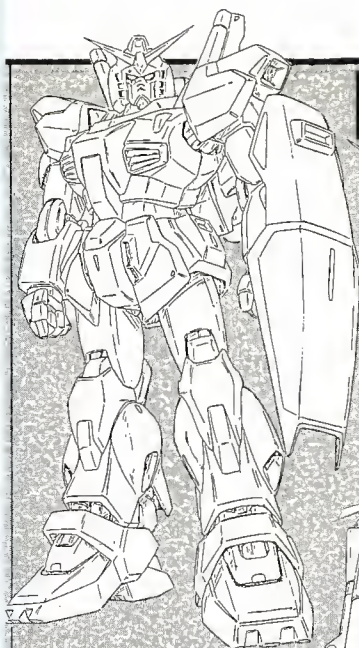


モビルスーツ

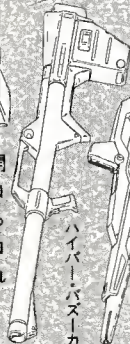
MS設定資料集

M.S. Design collection.

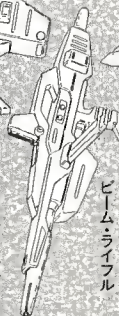
●「機動戦士Zガンダム」「機動戦士ガンダムZ
Z」「Z-MSV」「ZZ-MSV」に登場するMS、
MAのデザイン画を解説付きで紹介する。

RX-178
ガンダムMK-II

ティターンズがグリプスIで開発していたMS。汎用型だが、コロニー内戦闘を重視した設計となっている。RX-78の再設計機だが、コアブロックシステム等は排除されている。



ハイパー・バズーカ



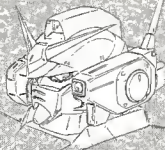
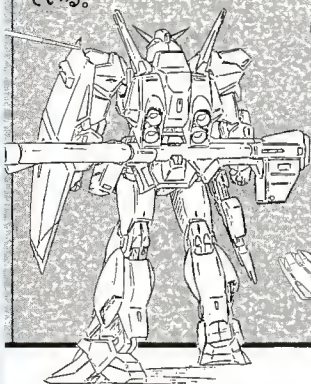
ビーム・ライフル



ビーム・サーベル



シールド



バルカン・ポッド・システム

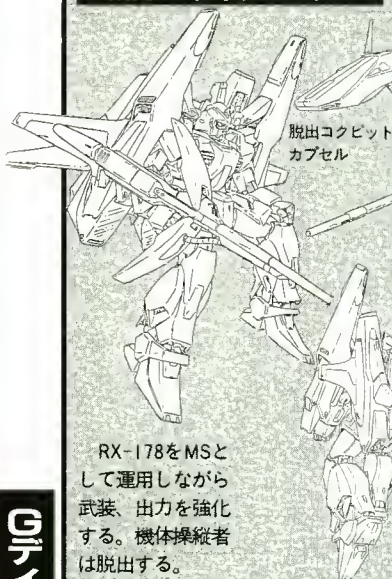


脚部スラスト



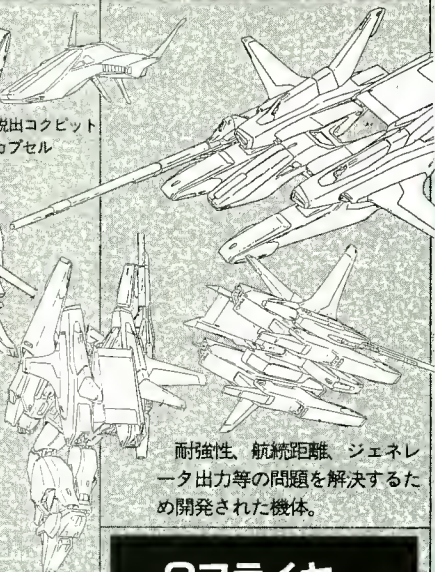
ガンダムMK-II

MK-IIディフェンサー



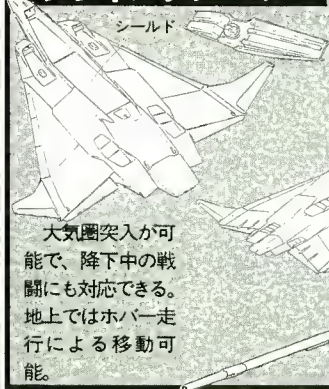
RX-178をMSとして運用しながら武装、出力を強化する。機体操縦者は脱出する。

FXA-05D Gディフェンサー



耐強性、航続距離、ジェネレータ出力等の問題を解決するため開発された機体。

フライングアーマー



大気圏突入が可能で、降下中の戦闘にも対応できる。地上ではホバー走行による移動可能。

Gフライヤー

長距離航行時の形態。機動性、航続距離が飛躍的に向上する。



RMS-099 リック・ディース



脚部スラスタ

ビーム・サーベル

バルカン・
ファランクス

クレイ・バズーカ

ビーム・ピストル

ガンダリウム・γを最初に装甲として装備した機体。そのため軽量化とプロペラント増加が可能となる。連邦をあざむくため、正式ナンバーのMSA-009はふせられていた。

RGM-79R ジムII

ビーム・
ライフル

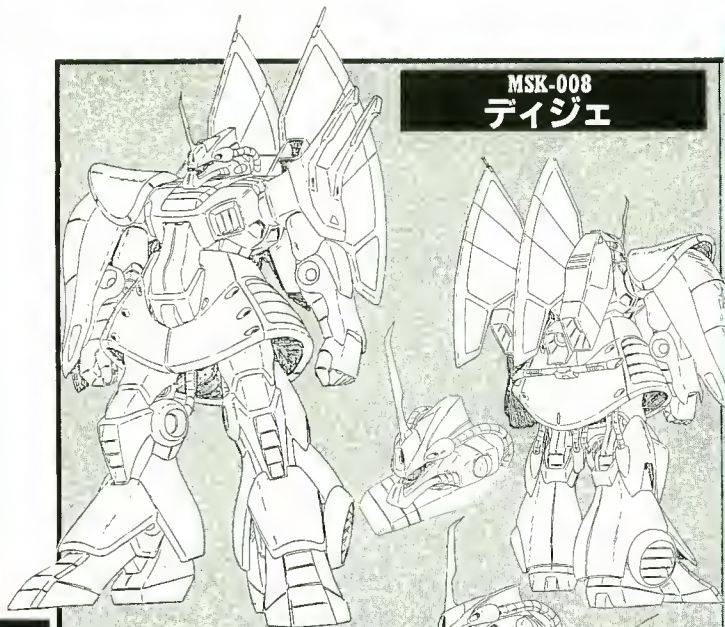
脚部スラ
スタ

ビーム・サーベル

一年戦争当時、主力機として量産された機体を改修したもの。性能に大きな変化はみうけられない。

リック・ディース／ジムII

MSK-008 ディジェ



RMS-099を、地球での運用に対応するように改造した機体。ジェネレータ出力等が地球用に調整された。

脚部スラスタ

MSA-003 ネモ

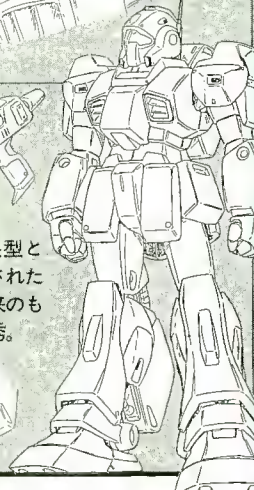
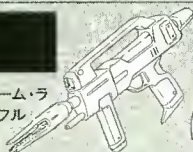


シールド

ビーム・ライフル

RGM-79Rの発展型として設計され量産された機体。武装等は従来のものだが、性能は優秀。

脚部スラスタ



MSN-100 百式

Z計画試作MSの一機。予定の可変機構は廃止されたが、基本性能が優秀だったので、現在の機体に改修された。M・ナガノ博士の提案で名称が百式となった。

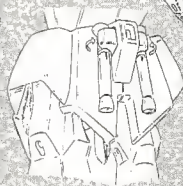
ビーム・ライフル



メガ・バズーカ・ランチャー (収納時)



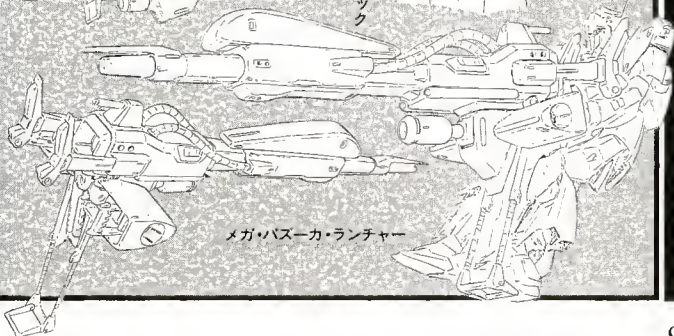
ビーム・サーベルラック



脚部スラスタ

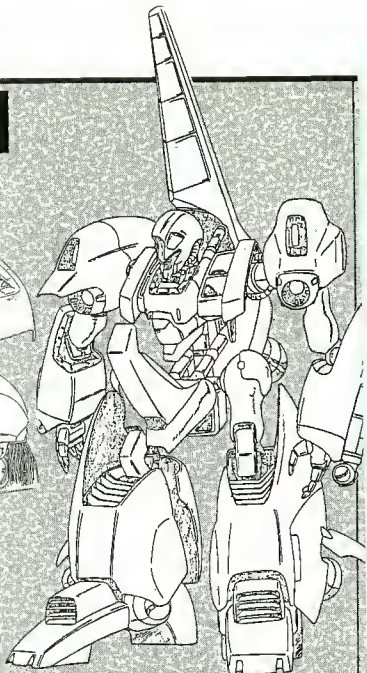
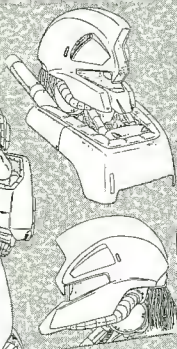
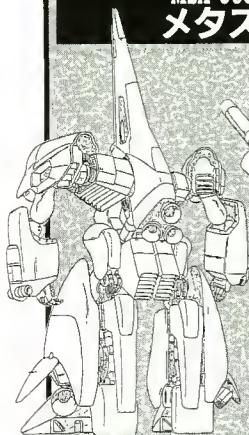


メガ・バズーカ・ランチャー



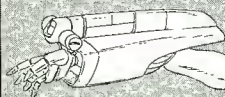
百式

MSA-005
メタス

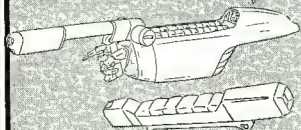


Z計画試作MSの一機。可変MS開発のため試作された。運動性、加速性能は充分だったが、機体自体の耐久性に問題があり量産化は見送られた。

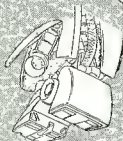
メタス



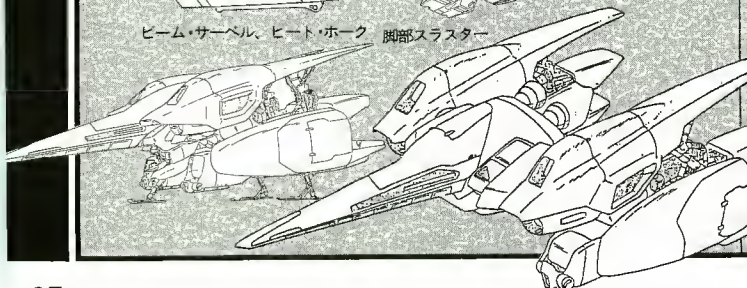
アーム・ビーム・ガン



ビーム・サーベル、ヒート・ホーク



モビルアーマー形態



MSZ-006 Zガンダム

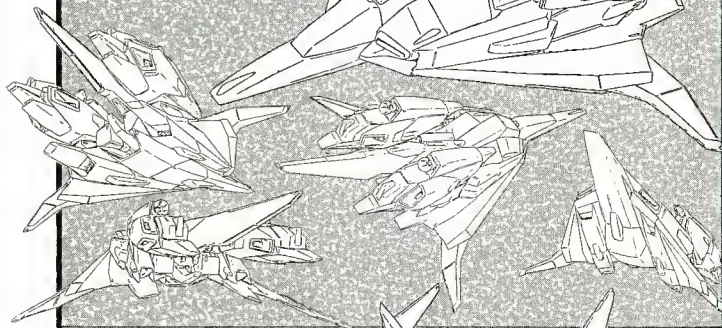


単独で大気圏突入能力を持つ唯一のMS。サイズを超えたポテンシャルを持ち、後にバイオセンサーが搭載され機体の追従性が大幅に向上した。

Zガンダム

ウェイブライダー

MSZ-006が変形したもので、大気圏突入能力を持ち、大気圏内での飛行も可能である。



変型システム



RMS-106 ハイザック

一年戦争後、連邦軍が初めて開発、量産した機体。ジオン、連邦の技術が混在し、特徴がなく出力不足。

ビーム・ライフル

ザク・マシンガン改

ヒート・ホーク

ビーム・サーベル

ザク・シールド

ミサイル・ポッド

RMS-106CS ハイザック・カスタム

RMS-106の改造型、専用の狙撃銃を持ち、装甲の強化もなされている。

ビーム・ランチャー(狙撃用)

ハイザック・ハイザック・カスタム

RMS-108 マラサイ

バリエーション装着

RMS-106の発展型。装甲にガンタリウムを採用し、ジェネレータ出力も向上し、複数のビーム兵器も使用できる。

マラサイバーサム

RMS-154 バーサム

RMS-79Rに代わる量産機。コストパフォーマンスが高い。

脚部スラスター

ビーム・サーベル
ビーム・ライフル

RMS-117 ガルバルディβ

MS-17Aの改修機。外装を改修し軽量化により運動性が向上。戦後連邦が改修量産した。

シールド

脚部スラスター

信号弾

ビーム・サーベル

デ・ビルより

機体の変形によらずに大気圏飛行性能を持つMS。スラスターを換装することにより、宇宙での運用も可能。

RX-160 バイアラン

メガ砲

ビーム・サーベル

脚部スラスター

ガルバルディβバイアラン

RX-110 ガブスレイ

砲撃戦、格闘戦共に性能が高い可変MS。MA形態では高い運動性を発揮、巨大なクローアームが特徴。

ビームサーベル

脚部スラスタ

中間形態

フェーダイン・ライフル

モビルアーマー形態

ガブスレイ

ORX-005 ギャプラン

高々度迎撃用に開発された可変MA。変形時の推力は高いが大気圏内で長時間の飛行はできない。MS形態でもブースター装備可能。

ビーム・サーベル

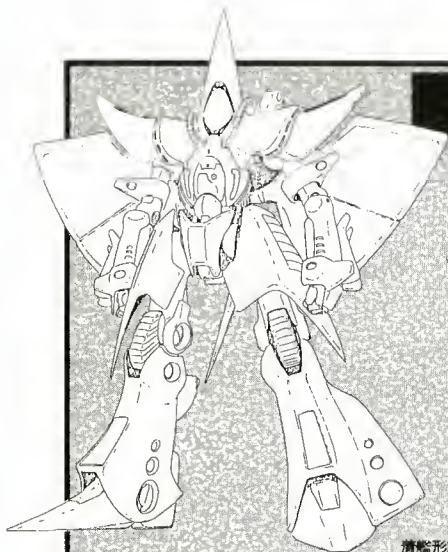
モビルアーマー形態

ブースター

ブースター装備

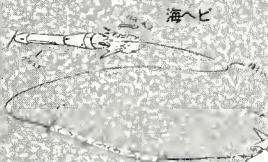
ギャプラン

RX-139
ハンブラビ

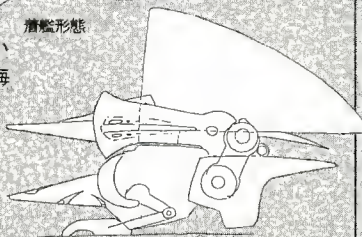


滑空形態

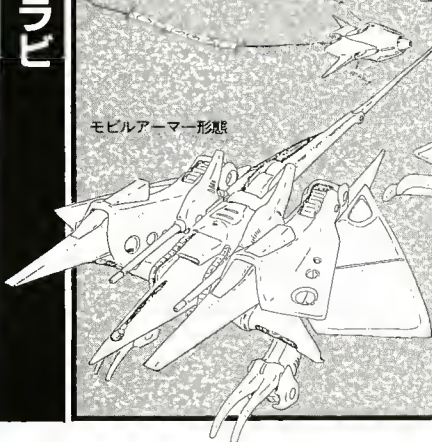
変形機構が単純で、量産しやすい
可変MS。パワーが高く、特殊武器“海
へビ”による電撃攻撃が特徴。



海へビ



モビルアーマー形態



脚部スラスタ

NRX-004 アッシマー

独特の円盤状のフォルムを持つ連邦軍の、空戦用としては初めての可変MA。耐久性、耐弾性が高く、量産性も高いため、連邦軍の各基地に配備されている。

胸アーマー
オープン

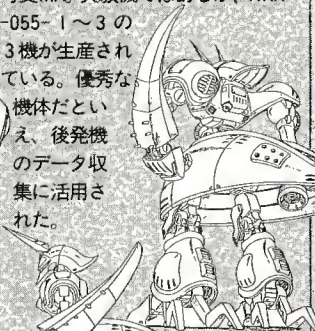
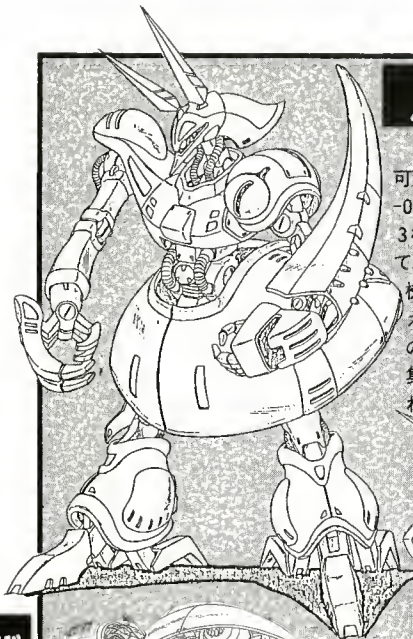
大型ビーム・ライフル

モビルアーマー形態

アッシマー

NRX-055 バウンド・ドッグ

サイココミュを搭載した連邦軍の可変MA。実験機ではあるが、NRX-055-1~3の3機が生産されている。優秀な機体だといえ、後発機のデータ収集に活用された。



ビーム・ライフル

メガ拡散粒子砲

クランク
アーム

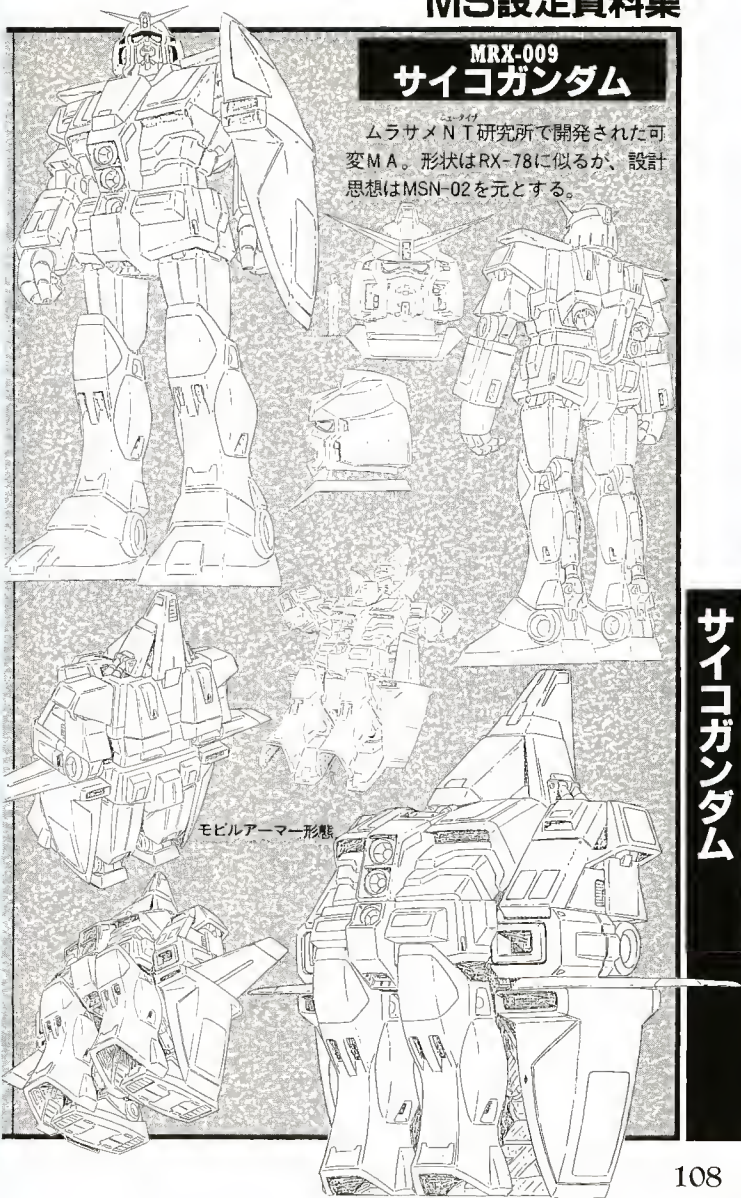
モビルアーマー形態

バウンド・ドッグ

MRX-009

サイコガンダム

ムラサメNT研究所で開発された可変MA。形状はRX-78に似るが、設計思想はMSN-02を元とする。



サイコガンダム

MRX-010 サイコガンダムMK-II

MRX-009の発展型。サイコミュ兵器を各種装備している。出撃し破壊されるが、ネオ・ジオンが回収する。

有線サイコミュ
ビーム・ソード

レフレクター・ビット

シールド・アーマー

モビルアーマー形態

サイコガンダムMK-II

PMX-000

メッサーラ

ジュピトリス製可変MA。木星の大重力に対応した大推力スラスターを搭載しているため、機体自体がかなりの大型となっている。格闘戦でも能力が高い。

ミサイル・ポッド

グレネード・ランチャー

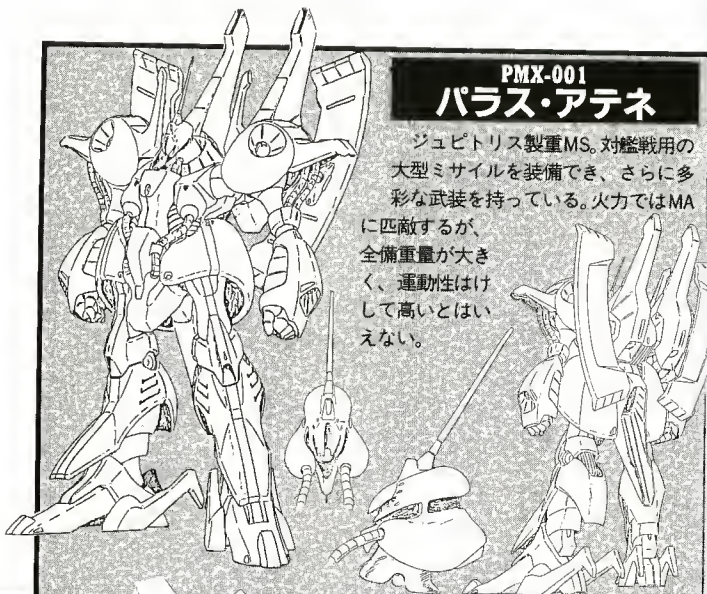
ビーム・サーベル

モビルアーマー形態

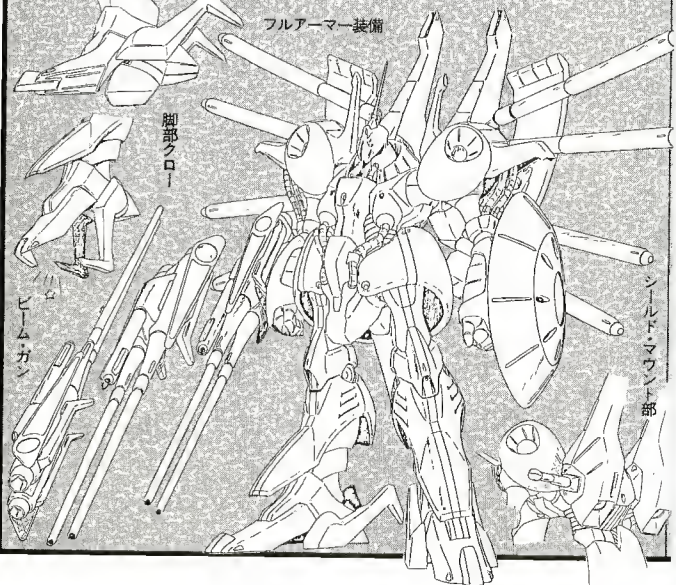
メッサーラ

PMX-001
パラス・アテネ

ジュピトリス製重MS。対艦戦用の
 大型ミサイルを装備でき、さらに多
 彩な武装を持っている。火力ではMA
 に匹敵するが、
 全備重量が大き
 く、運動性はけ
 して高いとはい
 えない。



フルアーマー装備



脚部クロー

ビームガン

シールド・マウント部

PMX-002 ポリノーク・サマーン

ビーム・サーベル
トマホーク

ジュピトリス製MS。機体
自体のポテンシャルに特筆
すべき点はないが、偵察お
よび、索敵能力に秀れてお
り、斥候として充分な能力
を発揮する。

シールド

PMX-003 ジ・オ

ジュピトリス製重MS。サイコミュ
の一種であるバイオセンサーを
装備し、駆動系を始めとし
て試験的装備
が数多い。

ビーム・ノック

ビーム・ライフル

隠し腕

ポリノーク・サマーン
ジ・オ

AMS-004 キュベレイ

アクシズ製MS。基本コンセプトとしてMAN-08のMS化がある。ビットに代りファンネルを搭載する。



モビルアーマー形態

ビーム・サーベル

AMX-001 ガザC

脚部クロー

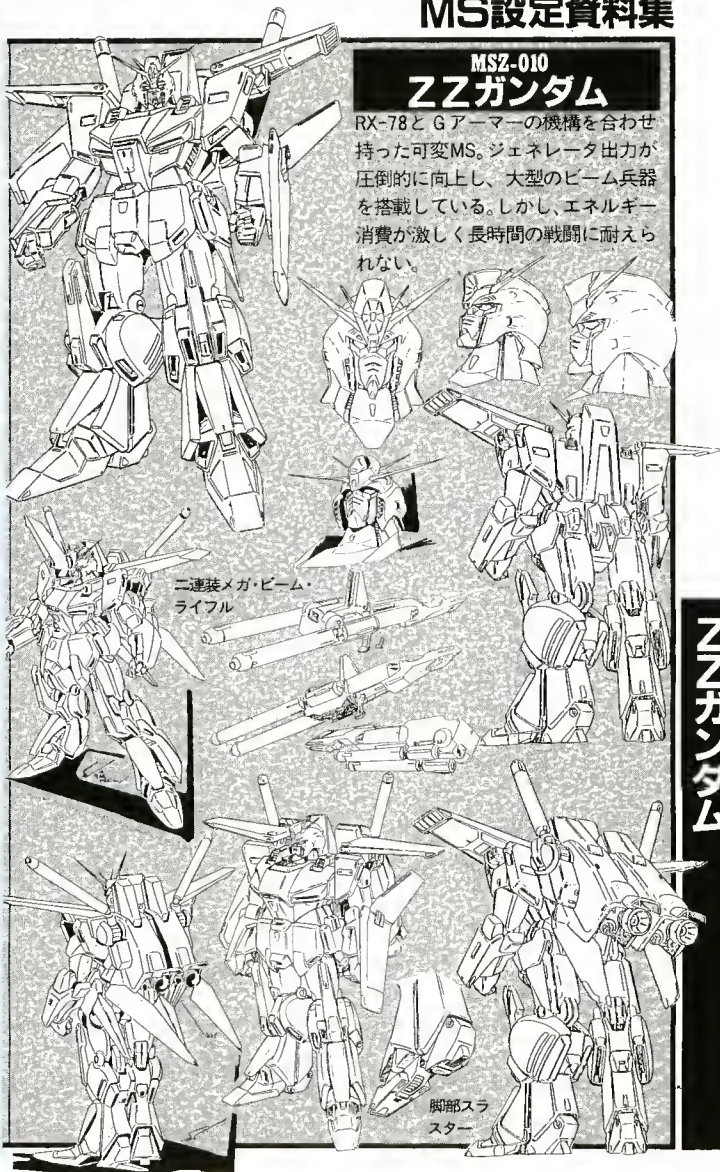
アクシズ製可変MS。作業用MSのガザA、Bの発展型。アクシズでの制式番号はMMT-1。生産性が高く、量産されている。

キュベレイ／ガザC

MSZ-010

ZZガンダム

RX-78とGアーマーの機構を合わせ持った可変MS。ジェネレータ出力が圧倒的に向上し、大型のビーム兵器を搭載している。しかし、エネルギー消費が激しく長時間の戦闘に耐えられない。



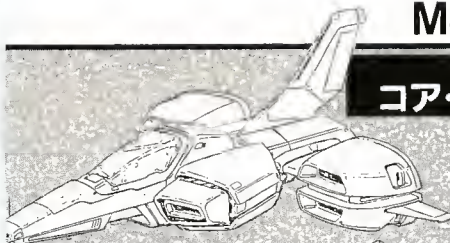
二連装メガ・ビーム・ライフル

脚部スラスター

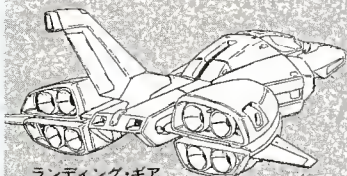
ZZガンダム

FXA-07GB コア・ファイター

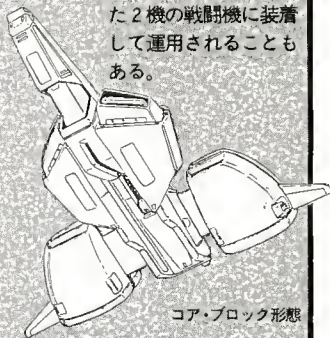
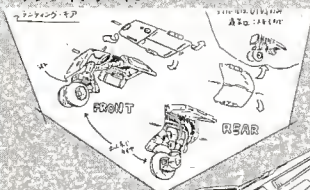
MSZ-010のシステムの中核をなすコア・ブロックが変型した戦闘機。MSZ-010が分離した2機の戦闘機に装着して運用されることもある。



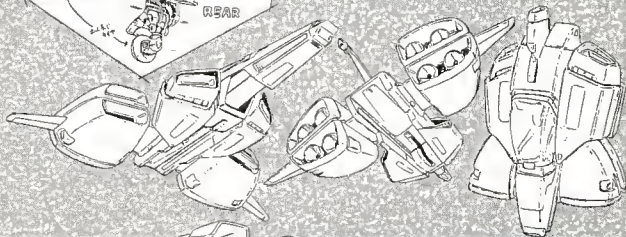
マイクロ・ミサイル・ランチャー



ランディング・ギア

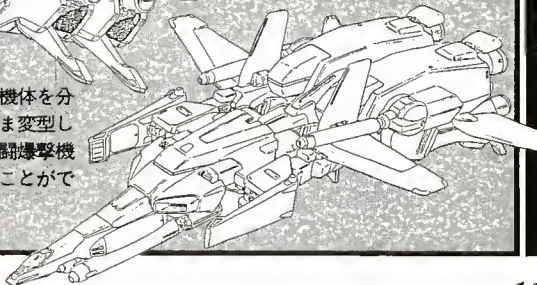
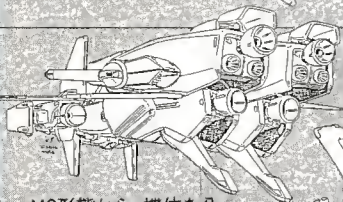


コア・ブロック形態



Gフォートレス

MS形態から、機体を分離せずにそのまま変型した形態で、重戦闘爆撃機として運用することができる。



コアファイター、Gフォートレス

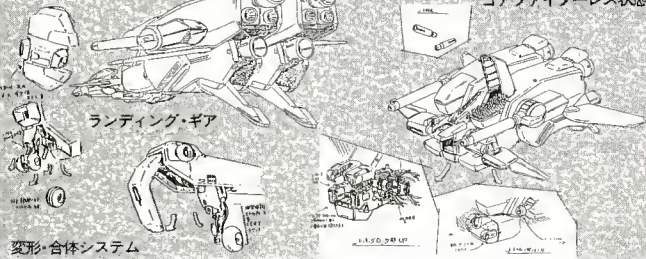
コア・トップ・コア・ベース

ランディング
ギア

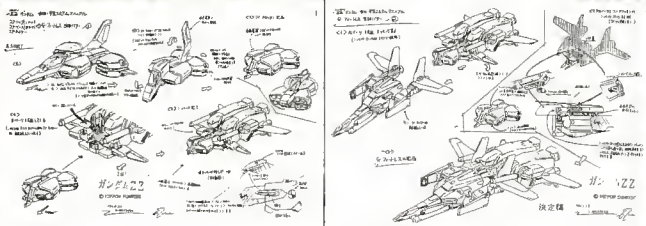


コアファイターレス状態

ランディング・ギア

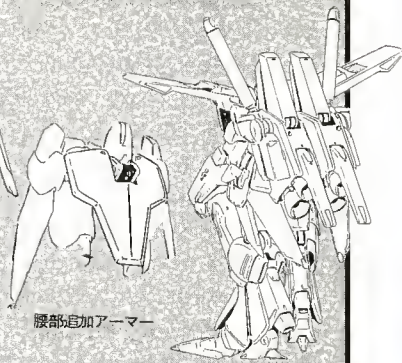
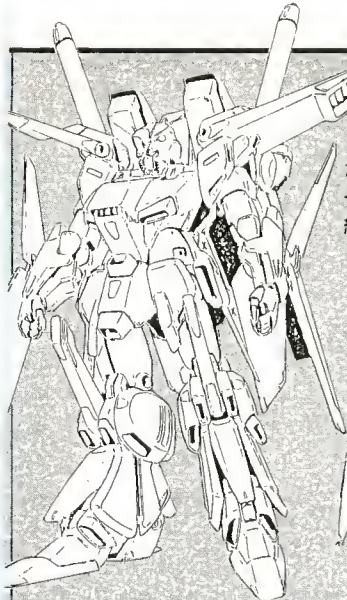


変形・合体システム



MSZ-010S ZZガンダム強化型

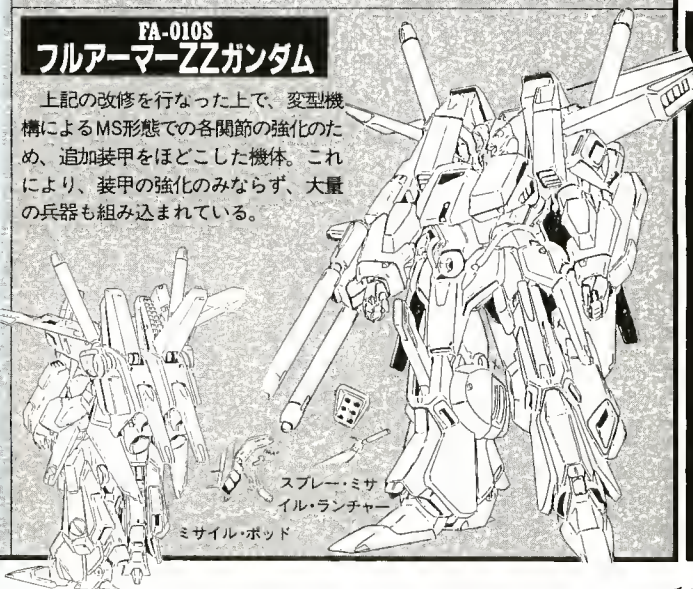
ネオ・ジオン軍のNZ-000に対抗するため、ランドセルの大型化。ジェネレータの高出力化などが行なわれた機体。細部にわたり改修されている。



腰部追加アーマー

FA-010S フルアーマーZZガンダム

上記の改修を行なった上で、変型機構によるMS形態での各関節の強化のため、追加装甲をほどこした機体。これにより、装甲の強化のみならず、大量の兵器も組み込まれている。



ZZガンダム

FXA-08R メガライター

一年戦争当時に構想があったバストライナーのコンセプトを生かし、地上用に設計しなおした機体。メガバズーカランチャーとベースジャンパーの機能を持たせ、MSの移動距離を延長させる。短期間の居住設備をあわせもつ。

メガライター

エンジン・ブロック

MK-II、ZZとの対比

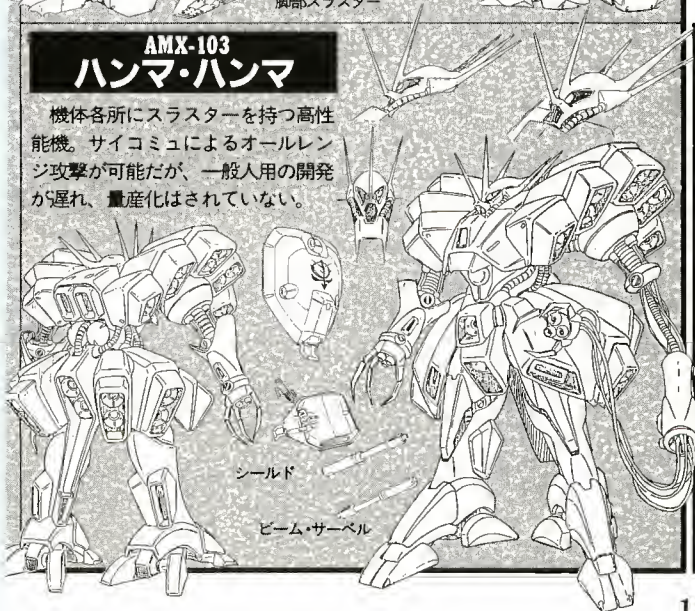
AMX-101 ガルスJ

ネオ・ジオン軍が、ガザシリーズとは別に、地球攻略用に開発した、陸戦用MS。生産性は高いが、AMX-009より性能は低い。



AMX-103 ハンマ・ハンマ

機体各所にスラスタを持つ高性能機。サイコミュによるオールレンジ攻撃が可能だが、一般人用の開発が遅れ、量産化はされていない。



ガルスJ・ハンマ・ハンマ

AMX-102

ズサ

AMX-101との共同作戦を前提に作られた機体でブースター装着により飛行可能。後方支援と強襲攻撃が主任務で、白兵戦にも対応する。

モビルアーマー形態

ミサイル

脚部スラスタ

大型ミサイル

ズサ

アル AMX-104

R・ジャジャ

MS-15と同じ設計思想で開発された機体で白兵戦力が高い。量産はされなかったが、騎士(指揮官)用として改造され実戦に投入された。



肩ポッドミサイル

ビーム・サーベル

銃剣(ヒート剣、ビーム・ライフル)

脚部スラスター

AMX-109 カプール

MSM-03Cの発展型で、ガンダリウムによる二重装甲を持ち、手足を収納した状態では耐弾性が飛躍的に向上する。

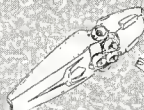
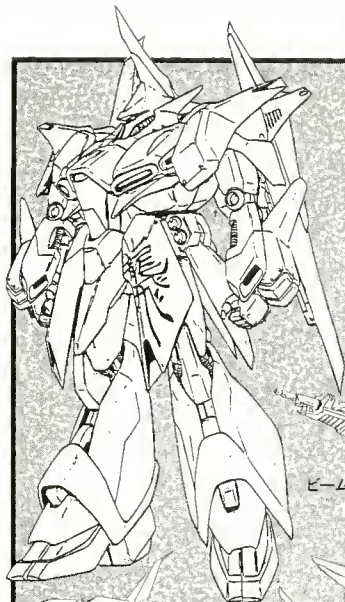
突撃進攻形態

ビーム・アイ

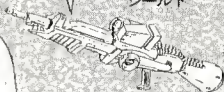
アル
R・ジャジャ
カプール

AMX-107 パウ

機体をふたつに分離し、それぞれが可変機構をもつ可変MS。下半身の操縦者はおらず、上半身からコントロールできる。後に量産された。



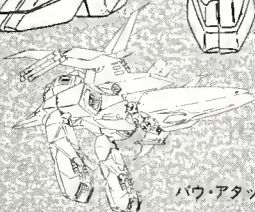
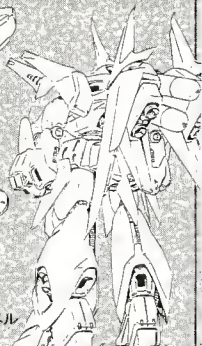
シールド



ビーム・ライフル



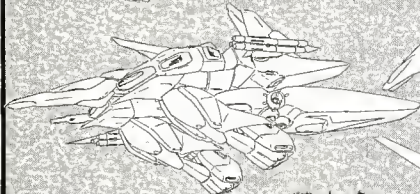
ビーム・サーベル



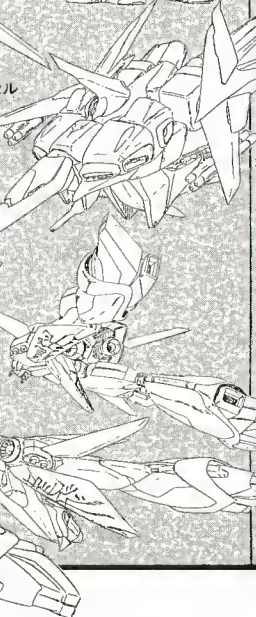
パウ・アタッカー



ランドセル



パウ・ナッター



AMX-006

ガザD

AMX-003の発展型で、MS形態での戦闘力が向上している。基本的な構造も同じで生産性が高く、火力も増強されている。

ナックル・バスター

機首アップ

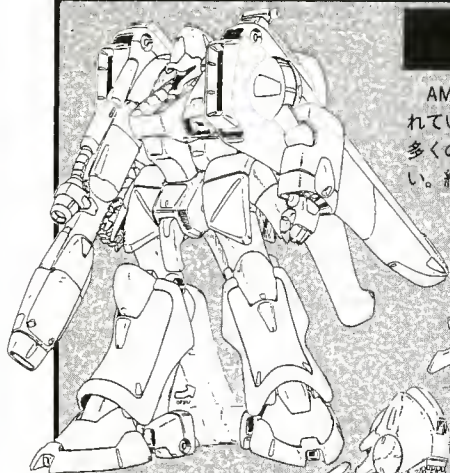
モビルアーマー形態

機首アップ

ガザD

AMX-008 ガ・ゾウム

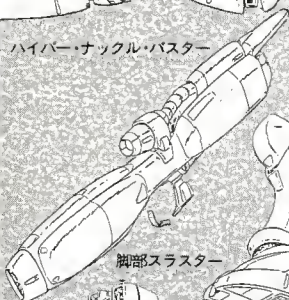
AMX-006と比べ、攻撃力が増強されている。外観はかなり異なるが、多くの部品が共用でき、生産性は高い。純粋なガザ系の最終型。



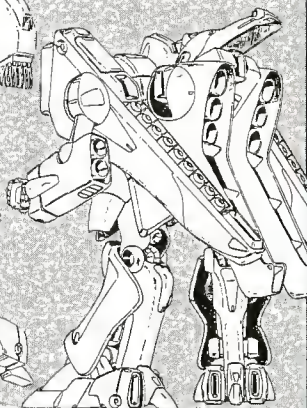
ハイパー・ナックル・バスター



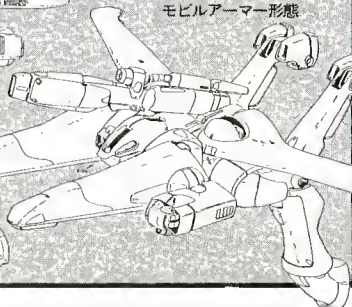
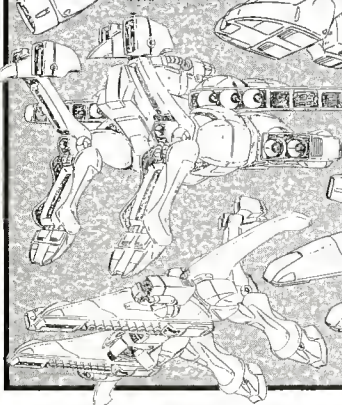
ミサイル



脚部スラスタ

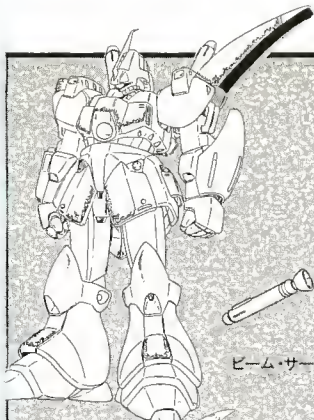


モビルアーマー形態



AMX-117R(L) ガスアル(ガズエル)

一年戦争時量産されたMS-17Bの改造機。肩アーマーに各種武器を内蔵できる新衛隊専用機。

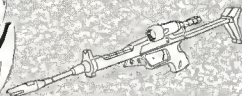


ビーム・キャノン、サーベル

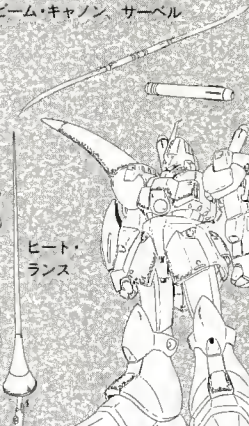
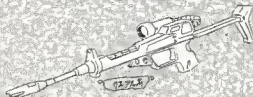
ビーム・サーベル



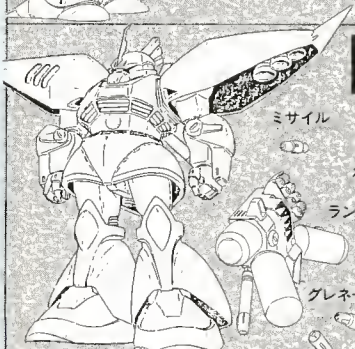
ガスアル用ビーム・ライフル



ガスアル用ビーム・ライフル



ヒート・ランス



ミサイル



MS-14の高機動型。ウィングバイonder内にスラスターを持つ。在来機をアクシズで改造したもの。

ランドセル



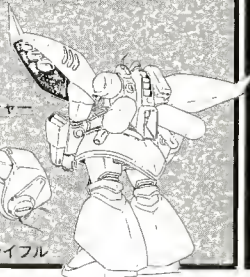
グレネード・ランチャー

グレネード弾



指揮官用ビーム・ライフル

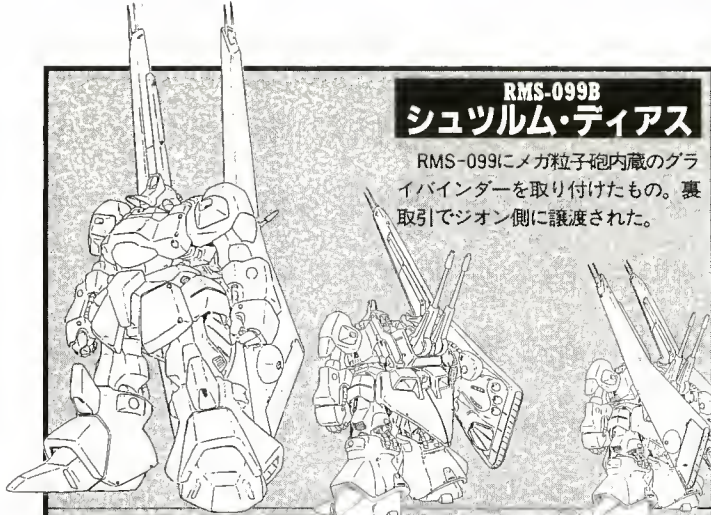
ビーム・ライフル



ガスアル
リゲルグ

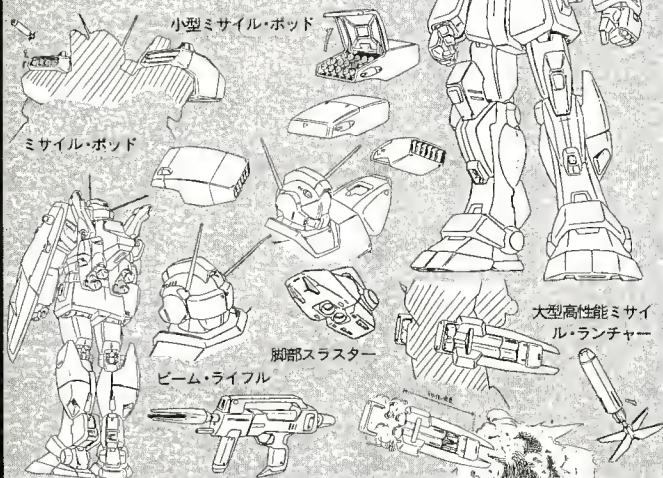
RMS-099B シュツルム・ディアス

RMS-099にメガ粒子砲内蔵のグレイバインダーを取り付けたもの。裏取引でジオン側に譲渡された。



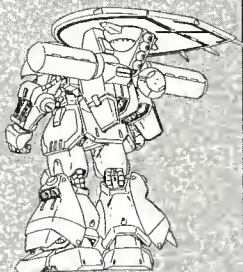
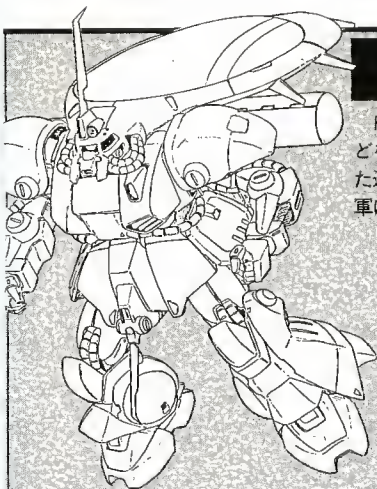
RGM-86R ジムIII

RGM-79の発展型で、79Rと違い、生産性を重視しつつ新技術が投入され、支援用MSとして優秀。



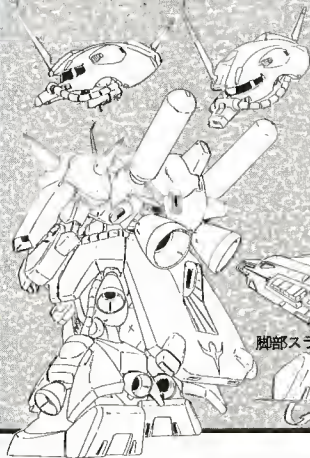
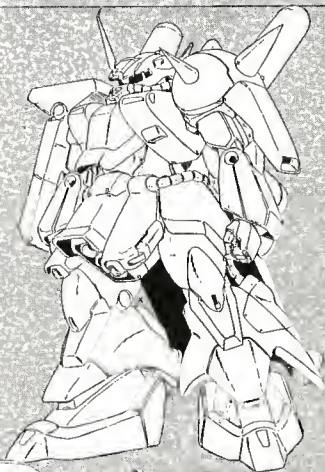
RMS-119 アイザック

RMS-106の頭部、バックパックなどを改修した偵察用MS。開発していた連邦軍の基地から、ネオ・ジオン軍によって奪われた機体。



AMX-011S ザクIII改

AMX-011の改造機。顎部のメガ粒子砲が廃止され、側頭部に30mmバルカン砲が装備された。推力の増強と稼働時間の延長がなされた。



脚部スラスター

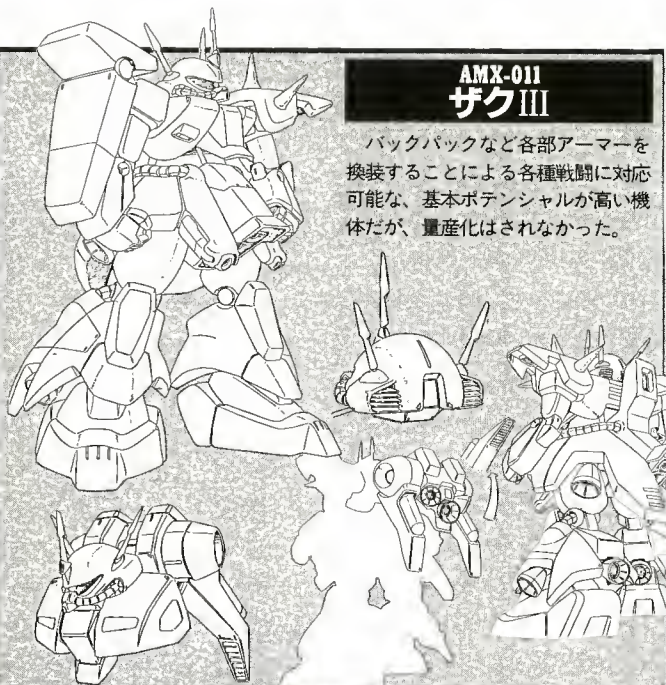
ビーム・ライフル

ビーム・サーベル

アイザック、ザクIII改

AMX-011 ザクIII

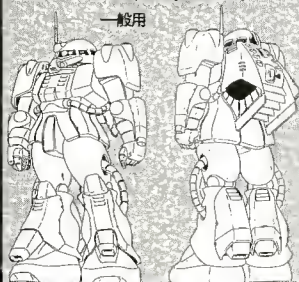
バックパックなど各部アーマーを換装することによる各種戦闘に対応可能な、基本ポテンシャルが高い機体だが、量産化はされなかった。



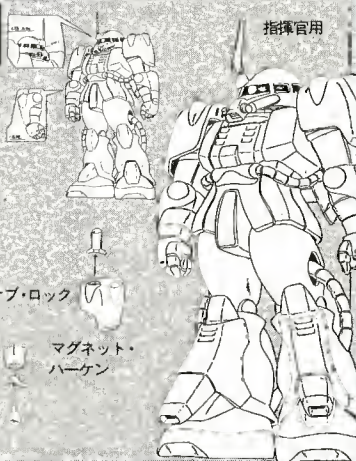
RMS-192M ザク・マリナー

MS-06Mをベースに連邦が再設計した機体。陸戦時にはハイドロジェットを排除できる。RMS-119同様、ネオ・ジオン軍に奪われた。

一般用



指揮官用



サブ・ロック

マグネット・ハーケン

MS-06D

ディザート・ザク

MS-06Dの改造機。所属部隊による独自の改造機で、連邦軍の基地などから奪った資材を使用し、燃料積載量増加などが行われている。

クラッカー・ボッド



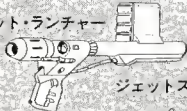
マシンガン



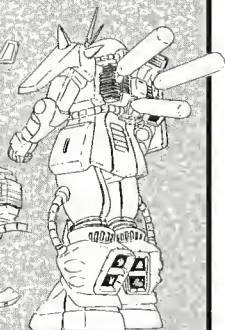
ランドセル



ロケット・ランチャー



ジェットスキー



MS-09G

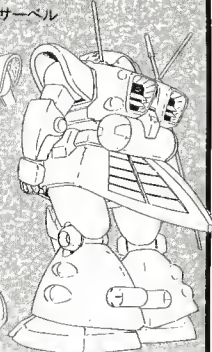
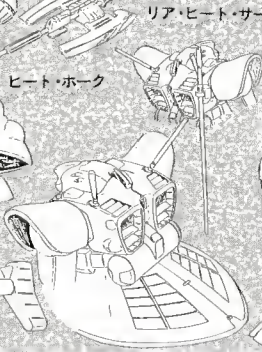
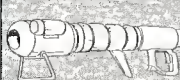
ドワッジ

MS-09の後期量産型で、陸戦能力が飛躍的に向上している。プロペラントの増量などが行なわれており、ホバーの稼働時間が延長された。

リア・ヒート・サーベル

ヒート・ホーク

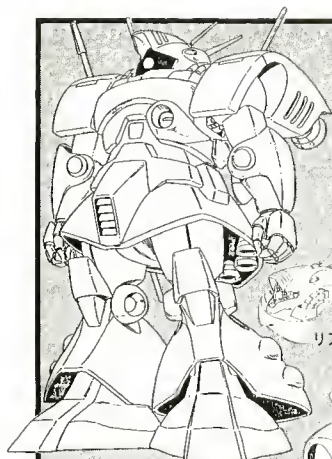
ジャイアント・バズ



ディザート・ザク・ドワッジ

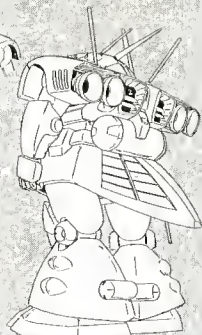
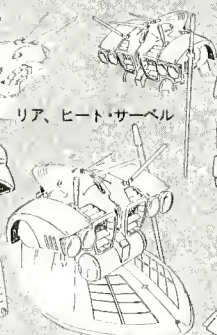
MS-09H ドワッジ改

MS-09Gの改造機で、熟練パイロットの専用機。肩のブースター増設など、様々な追加装備をほどこし、推力などが強化されている。



リア、ヒート・サーベル

ビーム・カノン



AMX-009 ドライセン

AMX-101、102などと同じく地球降下戦作のため開発されたMS-09系の発展型。各種陸戦用の特殊装備が数多く採用されている。

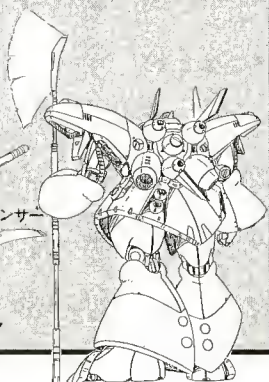
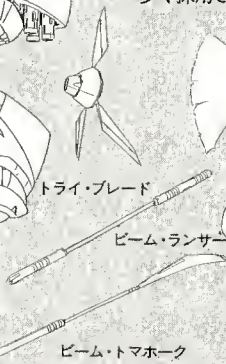
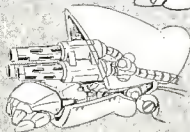


トライ・ブレード

ビーム・ランサー

ハンドガン

ビーム・トマホーク



AMX-004-2(3) キュベレイMK-II

AMS-004と基本性能に大きな差はなく、兵装や細部に若干の変更があったのみであるが、3号機は外部からの制御が可能となっている。

ファンネルポッド

ファンネル

バインダー

ビーム・サーベル

AMX-004G 量産型キュベレイ

AMX-004の量産機であるが、性能は向上している。武装が大型化し、ファンネルの積載量も増え、一機あたりの攻撃力が強化されている。

ファンネルポッド

バインダーマウント

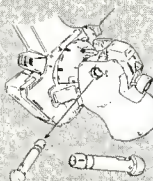
ビーム・サーベル

キュベレイMK-IIの量産型キュベレイ

AMX-014 ドーベンウルフ

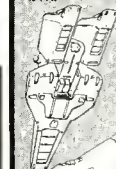
MRX-010を参考にして開発された機体。一般人に対応のサイコミュを装備した重MSで多彩な隠し武器を持つ。量産型の腕部は有線。

隠しランチャー

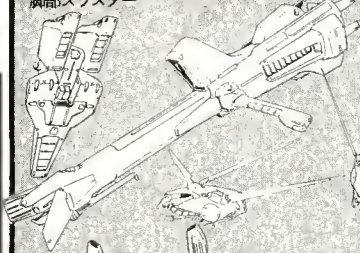


ビーム・サーベル

脚部スラスター



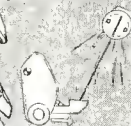
メガ・ランチャー



隠し腕



リレーインコム

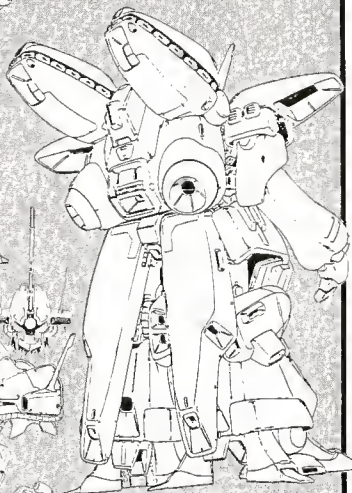


ドーベンウルフ

AMX-015 ゲーマルク

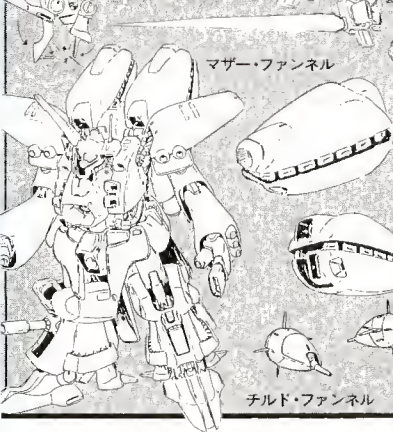
強化人間専用のMS。火力ではAMX-014に匹敵し、マザーファンネルシステムにより長距離のファンネル攻撃が可能となっている。

ゲーマルク

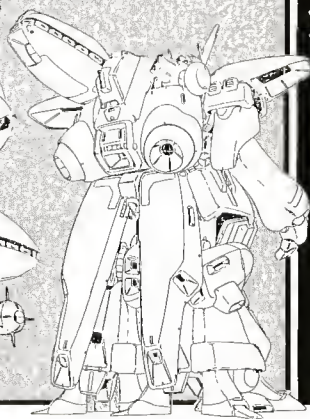


脚部クロー

ビーム・サーベル



マザー・ファンネル



チルド・ファンネル

AMA-01X ジャムル・フィン

開発中のボディーに仮設の首と手足を取付けた可変MA。強力なメカ粒子砲を装備していて、長距離移動時にはメガブースターを装着する。

モビルアーマー形態

メガ・ブースター

メガ・ビーム砲

超長距離巡航用核バルス推進ブースター

メガ・ランチャー

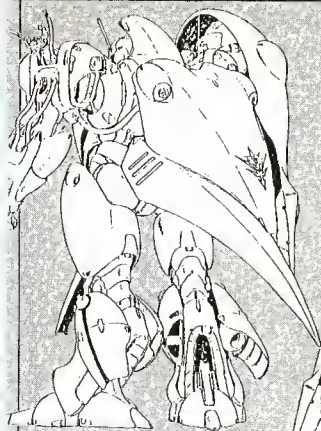
ミサイル・ランチャー

ジャムル・フィン

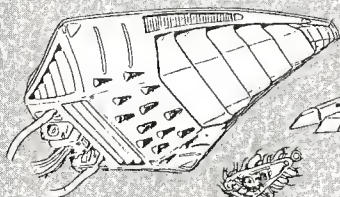
NZ-000

クイン・マンサ

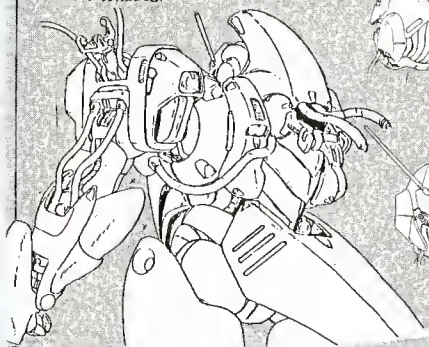
ネオ・ジオン軍最大最強のMS。ハイインターにはメガ粒子偏光機が装備され、ファンネルはAMS-004の約3倍で、頭部は単独飛行可能。



ファンネル・コンテナ



コンテナ分離状態



カメラ・アイ



クイン・マンサ

MSZ-007 量産型Zガンダム

MSZ-006の非
変形型として開発
されたが、計画は
中断された。



FA-178 フルアーマーガンダムMK-II

RX-178の強化
装甲システム。試
作段階で計画が中
断している。



MSZ-006-X1~X3 プロトZガンダム

MSZ-006の試
作機。この時点で
は、可変機構は導
入されていない。



X1 (百式ヘッド型)

X2 (ディアスヘッド型)

X3 (ネモヘッド型)

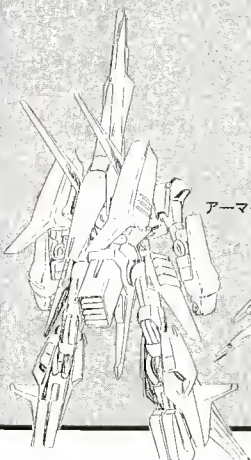
MSF-007 ガンダムMK-III

RX-178をもとに、アナハイム社の技術スタッフが開発した機体。人体の構造に近いムーバブルフレームを採用しているいわゆる発展型。

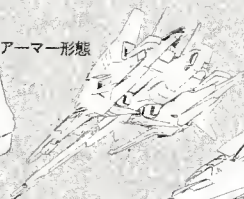


MSZ-008 ZⅡ(ゼツツー)

MSZ-006の発展型。変型機構を単純にして生産性と操縦性が向上している。大気圏突入はできないが、宇宙戦闘機としても優秀である。



アーマー形態



ガンダムMK-III
ゼツツー

MSA-099-2 リック・ディアス改

MSA-099の改良型。バインダーのみならず、各所を大幅に改修している。



MSR-100 百式改

MSN-100の改良機。高機動デバイスを装備し、武装も強化されている。



SE. DJ-1R ディジェSE-R

MSK-008をベースに開発された超高性能機。様々な革新的機能を持つ。



脚部スラスター

MSA-004K

ネモIII

MSA-004の武装強化型。火力、運動性、防御力すべての面で強化がなされている。

MSA-005K

ガンキャノン・ディテクター

MSA-005の変型機構を流用して開発した機体で、地上戦に対応して設計された。

MSA-005S

メタス改

MSA-004の砲撃戦仕様で各部関節も強化。ハイメガキャノンの水平射撃も可能。

ネモIII
メタス改

MS-06Dのパーソナルカスタムタイプで、専用武装も装備している。

シールド・
アーマー



ロングレンジ・ライフル



MS-14の改造機で、砂漠戦の改修がされている。特殊武器アームドバスターを装備。



Jr. MS (ジュニア・モビルスーツ)	80
ジュピトリス	67
スーツキャリア	78
スペースジャバー	78
ゼダンの門	8、64
接触通信	58
全天周囲モニター	38、86
タ行	
タミー	58
チベ改	71
ティターンズ	4、36、64
ドゴス・ギア	66
ドダイ改	78
トリモチ・ランチャー	58
ナ行	
ネェル・アーガマ	69
ネオ・ジオン	12、44
ハ行	
バイオセンサー	58
ハイパー・メカ粒子砲	66
バインダー	58
ハリオ	66
バリュート・システム	88
ファンネル	58
プチ・モビルスーツ	80
ベースジャバー	78
防空戦闘衛星	67
マ行	
ミドル・モビルスーツ	81
ムーバブルフレーム	58
ムサイ改	71
ムラサメ研究所	44
メールシュトローム作戦	10
メガ・バズーカ・ランチャー	79、89
メガライダー	79
メガ・ランチャー	79
モウサ	14、62
MS (モビルスーツ) サポート・システム	78
ラ行	
ラーディッシュ	68
ラビアンローズ	69
リニアシート	36、38、58、86

RX-110	ガブスレイ	20、103
139	ハンプラビ	20、104
160	バイアラン	19、102
178	ガンダムMK-II	15、92
SE・DJ-1R	ディジェSE-R	139
	キャトル	33、
	ゲゼ	34、

兵器&用語

ア行		
アーガマ		4、68
アーマー		48
アクシズ		10、62
アレキサンドリア		66
イジェクション・ポッド		48、90
インコム		76
エウーゴ		4、62
エンドラ		71
オーガスタ研究所		44
カ行		
かくし腕		48、76
可変MA (モビルアーマー)		40、74
可変MS (モビルスーツ)		42
カラバ		7
ガルダ		82
ガンダリウム合金	38、48、	72
強化人間	44、	58
グワダン		70
グワンバン		70
グリプス2	8、	64
グレネイド・ランチャー		58
クローン		58
ゲター		78
コア3		14
サ行		
サイコミュ		58
サダラーン		70
サブ・フライト・システム		78
サラミス改		66
30/バンチ事件		64
Gディフェンサー		
ジオン共和国		60

09H	ドワッジ改	30、131
14D	ディザートゲルググ	34、141
14J	リゲルグ	30、126
MSA-003	ネモ	15、95
004K	ネモIII	25、140
005	メタス	17、97
005K	ガンキャノンディテクター	25、140
005S	メタス改	25、140
099-2	リック・ディアスII	25、139
MSF-007	量産型Zガンダム	23、137
MSK-008	ディジェ	17、95
MSN-100	百式	17、96
MSR-100	百式改	24、139
100S	百式改量産型	24
MSZ-006	Zガンダム	17、98
006-X1	プロトタイプ・Zガンダム	23、137
006-X2	プロトタイプ・Zガンダム	23、137
006-X3	プロトタイプ・Zガンダム	23、137
007	ガンダムMK-III	24、138
008	ゼツソー(ZII)	24、138
010	ZZガンダム	27、114
NRX-044	アッシマー	20、106
055	バウンド・ドッグ	22、107
NZ-000	クイン・マンサ	33、136
ORX-005	ギャプラン	20、105
PMX-000	メッサーラ	21、110
001	パラス・アテネ	21、111
002	ポリノーク・サマーン	21、112
003	ジ・オ	21、112
RGM-79R	GMII	16、94
86R	GMIII	27、127
179	GMII(グリプス製)	16、94
RMS-099	リック・ディアス(MSA-099)	16、94
099B	シュツルム・ディアス	27、127
106	ハイザック	18、100
106CS	ハイザック・カスタム	18、100
108	マラサイ	18、101
117	ガルバルディβ	19、102
119	アイザック	31、128
154	バーザム	19、101
188MD	ザクダイバー	34、141
192M	ザク・マリナー	31、129

索引

INDEX

●「機動戦士Zガンダム」「機動戦士ガンダムZZ」「Z-MSV」「ZZ-MSV」に登場した主要MS・MA、及び主要兵器と主要用語をアルファベット・50音順にまとめました。見出しの単語を選び、記されているページ

数を見て下さい。その単語が解説、あるいは関連する事項がわかるようになっています。なお、MS・MAに関しては、型式番号をアルファベット順に検索できるようになっています。

MS&MA

AMA-01	ジャムル・フィン	32、135
AMX-003	ガザC(MMT-I)	19、113
004	キュベレイ	26、113
004-02	キュベレイ MK-II	26、132
004-G	量産型キュベレイ	26、132
006	ガザD	29、124
008	ガ・ゾウム	29、125
009	ドライセン	30、131
011	ザクIII	32、129
011S	ザクIII改	32、128
014	ドーベン・ウルフ	33、133
015	ゲーマルク	33、134
101	ガルスJ	28、120
102	ズサ	28、121
103	ハンマハンマ	28、120
104	R・ジャジャ	28、122
107	パウ	32、123
109	カプール	31、122
117R	ガズアル	29、126
117L	ガズエル	29、126
FA-178	フルアーマーガンダムMK-II	23、137
010S	フルアーマーZZガンダム	27、118
MRX-009	サイコガンダム	22、108
010	サイコガンダムMK-II	22、109
MS-06D	ディザートザク	31、130
DC	ディザートザク・ロンメルカスタム	34、141
09G	ドワッジ	30、130

機動戦士ガンダム MS大図鑑 PART.2

目次

CONTENTS

「グロブス戦争編」

MS戦史	M.S. War History	4
MS名鑑	M.S. Catalog	15
MS開発史	M.S. Development History	35
MS性能比較	An ability symmetry of M.S.	49
ガンダム・オフィシャル・レポート	GUNDAM Official Report	59
1. 歴史	History	60
2. 宇宙戦艦	Space Battle Ship	66
3. 機動兵器	Mobile Weapon	72
4. MSサポートシステム	M.S.Support System	78
5. ワーカー	Worker	80
6. 宇宙開発	Space Frontier	82
MS操縦マニュアル	M.S. Pilot Manual	85
MS設定資料集	M.S. Design collection	91
MS用語事典	M.S. Glossary	48、58、84
索引	Index	145

■発行日 1989年3月31日初刷

■発行人 山科 誠

■編集人 加藤 智

■発行 株式会社バンダイ

〒111 東京都台東区駒形2-5-4

(営業) 東京都新宿区新宿1-26-6 加藤ビル6F

(営業TEL) 03-5379-1911

1990年3月30日七刷

■印刷・製本 共同印刷株式会社

■編集・構成 伸童舎

■協力 サンライズ

■定価はカバーに表示してあります